

いふことをやつて貰ひたいといふ希望が出、それが新聞等に澤山載つてをります、さういふものを集めますといふと、大體私がお話し申上げようと思つてゐる事が出来上つてしまふのであります。さうすると新聞の切抜を集めて来て御披露するやうになりますので、少しく構想を變へ、さういふことでなくして根本的な統制經濟の方針を言ひますか、目標といふことについてお話し申上げた方がよいのではないかと考へるのであります。

實は阿部内閣が成立しました當時、阿部總理大臣の出された聲明の中に、國防國家體制を強化するといふことが出てをりました。お氣附きの方は、定めし國防國家體制とはどういふものであらうといふことをお考へになつたのではないかと思はれますが、この國防國家體制なるものが本當の統制經濟機構であります。

然るに實際のやり方は、さういふ根本の國防國家體制といふことを少しも考へないで、たゞ足らない品物を餘計拵へようとか、輸入が減つたから内地物をどういふ風にしようとかいふやうな、枝葉末節の問題、目前の問題のみに捉はれて、つまり事柄が起りますとそれを後から追掛けて行くといふやうな事ばかり致しまして、事前に對策を講ずる、所謂先手を打つといふことが少

しも行はれてゐない。これは商工省のお役人の中でも、なぜかういふ事をやるのか、早く先手を打つてやればよいのに、といふ風なことを言つてをる方があります。

これは私共考へまするに、商工當局自身が先手を打つべき筈でありませうが、企劃院でありますとか、色々な機關があるものですから、商工省のお役人さんだけではさういふことも出来ないものでせう。或は日滿ブロック經濟といふことについても、中々面倒でありまして、滿洲政府ばかりでなく、支那には興亞院といふものが昨年出来ましたが、この興亞院が出来ましたために、屋上屋を架し、結局興亞院を拵へるといふことを主張した軍當局の人と興亞院の人が意見が合はないで、スムーズに行く筈で拵へた興亞院が却つて事變處理を遅らせるといふ風なことになつてをるといふことも聞いてをります。何がために興亞院といふものがあるのか、非常に厄介だ、あゝいふものがなければもう少し事變處理がスムーズに行つたのではないかといふ風なことを、私に話した人もあります。

そこで今日の日本の經濟機構をどうする、或は經濟統制をどういふ風に改善強化するかといふことは、結局日本全體の政治と經濟の凡ゆる組立を根本的にどう改善するどう強化するかといふ

問題に入りませんといふと、炭が足りないから炭の配給切符を渡す、米が足りないから米の配給切符をやつて處理したらよからうといふやうな、末節の事では私は解決が附かないと思ふのであります。

さて本題に入りまして、統制經濟に就てありますが、それは項目を四つに分けまして、第一は統制開始の適時性と申しますか、經濟統制を始めるには如何なる時を捉へて始めたらよいかといふ、始める時機の選擇といふ問題であります。第二に統制經濟の目的認識の明確性といふこと、即ち何のために經濟統制をやるのかといふこの目的がはつきり認識されてをらないでは困るから、統制經濟の目的認識の明確性といふことが必要であります。第三には、民需と軍需の同一重要性といふことであります。つまり民需品も軍需品もその間に輕重がある譯ではない、兩方も同じ重要度において取扱はなければならぬといふことでございます。第四は需要供給統制の一貫性、つまりこれは今申しました切符制度なんかの問題に觸れてゐるのであります、この統制開始の適時性、統制目的認識の明確性、軍需品民需品の同一重要性、需給統制の一貫性、この四つがうまく出來れば、私は經濟統制といふものは自然にスムーズに運行されるものと考へてゐるのであります。

あります。

で今日までは統制經濟がうまく行かないといふのは、この四つの點がうまく把握されなかつた、それから又實行に移されなかつたといふために起つたものと私は考へるのであります。今民間の實業家、その他或は家庭方面から非常に非難を受けてをりますこの統制經濟の拙さといふことも、需要供給統制の一貫性に缺けてをるといふその點だけが喧しく言はれてをりまして、他の統制開始の適時性であるとか、目的の明確性であるとか、軍需民需の同一重要性であるとかいふことが、少しも論ぜられてゐない。最近になりまして高橋龜吉君あたりは、軍需、民需の同一重要性に多少觸れてをりますが、それまでは殆どさうした事は論ぜられてゐなかつたのであります。従つて需給統制の一貫性といふこと、これはもう先刻申上げましたやうに、新聞の切抜を集めるとか、皆さん方の仰しやる苦情を全部裏返へして政府が實行すれば、需給統制の一貫性を得るのでありますから、これについてはもう別に私喋々する必要はないと考へるのであります。

統制經濟開始の適時性

そこで題を、統制開始の適時性といふことに移しまして少しお話し申上げたいと思ひます。この統制開始の適時性といふことは、例へば物資の需要供給關係、物價の公定をどうするかといふやうな問題に觸れて來ましてどういふ時にこの統制を開始したらよいかといふのであります。これは何等か事が起つた後に統制を開始したのでは何もならぬのであります。統制を開始するのは、その事變が起る間際、或は事變が起る以前にやらなければならぬのであります。私は丁度あの二、六二事件以後、日本の國情が非常物騒になつて參りました、物騒になつて來たといふのは結局日本の大陸發展といふ問題に關聯して考へるのであります、特に昭和十三年にあの林内閣が出來ました時には、戰時體制に移るべきものであり、本當の純粹の戰時體制の前の、つまり準戰時體制を林内閣はやらうと決心したのであります。

そこでその當時、軍當局に知合がありましたので一、二の方に會ひましてかういふことを進言致しました。つまりかういふ戰時體制を執るといふならば、經濟統制といふことを先づ第一に行はなければならぬ。軍では、例へば馬の問題にしても、日本に假に百萬頭の馬があるとして、その中から二十萬頭徵發することは、僅かに二割であるから容易く出來る、さうしてその時馬が

二百圓の相場をしてをるものならば、それに二百五十圓なり三百圓の代金を與へれば、徵發された者も算盤が合ふからよいではないかと、かういふ考へで馬を徵發されるでせう。併しながら、その馬が例へば輓馬であるとする、荷車に三百圓の札を貼付けても荷車は動かない、馬が輓かなければ動かないのであるから、單に徵發する金高を、馬の數で計算して、さうして代金を少し潤澤に拂つてやればよいやうなものだけでも、二十萬頭の馬を取られると、農家にしろ、或は運送業にしろ、非常に苦しまなければならぬ、そこに民間經濟における破綻といふものゝ一つの小さい穴があくのではないか、これをどういふ風にして補充するかといふことの、研究をしてをるかどうかといふことを尋ねたのであります。すると、いや、さういふことは軍の方では考へてゐない、たゞ徵發すればそれでよいのだから、その徵發する金の數だけ計算してをるのだと、かういふお話であります。それで私は、それはいけないから、是非さういふ研究をされたらどうですかといふことを申上げました。さうして私自身として出來るだけ研究をしたいと、かう考へてゐたのであります。併しかういふ軍の動員關係の事は、到底民間では的確な數字が得られませんで、已むなく中途で挫折してをりますが、軍の方でいけないと云ふので經濟關係の方から當

局に向つて、統制經濟を早くおやりにならなければいけないといふことを進言したのであります。

ところが、この方でも、武田は何を寢言を云つてをるかといふやうな譯で、少しも聞いて頂けなかつたのであります。

實は私が申しました昭和十二年の四、五月頃からこの物資需給調整、即ち需給統制をやつたならば、當時は多少不景氣風が吹いてをつて、物價が安かつた、でその時代に物價の公定値段を決めたならば、品物が潤澤で値段が安いのでありますから、それを少し高い目に公定値段を決め、それで取引されるやうにしたならば、商賣人も喜んで公定價格を遵守し、需給調整に協力したいといふことは私疑はれないと思ふのであります。でその時機を取外さないやうにしなければならぬといふことを申上げたのであります。實は支那事變といふものをその時には考へないで、寧ろ對ソ戰といふものを考へてゐたのであります。而もその後支那事變が始まりました、不擴大主義一點張で行つたために、大規模な統制經濟計畫といふものを、政府は全然考慮に入れてなかつたといふことが言ひ得るのであります。これがつまり今日の經濟統制、需給統制と價格統制が

非常に失敗した原因だと、かやうに考へてゐるのであります。つまり時機の把握といふものを誤つたので、もうその時に今日の失敗といふことが明らかに私には豫想出來たのであります。

統制經濟の目的認識の明確性

それに關聯致しまして、次に申上げたい事は、統制目的認識の明確性といふことであります。統制といふものは一體何のためにやるのだ、今日日本の國民にとつて、經濟統制をやるのは一體何のためにやるのだといふことであります。それは戦争に要する軍需資材を調達するためにやるのだ、とにかく、かういふ風に事變が擴大したからやるのだと言つたのでは、これは丁度泥棒を捉へて繩を縛ふ類でありまして、到底完全なる事が出來ないといふことは、はつきり皆さんも御了解になると思ひます。でこれは私達の研究によりまして、例へば國家を二つに分けて考へる。従來の個人自由主義の國家といふものを、市民的な國家、市民國家といふ名を私假に附けてをります。これは大阪市とか、或は神戸市とかいふ市においては、自治的にやつてをりまして、少しもその間に權力關係といふものが存せない、所謂個人の活動が自由であり、自然その自由活動の

歸着するところに一つの法則が行はれ、それで治まつて行く、かういふ状態が市民國家の状態であり、所謂輿論政治であります。

而してこの市民國家に對立致しまして私は國防國家といふものを考へてゐるのであります。ドイツ、或はイターあたりでは、既に國防國家といふ言葉は數年前から用ひられてをりますが、それは日本の國家機構といふものを全部要塞化する、或は日滿支を打つて一丸として一つの要塞化するといふことであります。さういふ觀點はどういふ所から出るかと申しますと、例へば戰爭を致します、ところが、今日の戰爭は非常に下手な戰爭をやつてをるのではないかといふことが、私は忌憚なく言ひ得るのではないかと思ふ。例へば個人が喧嘩をするにしても、男女川が私に喧嘩を吹つ掛けて來ても、初めから負けるに決つてゐるから、私はどん／＼逃げて相手にしない。双葉山と私が喧嘩をする、双葉山が私に負けるやうな恰好をしてどん／＼逃げて行つても、私はこれを追つ掛けるといふやうな馬鹿なことはいない積りであります。ところが、今日の日本と支那との戰爭においては、表には支那といふ弱い國が立つてをりますが、御承知の通り、裏には英佛米、或はソ聯といふものが附いてをるといふことは、初めから分つてをるのであります。これ

らの大きな國を相手にして事をなすとするならば、日本の國家といふものを非常に強力なものにして置かなければならない。それを強力にしますのが、即ち國防國家體制といふものであります。

譬へて申しますと、日本が出し得る兵力の最大限を假に三百萬なら三百萬と假定致します。この三百萬の兵隊を完全に動かしてさうして、國內の經濟も搖がぬやうにして、一年間戰爭するにはどれだけの準備が要るか、といふやうな計算をして見る。さうして三百萬の軍隊を動かして一年間とても持ちこたへることが出来ないとする、これを二百萬にしたらどうだらう、百萬にしたらどうだらうかといふ計算をする。或は五十萬の軍隊を動かすといふ場合においては、日本の現在の國力ならば何分の一の犠牲で済むだらうと、かういふ計算を立て、見るのであります。即ち日本の作戦動員基本數といふものを、或は三十萬、五十萬、百萬、百五十萬、二百萬、三百萬といふやうな、各段階について計畫を立て、見ます。さうしてその各段階によつて何年間の戰爭を行ひ得るかといふ計算を立て、見るのであります。さうしてもし外國と事を構へます時には、例へば百萬の軍を動かして五年持ちこたへることが出来るといふならば、相手國の力を測つて見

て、さうして百萬の軍を動かして五年間でやれるだけの戦争ならばやつて行かう、さうでなければ戦争は一切やらないといふ、かういふことに國策が生れて来るのではないか、然るに從來の國策は、國家の力といふものがどれだけ出し得るかといふことも考へないで、相手方の兵力によつて軍を動かしてをる、そこに私は非常に日本の軍の動かし方に無理があるのではないかと思ふのであります。

そこでさういふ風につまり計算を立て、一つの基礎によりまして、それから日本の國が例へば百萬の軍隊を動かして五年持ちこたへられるとするならば、これを二百萬の軍隊を動かして五年持ちこたへられるやうにするには、どういふ風にしたらよいかと、そこに所謂生産力擴充を如何にすべきか、外國貿易を如何すべきかといふことの計が初めて出て來ると思ひます。今までの生産力擴充は、やれ鐵砲彈が足りないからうんと殖やさなければならぬといつて殖やしました。併し幾らまで殖やしたらよいか分らない、徐州戦ではこのくらゐの程度であつたと言つてをつても、ノモハン戦になつて來ると、從來の計畫はまるつきり駄目だといふことになる。所謂最大限に要る状態において計算をしないで置くといふことが一番いけない。つまり日本の國力に破綻を

來さないで何年間、どれだけ戦争が出来るかといふ、その最大限の國家體制を立てる、そのためには經濟機構をかういふ風にしよう、政治機構をかういふ風にしようといふことが、所謂國防國家體制の研究題目になるのであります。

國民の體位向上を如何にすべきか

それを搔摘んで申しますと、かういふことであります。例へば厚生省が出來まして、國民の體位向上といふことが言はれてをりますが、この國民の體位向上をどういふ程度にやるかといふことであります。例へば銀行、會社で、算盤、或はペンの如き軽いものしか持たない、それ以上の重いものを持たないやうな人々の體位向上であれば、それはもう六甲山のハイキングぐらゐをやつてをればよい。併し支那大陸に渡り、或は滿洲に渡りまして、重い武装をして一日に十里も二十里も歩かなければならぬといふことを考へます場合における國民の體位向上は、よほどそれと趣が違ふのではないかと思ふのであります。だからして今、厚生省がやつてゐる國民體位向上の目標は、どこにあるか、何もない、たゞ丈夫になればよいといつても、どのくらゐの程度に丈夫

になればよいといふことが少しも出てゐない。それは國家體制の目的に、何處へ行つて戦争しても負けないやうな國民を拵へて置くといふ目標がないから、體位の向上もちぐはぐになつてしまふ。たゞお題目ばかりになり、事實がそれに副はないことになつてゐるのではないかと思ふのであります。

私は曾てかういふ提案をしたことがあります。最近兵種に第三乙が出来たのは、或はさういふ關係からではないかと考へるのでありますが、國民教育の状態を見ますに、從來小學校を卒業するのが十四歳、高等小學を出るのが十六歳、それから後はどうなつてゐるかと思はすと、地方の農村におきましては、このまゝ所謂若い衆になつてしまつて、徳性といふものが非常に缺けて來ます。酒を飲んだり、色々悪い事を覺える、適齡になつて兵隊に行つても、除隊になると又元通りの生活をする。それが一旦戦争になつて召集されたといふ場合に、今次事變の當初に色々非難を聞きましたやうな事は、あれは事實無根と思ひます。さういふ非難が假にも起つたとしたら大變なことで、さうしたことが軍隊にあつてはならぬのであります。さういふ杞憂もしなければならぬといふのは、今日の國民教育において非常な缺陷があるのではないか。さうすると、國

民教育といふものは、少くとも兵隊に這入るまで總てに規律正しい教育を國民に施して、さうして兵營に入れる、兵營から出て來る時はもう相當の年輩であるから、ずつと續いて國家的意識の下に行動するやうな國民を養成して置いたならば、これが一旦緩急ある場合に銃を執つて大陸に生ましても、非常に高潔なる行動をして、何等非難を受けないやうな好結果を得るんではないかと考へるのであります。さういふ點が今日の國民教育の上には現はれてゐないやうに私は思ふのであります。

そこで體位向上の問題に戻りますが、これはたゞハイキングをやれ、或は工場で労働してをります者を引つ張り出してテニスなどやらせたりなどとすると、益々疲勞して體位が却つて退歩するのではないかと思ひます。で私の思ひますのに、國民の體位を向上せしめるには何もそんな獎勵をしなくとも、自然に軍隊の力を強くせしむると同時に、國民の體位を向上せしむる方法があると思ふのであります。それはもう適齡に達しますと、男子は全部一ぺん兵隊に入れてしまふ、これは甲乙丙丁でもよろしい、第一、第二、第三、第四乙でもよい、かういふ風に分けて兵隊に入れる。さうして例へば甲種は餘程きつい訓練をしても身體がそれに耐へるのであるから、これ

は一年で除隊さす。在營期間を一年とする、それから段々身體が悪くなるに従つて、乙種は二年兵隊に置く、丙種は三年置く、丁種は四年も五年も置いて身體を丈夫に鍛へると、かういふ風にしたらば、兵隊に遣入つてうちの子供が三年も四年も引つ張られては困るから、うんと丈夫なものにして置かう、甲種になつて一年で歸れるやうにして置かうといふので、みんな一生懸命子供の健康増進に努力する、つまりこれはたゞ取つて見て悪いから何とか良くしようといふのではなくて、戰鬥力の向上と國民體位向上とが同時に出来るのではないか。もし今日までかういふ體制が我國に出来上つてを、國民が火の玉の如くなつて大陸に飛出して行くといふ氣魄に満ちてをつたならば、蔣介石もよもや今日の事變を惹起さなかつた、英米佛も手を引いたゞらうと思ふのであります。それで今度の戰爭を機會にして蔣介石が下野するとかそんなことはどうでもよいから、大陸をつまり青年體位向上の道場と考へ、どうせ大陸各地には軍を駐屯させるのであるから、さういふ所へ青年を送つて今申した制度でどん／＼國民の體力を養成して行つたらよい、これは今からでも遅くないと考へてゐるものであります。

國防國家體制に立遅れた日本

それから又軍需工場でございますが、今日のやうな所謂科學戰、或は機械戰、さういふ戰爭をやりますにはどうしたらよいかといふことはもうちやんと分つてをる筈であります。それならば今俄に高等工業學校を増設する、政府は金が足りないので寄附金を集めてやると、そんな馬鹿なことをしないでよいのではないか。又最近ではお醫者さんが非常に不足してをる、醫學校に入學する希望者が減つてをるといふことであるが、このまゝ行くと五年、十年後には一層お醫者さんの不足が顯著になるのではないか、かういふ點は、やはり、大陸で戰爭しなければならぬ將來を考へますれば、相當注意をして、工業學校ばかり建て、そこに生徒を集めず、同時に他の方面の人も養成して置くといふことにしなければならぬ。單に個人の營利心と申しますか、時流に乗つて立身出世をしたいといふ立場からの個人的な判斷に委して置くといふことは、非常な危険であると考へるのであります。

色々かういふことを考へ参りますと、日本が今やつてをりますことは、危かしくは實にはら

くするやうな状態であります。ドイツはさういふ點につきましては非常に優れてをります。尤もこれは、ドイツといふ國は一度破綻しまして、さうして再び昔日のゲルマン帝國を建てたいといふ氣分に燃えてをりますために、内容を見ますと、非常にその點がうまく行つてをることが領けるのでありますが、皆さんがまさかと思つてゐるイギリスにおいてすら、この點は日本よりもうまく行つてをるのであります。イギリスは今度の事變が起ります二年前に、既に國防計畫を樹立しました。フランスと打合せまして、完全なる對獨作戰を拵へてをります。又英國皇帝がアメリカへ行かれました、あれはカナダ旅行の延長となつてをりますが本當の目的は米國にある。米國に行かれてアンダースタンディング（諒解）を得てをられるといふことであります。英國のナショナル・デフェンス（國防）といふものは、日本のこの事變が起る前のやうな迂濶なことは少しもしてゐないのであります。

又ドイツとかイタリーとかいふ國は、非常な軍國主義の國であるが、イギリスはさうでないやうにお考へになつてゐる人が多いと思ひます。しかし私達の研究によりますと、今日よく言はれてをります國家總力戰、これを世界で一番最初に行つたものはイギリスであります。さうしてそ

のやり方が非常に巧妙であつたといふことが發見されたのであります。國防國家體制において私達の希望しますところは、所謂總力戰體制といふものを完備するといふことであります。それはつまり思想と、經濟と、武力と、政治と、學問この五つの戰爭を完全に綜合運營するやうな國家體制が即ち國防國家體制であり、さうしてそれが實際に運用されたものが總力戰といふ形において現れるのであります。

これについてイギリスはどういふことをやつたかと言ふと、例へば私達經濟學をやつてをります者は、アダムスミスは個人自由主義、自由貿易主義を唱へた、彼の説は國家主義でない、かやうに言つてをるが、よく研究してみると、アダムスミスこそ一番の國家主義者であります。なぜならば、當時のイギリスは産業革命により非常に生産力が増して來つゝあつた。これを世界市場を相手にしてイギリスが産業革命によつて非常に生産力が増して來た爲に増産された商品をば賣捌いてイギリスの商權を世界に擴めるには、どうしたらよいかといふと、自由貿易主義を唱へ世界各國の關稅障壁を低めさせ、さうしてイギリスの商品がそこに侵入して行くといふやり方が一番よい。そこでその政策を理論的にアダムスミスは説いたのであります。それを日本の學者が

讀んで、アダムスミスは自由貿易主義者である、個人主義者である、といふ風に考へてをるのは大きな間違であつて、つまりアダムスミスの學說が全世界の學者、思想界といふものを風靡した、そのためにイギリスが世界における經濟權力を把握し得たのでありますから、彼こそ本當の國家主義者であるといふべきであります。ドイツにおきましては例のフリードリッヒ・リストが生まれて、國家主義的經濟學說を立てた。これがドイツ國民を思想的に動員して、今日のドイツをなしてをるやうに思ふのであります。

國民思想の動員と國家總力戰の眞諦

従つて學問及び思想といふ問題については、よほど考を致さなければならぬのであります。實は武力とか經濟力とかいふものよりも、私は今日は科學（社會科學、自然科學の兩方を意味する）と、思想の問題が一番大切ではないかと思ふ。私は昭和十二年の春、大阪商工會議所の月報に、國民思想の動員といふものをやらなければならぬ、統制經濟を行ふならば、思想の動員といふものが先づ第一に必要であるといふことを書き、さうしてこれを右翼團體の方面へ配付した

ことがあります。なほそれ以前にやはり右翼團體の人を私に紹介する人がありまして、右翼團體の經濟論も一ぺん研究して見たらどうかといふことであつたので、右翼團體の偉い方にお目にかゝつたのですが、そのとき、右翼團體の方々にもそれを上げました。その結果、國民思想の動員計畫が行はれるやうになつたのでありまして、今日の國民精神總動員聯盟の濫觴がそこにあるのであります。

尤もこの思想と言ひましても、今日ではどちらかといふと、敬神崇祖の念を鼓吹するだけでありまして、經濟問題に少しも觸れてゐない。ですから私は商工會議所の月報に書いて置きました。所謂國民精神總動員といふものは經濟思想の動員であつて、經濟思想を國家主義化しなければならぬ、もしそれをうつちやつて置いて統制制經をやれば、闇取引、闇相場が必ず起るといふことを書いて置きましたが、果してその通りで、闇相場、闇取引が今日行はれてをります。

併しながら、何としてもこの思想戦といふものが私は一番大事な問題ではないかと思ひます。例へば平沼内閣が倒壊しまするときでありますとか、或はそれから後においても、ドイツを誹謗して日本を英國の陣營に、又は英米の陣營に引入れようとした英國の策謀は非常なものであります。

した。例の五百萬磅の金を持つて來たか持つて來ないか、その事實は存じませんが、とにかく大變なものであります。或は右翼の者達に會はせよとかいふやうな要求もあつたといふことであります。つまり英國はもうあらゆる手段を盡して、日本の排英思想を親英に轉換せしめやうとしてゐたのであります。日本はイギリス、アメリカあたりに対して、どういふ思想戦をやつてをたかと言ふと、何らの思想戦をやつてゐない。つまり蔣介石宋美齡がアメリカの同情を得たといふのは、結局その思想戦宣傳がうまくつたからであります。思想戦の戦略がうまくつたといふことに歸着すると思ふのであります。

一面において日本には澤山偉い學者がありますが、これは少しも時局に協力してゐない。そこで所謂國家主義的學問、或は皇道主義と言ひますか、日本主義的學問を立て、これを世界に教へ擴めて行くならば、世界各國の學者が日本の主張といふものを認めて來て、そこに一つの科學戰學問戦において日本が優位に立つのであります。或は政治、外交においても、これは言ふまでもないことであります。

かういふ風な五つの戦争を完全に行ふ上においてその中心となるものは何かと言ふと、それは

武力であります、その武力といふものを、今申しましたやうな國民體位の向上その他の問題、或は生産力擴充問題等に關聯せしめまして、さうして本當につまり日本を要塞化する、そこまで行かなければ日本が世界に處する途を發見出來ないのではないか、さういふことにして初めて私は今次事變の收拾が出来るのではないか、英米佛その他ソ聯が日本に親善の手を伸べて來るとすれば、日本はさういふ體制を完成したときにおいて初めてそれに應ぜられるのではないかと、かやうに私は考へてゐるのであります。

軍需と民需の同一重要性

それから次は軍需と民需の同一性といふこと、これは先に申しました統制開始の適時性、並に今申しました所謂國家總力戦といふものに關係する極めて重要な事柄であります。然るにです國家總力戦と言ひますれば、この中には今言ふやうに、經濟戦も這入つてゐるのであります、ところが日本では、經濟戦と言ふとたゞ貿易のみが經濟戦であつて、國內經濟の整備といふことが經濟戦に這入らないといふやうに皆が考へてゐたのであります。しかしドイツが第一次ヨーロッパ

ツバ大戦に敗れましたのは、ドイツ國內の所謂民間經濟の破綻と、その思想崩壊といふものが、ドイツが敗戦した第一の原因であります。例のノースクリツフ卿は、英國は思想戦に勝つたと言つてをります。又ドイツの兵士は、戦線よりパンを家庭に向けて送り返したといふことであります。これらはドイツの國民經濟生活、所謂民需方面における經濟生活の破綻といふことを、明らかに物語つてをります。

故に總力戰體制を立て、行きます場合においては、どうしても軍需と民需を一緒にし、さうして兩方とも同じやうな重要性において取扱はなければならない、さうしますれば、最近のやうに炭が足りない、石炭が足りない、マツチが足りない。といふやうなことが、なくて濟んだらうと思ふ。この日本における物資不足の宣傳といふものは、重慶政府を初め、英米あたりには非常に大きく報道されてをります。従つて蔣介石のみならず英米その他においては、もう少し待てば日本は破壊するだらうといふ豫想の下に動いてをるやうに私には察せられるのであります。つまりアメリカとの間に日米通商條約問題がうまく解決されないといふことも、結局は日本の弱腰を見て、アメリカがずる／＼と引延ばしてをるのだらう。日本がもし強ければ直ちにこの問題は解決

すると思ふのであります。

かやうに考へて参りますと、結局先刻來繰返し申しましたやうに、つまり今日喧しく言はれてをるところの、マツチの足らないのは不都合だ、買溜めをしてはいけないとかいふことは、結局枝葉末節の問題で、根本が決つてゐないからさういふ末節に破綻が起るのではないかと思ふのであります。丁度それは人間の身體に譬へて見ますと、栄養不良のために手がかさ／＼になつてしまつた。それに對してリスリンやワセリンを塗つたりしてゐるのが今の日本のやつてゐる統制經濟であります。これでは決して皮膚は良くならない、栄養物をどん／＼喰べれば、健全な光澤のある皮膚が出来るに拘らず、喰べるものを喰べずに置いて、さうして幾らリスリンやワセリンを塗りましても、決して手は綺麗になりません。所謂婦人の健康美にしましても、白粉を塗つて綺麗にするのではなく、栄養満點の健康體になつて、そこに本當の美人が生れる、それと同じことだと思ふのであります。

今度米内内閣が出来て、どういふ政策を行ふか私には一向分りませんが、有力なる皆さん方としましては、今私が申上げましたやうな事柄を、よく政府に吹込んで頂いて、さうして政府を鞭

據してこの原則に従ふところの經濟統制をやらせましたならば、私は直ちに統制經濟の改善強化が出来るのではないかと、かういふ風に考へてをります。

國防と理想國家體制への途

で茲で經濟統制に關聯して申し上げますことは、國防國家と言ひますものを、阿部内閣が唱へましたあのスローガンを、今度の米内内閣は必ず私踏襲すると思ひますので、その體制を先に申しましたやうな常識的でなく、もう少しこれを科學的に定義的に述べまして、皆さんの御理解を得たいと思ひます。

國防といふことはどういふことか一體國防國家などといふことを言ふと、日本は非常に侵略主義國のやうに思はれて、不利益になるのではないかとかやうにお考へになる方もあるでせうが、さうではなくして、私達の考へます國防國家といふものは、一つの政治であります。日本の本當の政治をかういふ風にして行かなければならないといふ意味が籠つてゐるのであります。即ち日本は一つの八紘一宇の理想を實現して、所謂理想國家と申しますか、さういふ段階にまで日本の

國を發展せしめる、その一つ手前の段階が國防國家であります。國防國家體制が完備されて八紘一宇の理想が實現され、そこに日本といふものが理想國家となつて來る、かういふ目標から言つてをるのであります。決してローマンチズムでないのでありまして、實際にこれをやつて行かうといふのであります。

そこで國防とはどういふことかと言ひますと、これは武力を中核にして、國家の存在と發展に必要な凡ゆる人的並に物的手段を動員し、國家を最高發展階段にまで導いて行く國家經營方法が國防である、かういふ風に私は論ずるのであります。所謂今日の日本を東亞の本當の盟主たらしめ、或は世界の指導的國家にしますためには、所謂總力戰的に人的、物的の凡ゆる手段を動員し、さうして國家をそこへ持つて行かうといふのであつて、決して他國を侵略するとか何とかいふやうな意味のものではないのであります。即ち國防の意味は武力を中核として國家の有つてゐる總力を統合動員し國家を理想國家にまで持つて行くといふことであります。かういふ風に論ずるのであります、この意味においては別に英米その他から非難されることは少しもないと思ふのであります。

それではなぜ武力を中核にするかといふ問題がそこに起るのであります。一國が一番危急存亡のときに立ちますのが所謂戦争であります。例へば日本に赤化思想が浸潤した場合は、國家は非常に危殆に瀕するといふことを言ひますが、思想には思想を以つて對抗することが出來ます。しかし今日のやうな總力戦時代、戦争をやつてをるところへ、外國の思想戦が來る、經濟戦が來るといふことになる、一番金の掛かりますのは武力戦であります。この武力戦に負けないうやうにするため、それを中心にして物事を考へて行くが、これは軍至上主義といふやうな考へ方ではなくして、先ほど申したやうに皆兵制度を布いて、本當の國民皆兵にする、つまり私の申しますのは、男子は總て兵隊になるといふ國民皆兵制度、これをやつて行きますれば、もう國民の體力、智力といふものはそのまゝ武力になるのであります。國內の生産力そのものが、直ちに武力になるのでありますから、決して武力と言つても、鐵砲かついで走るといふことのみを意味してをる譯ではないのであります。

それでは理想國家といふものについてお前はどういふ考へを有つてをるかといふ御質問があると思ひます。私は理想國家といふものは、これを經濟的に申しますれば、自給自足の出來る國で

あります。他國のお世話にならないで、自給自足が或程度出來て行ける國であります。さうして他國と通商貿易をする場合には、つまり自給自足をしてその剩つた物で他國と通商する、かういふ徹底したところまで行く。それから又思想的にも國民が統一され、政治的にも國民が統一されて、さうしてそこに持つてをります武力といふものが、これは他國を侵略するのではない、所謂不可侵不脅威の武力、それを保有してをるといふ、そのやうな状態において國家を運営して行くその組織化したものが、所謂國家總力戦體制を有つところの國防國家、延いて理想國家であるといふことになるのであります。

そこでかういふやうな國家に日本を仕上げよう、つまりさういふ國家に日本を仕上げるために皆一つ協力しようではないかといふことを、國民に懇へますならば、國民は心から經濟統制に協力するのではないか。つまりかういふ國家にするためには、皆がその一翼となつて經濟統制をやらなければならぬのだから、皆協力してくれといふことをよく説明して、國民に政府が懇へるべきだと私は思ひます。それをさういふことを何も説明せずに、ただ國防國家體制を整へるといふことだけを首相の聲明の中に謳ひましても、國民が國防國家といふものが分らないから、政府

のいふ通り協力しようとしなないのではないかと思ひます。従つて今日の政府の執るべき方針は、國防國家の意味を根本的に國民に理解させるといふことであります。

さうして今後經濟統制を改善して行くといふ場合におきましては、初めに申しましたやうに、改正の適時性といふことを見る必要があると思ひます。つまり米の相場を上げるとか、或は煙草の値段を上げるとかいふやうな場合にも、その時機を捉へる、前青木大藏大臣は、あの煙草の値は税金だから上げるのが當り前だと言つてをりましたが、あゝいふやり方はいけない。つまり物事を総合的に、何時値段を上げたらよいか、何時下げたらよいかといふことを少しも考へないでただ目前の租稅技術といふやうな點からのみやるといふことは一番いけない。煙草の値を上げて評判が悪いので、鹽の値段を一錢下げたが、そのことは既に遅いのであります。でありますから、どうかさういふ総合的な國家といふものを一つ考へてやつて行く、でなければ、本當に時局の收拾はうまく行かないのであります。下手な者が碁を打つとあつちこつちへ石を打つても、少しも目にならない、皆死んで行く。支那において日本は方々取つてをりますけれども、それはただ石を置いてをるだけで、占領地域がちつとも目になつてゐない。蒙疆、北支とかは僅かに目に

なつてをりますけれども、その他においては殆んど目になつてゐない。これなんかも、然るべき目標を定めて、どういふところに力を入れて行けばよいかといふことの成算がなくして、ただ行きざりにやつてをるに過ぎないと思ふのであります。(昭和十五年一月武庫川俱樂部講演速記)

二十一 經濟統制改善強化の根本策の提唱

統制方策樹立の根本目標としての國防國家體制

昭和十三年以來實行されたる我國經濟統制は、我國の希望する不擴大主義に反して實際に於て無限の擴大性を有する支那事變に伴つて餘儀なくされた無組織的なる統制に墮し、全く其の日暮しの末梢的な手法の域を脱するを得なかつた。之は一に軍官民共に今次事變の深刻性を洞察して其の收拾に對する目的を樹つる能はず英米佛蘇の術中に陥つた爲であつた。斯かる過失は、我國の國家體制を如何に在らしむるかの根本的研究が缺如してゐたところに、原因するものであつて、今に於て若し國防國家體制完遂の努力を缺くならば、我國の存在は根底より脅かさるゝであ

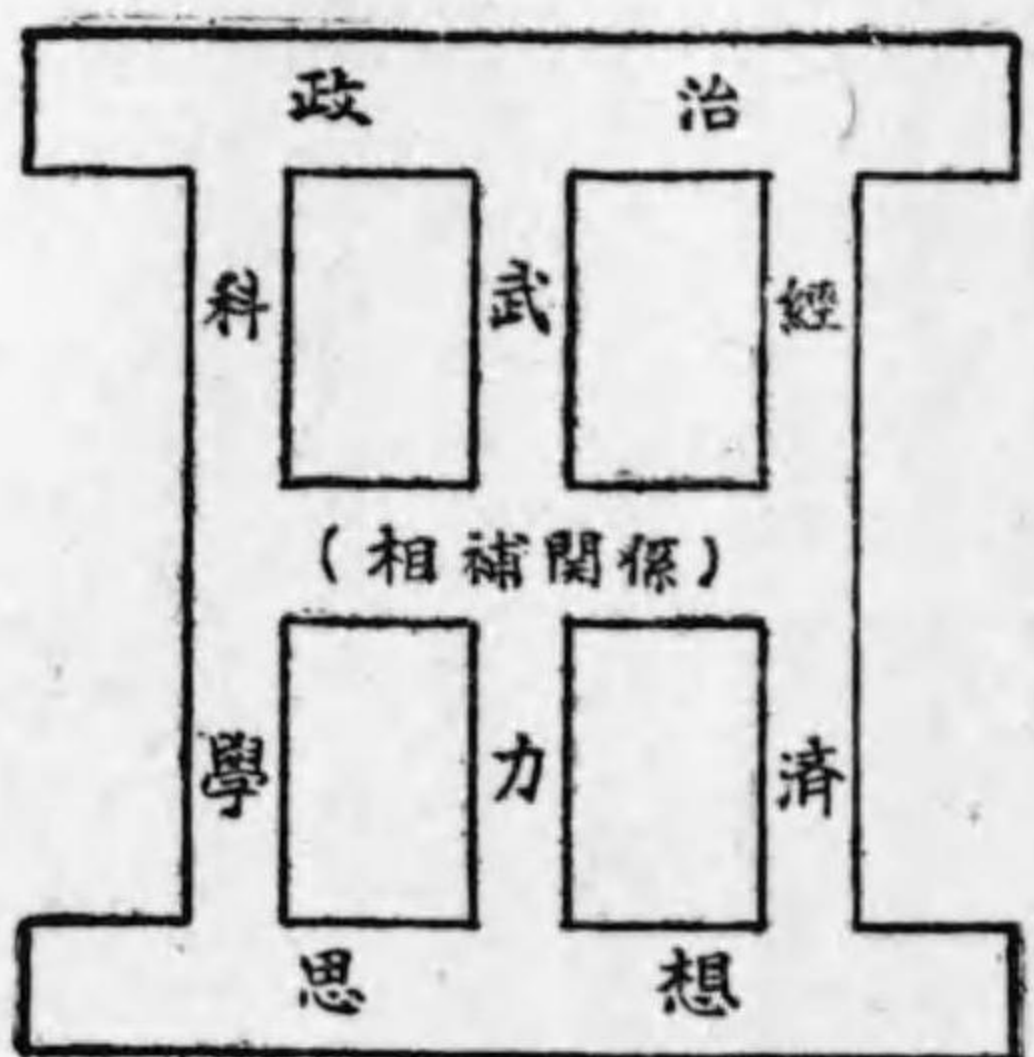
らう。

國防國家とは、國家の有する總力を國防目的達成の爲、綜合統營する如く組織化されたる國家を意味するものである。即ち國防は單に軍備を意味するものに非ずして武力を中核に國家の存立と發展に必要な人的竝に物的手段を動員して國家を最高次の發展階段に導く國家統營の方法を意味するものなるを以て、換言すれば、國防とは國家の有する總力を武力を中心に統合動員して國家を理想國家にまで達せしむる爲に爲す國家統營の最高度の方法を意味するものであるが故に、而して又斯かる總力戰的國家體制を常に保持することによつてのみ今日の世界に處し得るものなるを以て、我國に於て行はるべき經濟統制も亦斯かる國防國家體制の完遂を目標として行はるべきものである。かゝる根本義を忘却したる末梢的統制方法は速に一擲して根本的なる統制經濟組織の成就に向つて邁進せねばならない。

國防國家に於ける國防總力の構造

國家の有する國防總力を分析して之を(イ)武力的能力(ロ)經濟的能力(ハ)政治的能力、

(ニ)科學的能力、(ホ)思想的能力、の五種能力とすれば、之を如何に統合運營するか、總力國防完遂の如何に係る課題となるものである。即ち、之等の五種の能力が完全に統合的に協力する時、其處に國防國家運營の理想的形態が見出さるゝことは多くの説明を要せずして明らかである。然しながら之等の能力を如何なる構造に於て統合運營すべきかは、今後の研究に俟たねばならない。私はこの五種の能力を、上に記するが如き相補的關係に於て組織化するならば完全なる總力國防體制を成就し得るものと信ずるのである。即ち、



上記の圖式に就て見る如く、國防總力の統合に當つて、其の基礎を爲すものは思想である。即ち、我國民全部の思想が所謂皇道精神乃至日本主義に統一され得たとするならば、其の基礎の上に樹てられたる武力編成、經濟機構、政治機構又は科學の進むべき方向は自ら歸一するところを容易に發見する筈である。例へば經濟統制法令の違反者を出すが如き、或

は大學教授が思想の故を以て教壇より逐はるゝ如き、悲しむべき事態の發生を見ることなきを得たであらう。我國に於て經濟統制の完遂を期し得ざる如く見ゆるは、國民の經濟思想が、所謂皇道精神乃至日本主義の方向に、完全に動員され得ずして、中道に彷徨せるが故である。將來經濟統制の完遂を期するならば、先づ國民思想の統一に全力を注ぎ、軍官民の間に思想的背反の生ぜざる如く爲すべきである。

政治は統一されたる國民思想の基礎を得て始めて完全に遂行され得るものであつて、思想の統一なき所に於て政治の安定を期するは木に倚つて魚を求むるの類である。之は國內政治に就てあるが、對外的政治戰即ち外交に於ても、國民の思想的統一ある支援なくして、如何にして勝者たり得るであらうか。同様のことが、國家經濟機構の整備並に國際場裡に於ける經濟戰の勝者たらんとする場合にも、言ひ得るであらう。殊に目下の如く經濟統制の破綻に瀕せる我國に於ては個人主義的營利思想を撲滅し、國民相互の精神を振作して、經濟人をして一意國家の經濟方針に協力せしむべきである。從來往々にして見るが如き、國家的利益を標榜して私利を逞しくし或は過去に於ける自己の經濟的優位を利用して、今次事變下の經濟非常時に當つて、弱者を虐げ自己

の地歩を強化せんとするが如き企を爲す者には之に極刑を加へて膺懲し、以て經濟人の眞面目なる國家的行動を要請すべきである。

統制經濟に於ける資本主義組織改革の限界

我國に於て數年前より宣傳されたる革新經濟政策として、吾人に提示されたる資本主義經濟組織改革に關する諸案を見るに、全く現實を無視せる或は人類の基本的經濟的要求を無視せる如きユートピア的迷論は兎に角として、現實に即せる諸改革論について見るに、其の多くは資本主義經濟機構を保存しながら其の短所として從來より常識的に指摘されつゝある諸缺點を是正せんとするものゝ如くである。現在獨逸、伊太利に於て行はれつゝある經濟統制組織も亦、かゝる修正資本主義組織に外ならない。従つて今後に行はるゝ我國の經濟統制も亦、修正資本主義の範圍を出でざるものと信せらる。然らば修正すべき諸點は如何なる諸事項であらうか。

第一に考へられる修正事項は、左翼學派に依て指摘する勞働搾取説に關聯する中間商人排除の問題である。

マルクスの説く所に従へば、利潤は労働搾取の果實であると爲すも同一産業部門内に於て労働者をより多く優遇する優秀企業の利潤が労働者を酷使して尙優良なる成績を挙げ得ざる劣等企業の利潤に數倍する實例に依つて、利潤は彼の言ふ如く、労働搾取に依つて生ずるものに非ざるは明らかである。従つてマルクス學說に據つて、物資の中間配給機構を形成する商人の得る利潤は労働搾取の果實の分與に與かるとなす説は眞理に非ずして、物資配給の使命を果す其の労働に對する報酬として、當然與へらるべきものである。又生産者より消費者へ直接物資の配給を爲すことに依つて、消費者の利益を擁護し得と主張する者あるも、彼の軍隊に於ける各兵種による分業が、如何に軍隊の戦闘能力を高めるかに想到するならば、専門の配給業務を掌る商人をして、配給業務に従事せしむることが、反つて生産者及消費者の利便を増進するものであつて、物資流通の圓滑化を促進する上に多大の貢獻を爲すものである。従つて中間商人排除の考へ方は、(左翼思想を排撃する限り)撤回さるべきものと信ずる。

第二に考へらるべきは、配給機構の單純化する觀點よりする中間商人排除の問題である。

前述せる如く今日の複雑なる配給機構は無統制なる自由主義經濟から生れ出でたるものと見做し得れ共、夫れは一面的觀察であつて、他面より之を仔細に検討するに、國民の生産力の増加に伴ひ生産品の種類と數量が益々増加したると、交通運輸の發達に伴ひ、遠隔の地との交易を必要とする爲、生産者並に消費者共に中間配給者の介入を必要とするに至つた結果であつて、之を排除することによつて生ずる生産者及消費者にとつての損失額は、中間商人の收得する利潤を遙に越へるものがあるであらう。

之に加ふるに、中間商人を排除することによつて生ずる失業者を、如何にして救済するかの方法に到つては、中間商人排除論者と雖も何等有效適切なる方策を有してゐない様である。假に之を社會政策的方法によつて救済すべしと主張する者あるも、或る種の經濟政策の實施によつて、社會政策的救済を必要とする失業者の問題を惹起せしむるは、經濟政策の貧困を表明する結果となり、かゝる經濟政策を、實施する政治家は、政治家たるの資格なきものと斷せざるを得ない。又社會政策による救済を斥けて、他の業種への轉換により或る業種の失業を救済せんと企つるも、

之を我國の現狀に照し觀て、各方面とも資材の供給に不足を來し操業短縮に悩める際に於て、如何にして他業への轉換が可能であるか。況や總べての業務に於て相當の熟練性が要求さるゝ場合に於てをや。

第三に考ふべき事項は利潤制限の問題である。

既述の如く利潤は、勞働搾取の結果に非ずして、私の研究によれば夫れは、多くの場合利潤の一部は需要者搾取に依つて生ずるものである。従つて或る程度の利潤制限は、かゝる搾取部分の修正方法として是認さるべきであるが、併し或る程度の収入を確保せしめる事は、企業の安全を保證し、延いて國民生活の安定を確保するに絶対に必要である。勿論、業種により利潤率に相違あるべきは當然であるが、これを妥當なる點に於て決定するには、夫々の業態に應じて定むべきであり、而も政府が利潤率の決定を爲す場合に於ては、巨大資本に有利にして、中小業者に不利なる如き決定を爲すべからざるは、言ふを俟たざるところである。

第四に考ふべき事項は、巨大資本による獨占化排撃である。

従來我國に於て政府の採り來りたる重要産業統制法並に組合法による統制政策は、巨大資本に

よる獨占を排撃し、中小産業擁護を目標とするものであつた。然るに今次事變に入つてより、中道にして、全般的自由競争による弱肉強食よりも一層苛酷なる弱肉強食的自由競争を、或る限られたる商工業の部に於て演ぜしめ、政府が法の力を以て殊更に巨大資本の獨占化を促進したる事實を目撃する。かゝる政策は中間商人排除によつて失業者を生ぜしめ、國防總力構造に龜裂を生ぜしめると同様に、貧富の懸隔を大にし、銃後國民の階層に脆弱なる部分を生ぜしめる危険を招來するものである。従つて、經濟統制の行はるゝ所、そこに部分的自由競争を許すことは、甚だしき罪惡と言はねばならぬ。

總力國防に於ける軍需品と民需品の同一重要性

並に價格統制と需給統制の一貫性

國防國家體制の完成を目標とする經濟統制は、國家の總力を同時に過不足なく綜合し動員することを唯一の任務とするものなるを以て、軍需品の調達と民需品の調達との間に、輕重を附け、戦線と銃後の間に經濟的跛行狀態を生ぜしめてはならない。殊に銃後國民の經濟戦線擾亂を目的

とする經濟戰が、戰時に於て最も有力なる武器として利用さるゝ現状に鑑み、(特に今次の歐洲大戰に當り、英國が廣範なる對獨經濟封鎖を敢行しつゝある實情に照し)民需品の調達と軍需品の調達が同一重要性に於て取扱はるべきものなることは多言を俟たずして明かであらう。從來我國に於て、軍需品と民需品の取扱ひに輕重の差を附したるは、國家總力戰の本則に反するものであつた。

公定價格制による物價統制が物資の需給調整に先立つて行はるべきは、經濟統制の原則として異論を差しさむ餘地なき事柄であるが、先行する公定價格に適合する如く、需要供給の調整を行ふべきことも亦統制經濟の原則として、多く言ふを要せざるところである。然るに今日迄我國に於て行はれたる公定價格制は、需要供給の調整に依つて裏付けさるゝことなく全く需要供給と遊離したるものとなつた。かゝる需給關係と遊離したる公定價格は、何等公定價格の實を擧ぐる能はざるものである。従つて今後に於て、低物價政策を堅持し、公定價格制を名實共に有效ならしむるには、原始生産より最終消費に至るまで、嚴格にして且つ一貫したる需給統制を行ふべきである。殊に最近觀る如き物資偏在の弊甚だしき場合に於ては開屋卸商の如き中間配給機關を、

國策的に整備すると同時に、最終配給機關たる小賣商をして物價統制と需給統制の最終擔任者として、國策的に行動する如く指導する必要がある。(昭和十五年三月「商工行政」掲載)

二十二 物價統制目的達成の具體的方策

主務官廳の機構を改革し需給統制と物價統制に

關する政務並に事務を同時的に且つ一元的に管

掌し得る如くすること

過去二ヶ年に互つて、行はれたる物價統制が、所期の目的を達成し得ざるは、物資の需給統制に依つて公定價格制が裏付けされてゐなかつた爲であることは、一般讀者の認むる如くである。が併しかゝる統制の缺陷を是正せんが爲には、民間業者並に一般國民が需給統制と物價統制に全面的に協力するを必要とすると同時に、之等の統制を管掌する主務官廳の機構を改革して、物價統制と、物資需給統制を不可分の關係に於て處理するを必要とする。即ち、之を具體的に述ぶるな

らば、理想的に言へば、現在の商工、農林、拓務の三省を併合して經濟省を設け經濟行政の統一を期すべきであるが、阿部内閣の失敗の歴史に鑑み暫くこれを論外に置くとするも、少くとも現在の商工省の物價局を解體し、これを統制局に改組し、物價局に屬する書記官及び事務官の假りに三分の二を各物資別の局課に配屬せしめ、殘餘の三分の一の書記官及び事務官と物資別局課の書記官及び事務官の三分の一をこれに加へて之等二者を以て統制局の書記官及び事務官に任用し物資別局課に於て、物資需給と物價公定の調整を同時的に且つ一元的に取扱はしめ、而して各物資間の價格と需給の均衡を保つため各物資別局の連繫と統合を統制局に於て管掌することゝせば、今日見る如き物價狀勢と物資需給狀勢の矛盾を一掃し得ることゝ信ず。

官廳直接統制を中止して統合組織による民間

自治統制を強化し公益優先主義の下に統制實

行の衝に當らしむる」と

最近官廳統制の非を鳴らす聲甚だ喧しきものもあるも、今日迄の統制の結果宜しからざるは必ず

しも官廳統制の非なるに非ずして、民間業者が、未だ國家主義的非營利の思想に馴致せずして、戰前同様の考へ方によつて業界に處するが爲と、一般國民が時局の重大性を認識せずして（政府當局、就中國民思想指導の任にある者が、よく國民思想動員の職責を盡さざるに因る）經濟統制に協力せざりしによるものなれ共、今日の如き生産配給機構の複雑にして且つ生産品の種類極めて多く且つ取引系統の多岐にして、到底少數の官吏の手によつて、經濟統制の完璧を期せんことは何人の目を以て見るも到底不可能なること明らかである。故に今日迄採り來りたる官廳直接統制の方法を廢し、民間業者をして、夫等の統合結成による自治統制を、業者の責任に於て行はしめ、之に公益優先主義的或は國家主義的的使命を負擔せしめ、あらゆる業者を通じあらゆる商品に互つて、その需統制と價格統制の完璧を期せしめるならば、實情に通ぜる民間業者の智能を用ひてほど完全なる、經濟統制と價格統制の合致せる、統制を期待し得るであらう。勿論既に述べたる如く、民間業者竝に一般國民の國家主義的思想の強化が絶對必要條件であるは言ふを俟たない。又惡性インフレーションが如何なる慘害を國民の經濟生活に及ぼすかの點について、國民全體の注意を喚起する必要あることも贅言を要しないであらう。

前述せる民間自治統制組合は業種別に組織せしめ、且つ主務官廳の物資別局課並に統制局と緊密なる連絡を保たしむる爲に、官民合同の各種委員會を組織することも亦必要であるだらう。

輸出入貿易に關しても亦組合統制を採用すること

外貨獲得の目的の爲に輸出貿易を自由競争の舊制度下に勵行せしむべしとの主張が勝を制して、綿絲及綿製品生絲及絹製品等に於て業者の自由なる裁量に任せて、國內價格の低制政策と矛盾する如き方策が採用されつゝあるも、國內に於て、國內物資につき、組合組織によつて需給統制と物價統制を行はんとするに當つては、輸出品についてのみ組合統制を解除して限られたる業者の範圍に於て自由競争を行はしめ、巨大資本による獨占を促進し社會不安を増すことは、國家總力戦の見地より反對せざるを得ない。又輸出品價格を國內價格と同一に置くことの不可なることは明らかであるが、國內價格と輸出價格を遮斷することなく輸出價格の騰貴により、より多く外貨を獲得し得べしとの希望にかられて、輸出品の價格を騰貴せしめることは、同時に國內價格の騰貴をも誘發するを以て、輸出品の價格を國內價格より遮斷する爲、國內價格に於て輸出組合

をして輸出品の仕入れに當らしめ、國內價格と異りたる輸出價格に於て當該商品を輸出して得る利益を組合の共同利得として保管することにせば、輸出價格による國內價格の變動を防止し、然も同時により多くの外貨獲得の目的を達し得るであらう。

輸出品の國內價格と國際價格の遮斷を行ふと同様に、國內物價の安定を圖るため、輸入品の國際價格と國內價格の遮斷も行ふべきである。即ち例へば原棉の輸入組合をして國內價格と國際價格の差額を平準化するための損益勘定のプールたらしめ、國內價格安定を圖ることが出来る。勿論國際價格の騰貴の平均限界を少しく高く豫算することによつて、損失の絶対に生じない計算が成り立ち得る筈である。

公定價格表の編成は生活必需品の價格を

基本として爲すこと

從來商工省物價局に於て制定する商品の價格は他商品との有機的關聯を無視して各種商品を夫々獨立して取扱ふ爲に公定價格の實を擧げ得ざる缺點を内包してゐた。

總ての商品の價格形成に當つては、一應其の生産費が考察に上るを通則とするが故に、先づ原始生産品の價格、就中生活必需品の價格を先づ決定し、それとの關聯に於て他の商品の價格を決定すべきである。

元來商品價格は、經濟原理より言へば當該商品需要者層の平均購買力によつて算出されるものであるが、一面低物價政策を強行せんとする場合に於ては、既述の如く原價計算により一應の検討を必要とするものであるが、かゝる原價計算に於て勞働賃銀が相當大なる割合を占め、しかもその勞働賃銀と密接の關係を有するものは生活必需品であるが故に、これが公定價格の制定を先づ第一に行ふ必要がある。しかのみならず我國の如き、國民構成の内容に於て、農家の有する重要度の大なる國に於ては、農家の生活安定なる問題を同時に考慮に入れて、生活必需品價格の決定を爲す必要がある。

この部面の價格公定にして、完全なるを得ば爾餘の商品の公定價格の算定は非常に容易となる筈である。

闇取引、闇相場を根絶する方法に就て

現時の民需品並に間接的軍需品の取引は、殆ど闇相場による闇取引ならざるはなき實狀であるが、かゝる狀勢を招來したる原因は、多々あるべしといへども、その主たるものは、(イ)公定價格が需給調整によつて、裏付されざりし點にあることは既に述べたる如くであるが、(ロ)政府當局に於て總力戰的に軍需と民需とを同架に於て取扱はずして民需を輕視したるところに深き原因が存するものと信ず。而して、民需を尊重せざることは、とりもなほさず、(ハ)銃後國民生活の安定なる重要事項が、經濟統制の目標の一として觀られなかつた事を意味するものである。闇相場の發生を防止し闇取引を根絶する方法としては、前述の(イ)(ロ)(ハ)に述べたる原因を除去することによつて始めて可能と考へらるゝも、尙他面直接的方法としては、(甲)獨逸、佛蘭西等に於て採用されつゝある統制違反者に對し死刑又は終身刑の如き極刑を以て臨むか、或は、(乙)需給の調整によつて裏付されてゐない現行の公定價格を、一應御破算として、改めて生活必需品價格を起點とせる均衡を得たる公定價格を、新に制定すべきであらう。かゝる新公定價格の算出

は從來の公定價格に拘泥することなく、又過去の面目に捉はるゝ事なく、全く新しき見地に立つて、而して將來の需給關係を見透したる安定を得たる價格の公定であらねばならぬ。

現在の如く公定價格が闇相場によつて無視されるにも拘らず依然形式的面目を維持せんとするが爲め益々國民をして困惑せしむるよりは、新しき出發點に立つて出直すことが、經濟界の混亂を除去し銃後生活の安定を來し、英米等の壓迫に抗する國民の團結を強固にし、東亞新秩序建設の長期戦に耐へ得る經濟態勢を完備し得るであらう。(昭和十五年三月「商工行政」掲載)

二十三 物資配給機構改革への私案

在來の配給機構の存在の合理性を尊重する事

我國に於ける經濟革新論者は、口を開けば、在來の經濟諸機關を破壊して、新らしき合理的機關を創設すべしと説くも、ソ聯邦に於ける苦き經驗に徴して、所謂合理的新機關の能率的な運用に期待することの誤りであるは、説明の要なきほどに明かである。

資本主義經濟の缺點として指摘さるゝ所のものは、資本家偏重の利益配分の問題であつて、諸機關の存在の必要性そのものではない。現在までに存する諸機關は、生産力の伸展と交通の發達に伴なつて、必然的に要求さるゝ所に、自然發生的に存在するに到つたものであつて、決して資本主義的搾取の機關として生れ出たものではない。唯之等の諸機關の内部構成に於ける資本の優位に係る問題が社會問題として取扱はるゝのみである。

之が是正は、既述の如く、存在の必要性の問題と別個に取扱はるべく又別途の方法で解決し得る問題である。勿論、諸機關相互間にも利潤搾取の關係を生ずることあるも、それは組合統制の方法によつて除去し得る筈である。従つて高度の發展を遂げたる資本主義經濟制度の現在の諸組織、それはそれよりも勝れたる諸組織を發見し創造することの殆ど不可能である程に發達せるものである所のそれ等の組織を破壊する企は、極めて非經濟的且つ非合理的であるが故に、それ等の組織の組成分子たる諸機關の存在の合理性を尊重して、その缺點とする所を補正し、以て最も合理的なものに育成し、それ等に依る最も合理的なる經濟機構の完成を圖るべきである。

配給を司る商人の業種別統制組合は、その數に於て
少なく、而も最も有効に配給の責を果し、且つ低物
價政策に協力し得る如く組織する事

今日迄に設立されたる商業組合は或階層の商人の個人的利益の集團保障を目的として設立されたるものであるが、即ち所謂カーテル的なるものであるが、今後に於て要求される組合は、かゝる私益保護を閑却するものではないが、より多く公益的であり、國家全體經濟の合理化のための國民的責任を分擔する組合でなければならぬ。従つて各業種間の利害衝突を調整し、各階層間の摩擦を除き得るものでなければならぬ。かゝる目的を持つ組合は、共同施設的な役目を主眼として立案されたる法規によつて律せらるべきものである。而も今日の場合に於ては、それが同時に低物價政策の實行に協力する機關とならなければならぬのである。

上述の目的に添ふためには、設立さるべき組合は、數に於て極めて少なくして、監督官廳の指令が類似且つ代替性のある各種商品に互り有機的關聯に於て一括して行渡る如くする必要があ

る。又組合數の少なきことは、相對的に配給費用を節約し得る利益があり、そこから低物價政策に協力する一つの實が擧ることになるのである。又類似且つ代替性のある多種多量の商品を類似業者の集團に取扱はしむることにより、あまりに細分されたる業者別組合に於ては、その取扱數量の甚しく少量なるため、各自の營業を薄利多質主義にては維持すること困難となるを以て、低物價政策に反することとなる惡結果を、回避することが出来る。

今假りに上記の主旨に従つて設立さるべき組合の取扱商品に關聯しての一、二の例を示せば、次の如くである。

甲、金屬關係

(イ) 金屬原料商組合

取扱商品 各種鑛石、砂鐵、「ルツベ」或は「スポンヂアイアン」、銑鐵、並に銅、錫、鉛、
亞鉛の「インゴット」の類

(ロ) 金屬半製品商組合

取扱商品 鋼棒、鋼板鋼型物、鋳力板、亞鉛鍍板、鋼管、釘、針、金、錫板、銅線の類

(一) 金屬全製品商組合

取扱商品 鋼製金庫、その他の家具什器及び小型諸金屬製品の類

(二) 機械工具商組合

取扱商品 鐵鋼その他金屬類を主材とする機械工具の類

乙、纖維關係

(イ) 纖維原料商組合

取扱商品 棉花、「パルプ」、「ス・フ」、麻、繭、羊毛、獸毛の類

(ロ) 纖維半製品商組合

取扱商品 綿糸、絹糸、人絹糸、「ス・フ」糸、毛糸、麻糸、及び此等の混紡絲の類

(ハ) 纖維全製品商組合

取扱商品 綿織物、人絹織物、「ス・フ」織物、毛織物、麻織物、及び綿、毛、人絹「ス・

フ」等の交織物の類

右の如くほぼ同一規範を以て律し得る商品を、一組合の綜合的取扱商品とし、その組合の組合

員として之等取扱商人のすべてを抱擁して、始めて代替性ある商品を有機的に關聯せしめ得ると同時に、組合数を少なくし得るのである。而してなるべく各組合員をしてその加入組合の取扱に係る各種の商品を多く取扱はしめ、或一商品の需給關係の變化より生ずる不景氣の打撃を軽くしてやるべきである。かくするならば、營業維持の限界點又はそれ以下にある商人を、營業維持の限界點以上に高めて、薄利多賣をなし得る如く導き得るであらう。勿論、物資不足の今日或一商品の多賣の實行は不可能としても、多種の商品を取扱ふことによつて収入の途を確保し得るを以て、薄利の商賣に甘じ得る筈である。

尤も右の如くするには、或程度迄は大商人の犠牲に於て、組合員間に取扱商品數量についてフルの平準化を圖る必要がある。併しその犠牲も、重複せる配給所の如き共同設備を整理して得る節約によつて、償ひ得るであらう。尙ほ現行の制度より言へば、前記の各組合は、元賣組合、卸組合、小賣組合の三段の層に分別さるべきであるが、この問題は次の項で論及する考である。

問屋卸商の如き中間配給機關の階層的組織を合理化する事

現行の組合について見るに、大問屋と中間屋及び小卸とを階層的に二分し、前者を元賣組合又は共販的な會社組織とし後の二者をして卸商組合又は特約販賣店的組合を結成せしめ居るも、かゝる二階段的組合制度は徒に配給組織を重複せしめ、配給費用を加重する結果を招來するを以て之を一段階に統合して、費用の節約と薄利主義によつて低物價政策の線に沿ふて營業し得る如く改革すべきである。而して收入の配分は過去の業績を目安とすると同時に、收入のプールの平準化制度を加味して、限界以下の商人を限界以上に上昇せしめ、業界の不安を除去する必要がある。尤も元賣と卸賣とを併合する事の困難なるものにあつては、元賣組合取扱商品のすべてを卸賣組合へ流して、商品の取扱種類と數量を増加し、薄利主義にて經營し得る如く善導する必要は低物價政策の見地より見て贅言を要しないであらう。(昭和十五年三月「商工行政」掲載)

二十四 中小商工業對策要綱

一、國防國家體制完成のための中小商工業強化の必要性

英米依存脱却により一層痛感さるゝ我國に於ける中小商工業者の存在過多に原因する經

濟組織の脆弱性を除くため中小企業全般に亘り企業の整理統合を合目的的に斷行する
必要あり。

二、中小企業を整理統合せざる可らざる現在の客觀的情勢

國防國家建設の國家目標決定以前より(イ)資材の缺乏、(ロ)技術上の缺陷に原因する
已むを得ざる高能率企業への生産命令の集中、(ハ)中小企業者特に中小商業者の自發的
な共同配給主義の實踐氣運、此等の三つの原因によつて、中小企業の整理統合の必至的
情勢が醸し出されて居たが、それが遂に實行の期に到達したる事。

三、中小企業整理統合の目標

國防國家體制完成を目標とすべきは言ふ迄もないことであるが、便乘者に利用され徒ら
に大企業經營者又は大資本家其他の野心を満足せしめるに終る如き合同のための合同を
行はざること。

合同は何處迄も地域的條件、技術的條件、經營的條件の三者を按配して合目的的に慎重
に行ふこと。

四、中小企業整理統合の方法と轉失業對策

中小企業の整理統合は業種別的に整序する方法に據るべきであるが、前項記述の通り地域の便宜性と技術の優秀性と経営の高効率性を目安として行ふべきものである。併し、企業の整理統合によつて生ずる失業者の救済の可能度を大ならしむるには、轉業先の要求に適合する如き要轉業者を生み出す方法を探るべきである。従つて、前記の三條件を尊重しながら、轉業先の需要に合する如く、合同三條件に對する適合度の判定に修正を加へ、最も多く轉業者の轉業後の成功を可能ならしむるよう選擇的失業製出方法を採用すべきである。

五、政府の轉失業對策批判

新聞紙の傳ふる所によれば政府は(イ)轉業者への金融、(ロ)轉業の技術的補導、(ハ)轉業期までの生活保障、(ニ)軍需工場・重化學工業、農業部門への轉業斡旋等を主要對策とせる如くであるが、以上の對策は主として國內的のものであつて、大東亞共榮圏内に包含さるべき滿洲、支那、南洋への民族發展の計畫が織り込まれて居ないのを遺憾と

する。國內轉業方面の中、農業部門への轉業は數に於て僅少であり、軍需部門も中小工業者には適當であるも中小商業者に對しては不適當である。従つて少なくとも三百餘萬人の要轉業者の簇出することが豫見される場合に當りては、須らく大東亞共榮圏への中小商業者並に國內轉業不可能の中小工業者の進出を計畫し、政府より資金を供給してその具體化を圖るべきである。之がためには、南方經路を先づ急速に進行せねばならないと信ずる。(昭和十五年十月十六日稿)

二十五 經濟機構變革の目標を誤る勿れ

新體制便乘の赤化思想を排す

國防國家體制整備のために、在來の經濟機構を變革し、完全に強力なる總力戰態勢に於て在らしむるには、脆弱なる中小諸企業を整理統合し、比較的少數の強靱無比なる企業體に改組する必要あるは、言ふを俟たない所であるが、大企業形態のものと雖、英米依存政策清算の結果、將來

に於て弱體化する惧のあるものに對しても、前以て整理統合を行ふ必要がある。かゝる諸企業の整理統合は、何處迄も國防國家體制完備の國家目的に遵て行はるべきものであつて、他の意途によつて國家目的に反する方向に、誘導してはならないのである。例へば、中間商人排除なる時代遅れの中間搾取理論に基ける主張に據つて、中小商業者の存在を根底より覆さんとする如き企速に拒否されねばならない。

總力戰態勢は、武力的にも經濟的にも、人口資源の大なるを必要とし、而もその必要とする人口資源は、社會政策的救済によつて保持される如き脆弱なるものに非ず、元氣旺盛なる自主獨往の經濟人を俟つて始めて確保され得るのである。従つて、徒らに無目標に失業者を製造する如き企業合同は絶對的に拒否せねばならない。而して茲に特に注意すべき事柄は、最近新體制運動の浪に便乗して、赤化運動の潛行しつゝあることである。政府當局は之が對策を實施し居るやに仄聞するのであるが、〇〇〇〇運動に直接間接關係する人士の中に、多くの左翼闘士の混入せることは、吾人愛國の士の深く遺憾とする所である。彼等は、〇〇〇〇内又は〇〇〇〇内の少壯〇〇の革新思想を抱けるものと連繫を保つて、我經濟界を根底より覆滅せんとするコミンテルンの策謀

に呼應策動しつゝありとの風評さえ耳にするのである。

民間善良なる商人達にして、筆者に對し將來の不安を訴ふるもの數ふるに遑なく、今日迄の如き〇〇〇〇〇〇の人事選任振りにては、國民の信頼は地を掃つて霧消すべく、國防國家體制の完備などは、恐らくは空念佛に終るものと思はれる。轉向偽裝の共產主義者を重用する如き過誤は、速かに清算されねばならない。

中小商工業者が、父祖累代の家業より離れる悲哀は、眞に同情すべきものがあるにも拘らず、少壯〇〇の中には今なほ第一線將兵の生命奉還を例示して、家業の犠牲など一顧の價値なしと説くものがあるが、第一線に於て生命奉還を敢てしつゝある將兵は、之等の家業奉還を強行されつゝある中小商工業者の父兄であり弟甥であると言ふ實際に想到する時は、かゝる家庭は一家を擧げて生命奉還と家業奉還の二重の務を果しつゝあるものと言ふべく、生命奉還の例示によつて家業奉還を説くは、不謹慎も亦甚しと言はねばならない。國內に轉業先、而もその轉業先が完全に生活を保證するに足る如き轉業先なき失業者を徒らに製造する如き經濟革新策は、英米の好む所であり、コミンテルンの策謀に合する所であり、銃後の總力を弱め國を亡す所以である。

筆者の主張する企業合同論は、南方経略の戦士を造出せんとの目的よりするものであつて、前述せる人々の如き我國を亡さんがための主張ではない。切に當局の適切なる方策樹立とその實行的確迅速ならん事を望んで已まない。(昭和十五年十月十九日稿)

二十六 現行物價統制是正の必要を主張す

物價統制の主目的が、物價騰貴の抑制に在ることは言ふを俟たない所であるが、公定價格制による物價統制の實效は、統制價格の司令下に於て、物資の豊富なる生産と圓滑なる流通が確保されて始めて發揮されるものであつて、公定價格制定のために、物資の生産配給が阻害される場合は、物價統制の效果は半ば以上喪失されたものと斷じて差支ない。現在の公定價格の制定されたる物資中共同配給の行はれつゝあるものを除いては、生産配給部面に於て公定價格が物資の圓滑なる流通を阻害しないものは無いと言つて可なりである。此の悲しむべき事實は、政府と雖も認めざるに吝でないと思ふ。

かゝる事態の發生は、價格の統制さるべき物資が、價格統制實施後に於て如何なる需給關係に

於て在るべきかを豫見し、價格統制實施によつて需給關係が圓滑に運び得る如き價格を以て統制價格として公定する順序を採らざる所から生ずるものと思はれる。而して斯の如き配意を怠る原因は、唯一筋に低價格主義を盲目的に實施しようとする所に存するのであつて、物價一般の有機的關聯性と價格の全體的均衡性を尊重せざるに存するものと考へられる。

物價統制は唯單に低位の價格を公定することによつて能事終れりとする如き單純なる經濟操作ではない。統制價格によつて物資の豊富なる生産とその圓滑なる配給を確保し得ることを使命としなければならぬ。この軌道を逸脱したる物價統制は、その名の實を伴はざる責を負ふべきである。徒らに公定價格の低下を競はずして均衡を得たる價格公定を行ひ、以て經濟界を混迷の域より救出せねば、經濟界の行詰りは不可避となるであらう。

殊に最近の經濟再編成案として公私の未定稿が發表されつゝある中に、經濟機構の單純化によつて低物價を招來せしめるべしとの主張を散見するも、低物價によつて國民の購買力を減殺し、尙その上に機構の單純化によつて、失業者を生み出すならば、經濟界の破綻立所に到るであらうことは明かである。戒心せざる可らざる重要問題と思考する。(昭和十五年十一月四日稿)

二十七 經濟統制機構改革案

昭和十三年以來政府當局の採り來りたる經濟統制の手法は、漸次官治化し、遂に全く官府の專斷による統制に墮し、經濟界の實情を顧慮せざる机上イデオロギー的統制が行はるゝに到り、民間の對立抗争にまで發展し來りたるは、實に邦家のため悲しむべき事と言はねばならぬ。

經濟當局、殊に商工大臣は、民意を尊重して實情に即したる統制經濟への立直しを覺悟されたようであるが、民間の實情にも二種あつて、時局柄到底容認し得ない種類のものと、自由主義時代に於て發達し來りたるものにて、而も今後もその經濟性を善用すべき種類のものとの二つを良く鑑別して、施策に誤なきを期せられたいのである。

現行の經濟統制中最も遺憾の點多きは、物價統制とそれに關聯する需給統制である。或種商品の價格を公定したるがために、その商品が或市場より影を潜めるが如きは、明かに公定價格の不適當なるを示すものである。如何に秀たる頭腦のものとも雖、未だ一度も手がけたことの無い商品の價格を、適當の價位に定めるを得る筈はないのである。

假りに一二の専門家の意見を徴したとしても、由來専門家程眼界の狭いものはないのであつて、その言葉をそのまま採用する時は、不測の問題を惹起することは、七、七禁令とか初期の屑鐵統制案とか、木材公定價格とかに關聯して、物價局事務官達のすでに體驗すみの事柄である。従つて同種業者全體の意見を徴する方法を採らざる限り、或種商品の適當なる價格とか配給方法等を獨斷的に決定するは、極めて危険な仕事である。

かくの如く、關係業者全部の意見に徴し、更に有機的關聯性ある他種商品との均衡を考へ、商品の需給關係の適合を得る如き統制を行ふことは、一事務官一長官の克くする所にあらずして、大所高所よりの一般的均衡問題解決の鍵は經濟省當局が握りながら、實際の價格公定とその價格に遵ふて生ずべき需給關係の調整は民間業者の團體に於て、それ等の構成員の連帶責任に於て爲すこととせざれば、完全なるを得ないであらう。假りに一人の物價統制違反者が出れば、それを成員として持つ業者團體員の全部が連座してその責を負ふことにすれば、制裁は完全に行はれ、經濟警察の必要性が急激に殺滅されるのみならず、物價局の機構も縮少し得て、國費の節約が行はれると言ふ餘恵が生ずるのである。

全智全能ならざる行政當局の手續を省き、國民をして各その職域奉公の誠を致さしむるには、茲に私が提唱する方法による以外に良法はないと信ずる。切に經濟當局の採擇を希望するものである。(昭和十六年一月十六日稿)

二十八 經濟統制改善に關する二三の考察

机上プランによる經濟統制の缺陷是正に關しては今日迄數次愚見を開陳したるも未だ具體的改善の行はれざるを遺憾とする。茲に更に秃筆を呵して二三の改善方策について意見を開陳せんと欲する次第である。

一、主食物と代用食の價格並に生産の均衡化の方法。

政府は國民に對し代用食を奨励しつつあるも、代用食とすべき物資の購入甚しく困難にして、幸に購買の機會に恵まれたる場合にもその價格が品質に比較して法外に高く、代用食を攝ることによつて家計の均衡を破ぶるに到る不合理を経験せざるものなしと言ひ得る實情である。之は政府が主食物米穀の價格安定を圖るに急にして代用食の價格とその需給關係の調整に意を用ひざり

しに因つて生ぜし現象であり、責任の一半は政府當局に在ると斷言して差支ない。而して米價の安きことが米の消費を奨励するに到るは、朝鮮臺灣に於て顯著なる實例を目睹する。政府の爲す所はその意圖する所と反對の結果を招來しつつあるのである。かゝる經濟法則に反する物價並に需給調節策を廢棄して、政府は速に左の方策を採用し國民生活の安定を圖るべきである。

(イ) 米價を胚芽米小賣價格一斗六圓位まで引上げること。

(ロ) 代用食たる小麥の標準價格を一斗四圓位、裸麥のそれを一斗三圓五十錢位の等級に公定すること。

(ハ) 芋その他の代用食物の價格も之に準じ決定すること。

右の如くすることによつて米の増産を期すると同時に代用食と主食物との間の正常なる價格差を保持して代用食の自然的なる奨励を行ふことが出来る。之が實行に當つては豫め代用食物の供給確保の手段を盡し置く必要あるは言ふを俟たない。

說をなすものは、米價の引上げは中産階級以下の生活難を招來すべしと主張するかも知れない。併し代用食が安價且つ豐潤に得られるならば一家の全生計費の總額は米價の引上げにも拘ら

ず却つて減少し且つ安定するであらう。而も將來米の増産とそれによる價格の漸落が期待され得るならば、民心の安定に資する所決して鮮少ではないと信ずる。

二、購買力の階層と商品の規格及價格の階層に關する方策。

物價局は規格の單純化を圖らんとする餘り或種商品の規格を單一化して購買力の階層に對應する商品の規格及價格の等級を抹消し、却つて粗悪品の横行による物價の實質的騰貴を招來した。その結果購買力の大なるものは、當該商品へ振向けるべき購買力を、他の不生産的方面へ轉用して、當該商品の生産配給業者の營業不振乃至は失業苦を尻目に享樂して居るが、又購買力の小なるものは、從來よりも粗悪なる比較的高價な商品を買はねばならぬ苦痛を嘗めて居る。即ち、多くの場合中小商工業者と中流以下の消費者の犠牲に於て商品規格の單一化が行はれて居るのである。商品規格は單純化すべきも單一化すべきではない。購買力の大なるものには高級にして高價な商品を購入はしめ、購買力の小なるものには低級にして安價な商品を買はしめるべきである。従つて少なくとも一商品については上中下三階層の規格と價格を許し、以て購買力の逃避による中小商工業者の没落を防止すべきである。我國に於て私有財産制度が確認され、富の階層の存立が

尊重されて居る限り、上述の理論は實際と完全に合一するものであらう。

三、府縣的封鎖經濟の打破。最近大いに緩和されたるも猶殘存する所の府縣間の物資移動禁止による一般的物資需給の不圓滑は洵に遺憾の至りである。之を速に解消して國民生活の不安を除かせねばならぬ。(昭和十六年三月二十四日稿)

二十九 中小商工業に望む

整理は飽まで必要、「技術向上」に救ひの道

支那事變始まつて第五年目の新春を迎へたるも國難ますます加はるの情勢察知されるの際、新年慶賀の祝詞を述べるに先立つて國防國家體制完備に關聯して最も大なる負擔に任ずべき中小商工業者諸君に對し一言懇ふるところなからざるを得ない。少なくとも諸君が國家總力戰の一翼を承るの覺悟をもつものとして切に諸君に懇へねばならない事柄があるのである。

いふところの國防國家體制の完遂とは武力中核の國家總力戰を完全に戰ひ得る組織體に國家を

改装せんことを要請するものであつて、現代の如き高度の科學性を必要とする時代にあつては國防國家體制の強固さの如何はその國の持つ科學的生産能力と生産品配給の適正によつて規定されるが故に生産配給の業に關與するものゝ責任は何者の任務よりも重且大であるといはなければならぬ。この重大なる責任を負擔する生産配給業者の中においてもその者が持つ負擔能力の少なきものほど任務の過重を感じる度が反比例的に加重するを常則とする。通俗的にいへば分不相應ともいひ得べき責任を負ふものである。かゝる表現はあるひは業者諸君の衿持を損するかも知れないが、實際において過當の負擔を課せられたといふも過言ではない。

これをわが國の全工業界の實際に當嵌めて看るに中小工業者の數は全般の八割強に達し、その技術的水準は特殊のものを除いて大部分大工業のそれに比肩し得ないことは諸君も認むるところである。従つて全體的に見てわが國工業界の技術的水準が平均的に低位にあるといふ結論に到達せざるを得ない。殊に最近ますますその要求の度を昂めつゝある精密工業においては中小工業者の負擔は技術的にも金銭的にも極めて大なるものがあると同時に平和的民需生産部面においても資材の缺乏と價格低廉に起因して同様の負擔荷重が加はりつゝあることは諸君のすでに身を以て

體驗してゐる如くである。かゝる負擔を軽減してわが國工業界の發展を將來に期するの道はただ一つであると私は信するのである。しかし私は國防國家體制完備のため殊に對外的經濟抵抗力を増強するためには、せひとも中小工業の過多の存在を整理統合し、英米の經濟的壓迫に反撥し得るに足るだけの組織強化をはかるべき旨を夙に唱道したのであつた。しかもかくのごとき整理統合は整理統合のための整理統合の弊に陥ることなく、事業の地域的條件の尊重、すなはちあまりに隔絶せる二地方にある企業を一事業會社に統合することとを避けること、あるひは生産工員の募集、移動または通勤などの便宜の問題を考慮するとかの配慮を怠らざること、ならびに經營的條件の尊重、すなはち資本系統とか經營首腦者の人的關係に關する配慮の足らざることとことなきやう努むること、さらにまた技術向上、生産力増加可態度に關する見透しをつけるなどの三條件の絶對的尊重の要請に應へ得るときものであるを必要とすることを主張した。私の主張は國家全體の大局的見地よりなせるものであつて、かくすることによつてはじめて國家總力戰遂行上絶對必要條件たる銃後經濟戰線強化が成就するのである。

論者の或者は私の主張する整理統合案が失業者製造案であると非難するも、其は思はざるの甚

しきものである。若し今後の經濟界を自然の成行に放任するならば好むと好まざるとに拘らず業者自身が失業の損失を自から負擔せねばならないであらう。かゝる見通しの明かなる場合に自然の成行に放任して顧みざる如き識者あらんか、そのものは全く國家に忠ならざるものであり、業者に義を盡さざるものといひ得る。蓋し事前に失業すべき企業部面に對し政府の手によつて整理統合を行はしめ、當該企業を強化して關係者一同を失業の滲苦より救済し、もつて銃後經濟戰線を強化するは國家に忠なると同時に業者に義なることこれに過ぐるはなし筈である。従つて私の提言は業者諸君の歡迎を受くるものと私は信じて疑はない。しかしながら私は同時になほ一つ遠大なる目的をもつて整理統合案を提議したのであつた。

それは外でもない。わが國が盟主となつて大東亞皇榮圈を確立し大東亞民族をユダヤ的搾取の桎梏から解放し相携へて共榮の歡喜に浴せしむるためには、皇軍將士の數にも劣らざる經濟戰の將士を皇榮圈各方面へ送り出さなければならぬのであるが、かゝる多數の戰士は尋常の手段では得られないのであつて、意識的に計畫的に國內經濟の整理統合によつて戰士を造出する以外に妙法とてはないのである。この大東亞皇榮圈經濟經營の戰士を得るといふ一つの遠大なる目的が

生産配給業界の整理統合の私案の裡に藏されてゐるのである。榮譽を將來に約束された選ばれたる經濟戰士の多數輩出せんことを私は將來に期待するものである。従つて企業合同による失業者簇出を憂ふるの要は少しもなく何人も欣んで衆に先んじて戰士たらんことを志望すべきであると固く信ずるのである。

既述の中小工業者が負擔する過重の責務を軽減してわが國工業界の發展を將來に期し得るにはたゞ一つの道しかないと言へた私の見解に就て論究の歩を進めるならば、私は恐らく諸君も同様に考へてをらるゝことゝ推察するのであるが、その道たるや實に自己の切磋琢磨による發明發見をも含めての技術向上の外には絶對にないといつても過言でないと思ふのである。もちろん技術の優秀なる中小工業者も相當多數あるにはあるが、併しそれ等の工業者達といへど自ら他に誇るだけの、すなはち或は技術を公開して全業界の水準を引上げてやるのだといふごとき自信ある技術を有するものは曉天の星にも比すべき少數ではなからうか。それはとにかくとして技術の向上は自己の努力によつて如何様にも可能な筈である。その可能な自力打開の道が多くの困難があるが故に回避するといふのでは第一線の勇士に對し恥かしい次第である。生命を賭して努力して

成らざることはない。諸君が退いて技術の拙劣を不運とあきらめ、敗殘の憂目を見るとしたならばどうであらうか。諸君の不幸はたゞに諸君一個人の不幸に止まらず、わが國全體の生産力減退を招來し國防國家完成に大なる支障を生ぜしめるのである。

國家總力戰時代においては誰一人として國家總力の一構成分子たらざるはないのである。その重要な構成分子たる工業者としての諸君の一人でもが敗退することは全工業軍の士氣に關するところ大である。それは名譽の戰死を意味するに非ずして不名譽極まる敗亡逃避と同一である。諸君にして日本國民たるの衿持があるならば、しかして他の救援を求めずして自力にて技術向上に努力するならば救ひの手は自からその中から生ずる筈である。優秀作業は泥中の蓮であり、必ず光輝ある開花を見ずしてはやまない。劣等技術のゆえに淘汰されるの不名譽を被らんよりも挺身一番、死中に活を求むるの勇を振起せんことを中小工業者諸君に望まざるを得ない。

翻つて中小商業についての希望を述べんに、元來商業の任務は生産者と消費者の中間媒體として單なる配給の業を司どるに止るものに非ずして、生産と消費の合理的結合に關する指導啓發の任に當るものであり、商業の存在によつて生産業がよくその高度の生産性を發揮し得ると同時に

消費者もまた消費の合理的措置を計量し得るのである。かゝる重要な商業の任務を等閑に附し、單に商品の値鞘によつて利益を得んとするところに商人排斥論が生ずるのである。中小商業者の多數の中に果して幾人商品の生産消費の合理化に關し研究を怠らざるものがあらうか。恐らく多くの業者は商品の生産過程や消費の合理的方法を知らないであらうと思ふ。代用品生産のごときは生産業者よりも商業者が先づ思ひを廻らすべき問題であつたはずである。若し商業者が消費者を適當に指導してゐたとすれば、闇取引を根絶し明朗なる代用品經濟が確立されてゐたと信ぜられる筋が多々存するのである。自己が占むる國家總力戰の戦士としての責任を重ずるの名譽と生産消費の指導者として衿持を持ち得る心掛を諸君に期待せざるを得ない。(昭和十六年一月六日 日刊工業新聞掲載)

三十 中小商工業問題の根本的解決策

掲題の事柄は古くして然もまた新しい問題であつて、識者の議論のこれに對する結論的なも

のは主觀的にはほど一致點を見出してはゐるが實際の解決は現状維持の成行に放置されて少しも進捗してゐないといふのが真相である。政府の中小企業對策として發表されたものを読んで見ると、中小企業の「維持育成」といふことが述べられてゐる。これは結局現状維持的なものであつて、そこに何らの抜本塞源的な方策の片鱗さへ見出すことを得ないのである。かゝる對策は結局「無策の上策」を眞理とするものと稱してもいゝのではなからうか。しかしこれでいゝのならば何も今日まで久しきに亘つて論議する必要もなかつたかのやうに思はれる。私はそこに依然として解決さるべくして解決されないのではなくて、解決し得るけれども解決の手を染めるのを厭ふ意思が問題取扱者の胸底に存するやうに思へてならないのである。それはちやうど困難な手術を回避する外科醫の心理と同様の心理が作用してゐるやうである。必要なものは手術者の勇氣であつて、執るべきメスの大きさも切開すべき箇所も方法も決定されてゐると信じて疑はない。

中小企業の根本的問題を取扱ふに當つては、まづ該企業を中小工業、中小商業および中小農業等の數個の部門に分つて各その規定づけをする必要があるが、こゝでは當面の問題として中小工業と中小商業の二部門を便宜的に採り上げることゝしよう。さうして解決案を得る過程における

便法として中小商工業の特性を分析抽出し、其等の特性すなはちそれらが有する長所と缺點を列記し、その一つ／＼についての處理方法を掲ぐることできたならば、問題の解決案を得たことになるのである。私はかかる手法を一部採用して對策を獲ることに努力しようと思ふ。

長所と短所

まづ中小工業の特殊性について検討して見るに、その長所とするところは大約(イ)家内工業的で雇傭勞務者數少なきため業務の規模の伸縮自在なること(ロ)餘剰休閒勞務の利用の便宜多きこと(ハ)従つて産業報國運動を俟たずとも勞働運動的問題の惹起する恐れ極めて少なきこと(ニ)自家勞務賃金の全部を原價計算に繰入れずとも済され得るため生産費の低下が容易なること(ホ)單一規畫によらずして特異の技能を發揮し得ることの五項目であるが、その短所とするところは長所とする所の者の丁度裏腹で而も中小工業に生來的な缺陷と見做すべきものである。即ち(イ)勞務福利施設の不完全なること(ロ)勞務者收入の比較的少額なること(ハ)勞働強度の比較的大なること(ニ)資本金少なきため企業經營上の安定性を缺くこと(ホ)科學的技能の

劣れることの五項目に集約することができよう。

前掲の長所を助長し短所を補填してそこに中小工業の生くる途を発見するには、それでは如何にすればいゝかといへば、その方法としては大略左の四個の方法が最も適切なものとして採り上げ得るのである。すなはちその第一として

下請制度整備

・商工省案として報道されたる諸方法中の首位を占める下請工場制度の整備による中小工場の強化策である。この方法は現在の中小工場を現在の所在地に置いて現在の経営者の主宰の下に強化をはかるものであるがゆゑに、最も犠牲少なき方法として歓迎されるものであるが、その効果が科學的技能の向上と金融上の便宜供與の二點において最も大いに發揮されるならばほど理想に近き強化策と見做し得る。また右の結果として漸を遂ふて勞務福利施設の完備、勞務者収入の増加ならびに勞働強度の緩和をはかることが可能となるであらう。

しかししてこゝに注意すべき事柄は、下請工場にも二種あつて、唯一つの親工場を持ついはゞ大

工場の分工場的存在のもの、二つ以上の親工場を持つものとの此二種の下請工場は、其各の親工場との關係の親密度に相違があり、従つて其強化方法において異なつたものが必要ならぬ。もちろんこの二種の相違は親工場の事業内容と分工場の設備の單純なるや多様なるやによつて生ずるものであり、何れが果して可なるやは俄に判定できないが、ありのまゝを承認しそれを強化する方法を採る限り、その價值批判を廢めて、現實に即してこの兩種の下請工場を強化する方法を講ずべきだと信ずる。

しかし中小工場の最大缺點たる劣等技術の優秀化をはかる上から論ずれば、下請工場の仕事の種類をでき得べくんば單純化して、精銳なる技能にまで磨き上げる方向に努力を傾注すべきだと信ずる。しかもなほその上に親子間の親密度を増進する上から云つても、分工場的性質を帯びしむるのが良法である。

企業の合同

第二の強化策は現在の業務を主を替へても存続して行く目的を主とするならば、企業合同の外

に良策はないと思はれる。企業合同について生ずる問題は従業員そのもの、失業よりも企業主の失業が最も重大性を有するものであつて、體面の問題もあり今さら人の下風に立つを好まないといふ氣持は相當考慮を拂ふ必要ある重要事だと思はれる。此自主獨往の氣持は個人主義なものとして排斥すべきでなく、この指導者の氣持あつてこそ事業の興隆が期し得られるのであるから、なるべくそれを尊重しつゝ合同の目的を達し得る適當の妥協策を採るべきである。人情の機微を捉へることを怠つてはならない。企業合同について生ずる次の問題は工場諸設備、機械器具などの整理配合の問題であるが、これは生産擴充の目的、技能向上の目標の達成獲得に便宜なやうに按配すべきであつて、たゞ機械の移動などによつて生ずる生産障害を可及的に少なくする配慮さへ怠らなければ、さほど困難な問題ではないが、しかし工員達の通勤その他の便益を無視したる工場統合は、却つて生産擴充の目的に反する結果を招來するをもつて、充分この點に留意する必要がある。

特技の伸長

第三の強化策はその有する特殊技能をそのまま向上發揮する方法である。この方法は寸毫も人的ならびに物的な移動變更をとまはざる強化策であり、その業務に關係する者達が上下心を一にして自らの力を以てする精勵琢磨によつて成し遂げ得るものであり、全く他力本願から解脱したるものとして推賞措く能はざるものである。しかしこれには一つの前提が必要である。すなはち

その事業が時局柄遠慮すべきものでないことを絶対必要條件とするものである。幸に時局に即應し或は少なくとも便乘し得る事業であるならば、自力更生の最も有意義なること技能の琢磨による自己強化に勝る強化策はないのである。前章に於て私が特筆大書したるは實にこの一事に外ならなかつたのである。

代用品製造へ

第四の強化策は代用品工業の採用である。時局の緊迫による資材の不足を克服して各自の業務を維持強化するには代用品生産に努力するよりほかに途はないと考へる。しかもその代用品が間

に合せたでなく独自の存在を主張し得るときもであることを希望せざるを得ない。例へば皮革代用品を生産する場合、それを擬皮革の形式をとつて何とか従来の皮革の外観を現はさんとするため却つて性能上に缺陷を生ずる場合がある。かゝる場合においてその性能を主眼とし外観の如何を別途の觀點から美化する方法を選ぶならば、代用品が形式的代用品の域を脱して新興生産品としての新商域を開拓することになるのである。この意氣をもつていはゆる代用品工業の發達に邁進するならば、自力強化は必ずや不可能ではないと信ぜられる。

上述する四つの中小工業の生くるの道を開拓することはさほど難事でないとも考へる。それは一にかゝつて當事者の覺悟と勇氣の如何にあるものだと思はれる、今日の急迫せる國際情勢に照らして吾々國民は何としても自ら生くるの途を開き大東亞新秩序建設完遂の聖業を石に嚙りついてども成さねばならない。お互に勇氣を振ひ興し覺悟を新たにして國民たるの義務を果さうではないか。

商業者の活路

次に中小商業問題の根本解決策について述べよう。中小商業の長所ならびに短所については最早述ぶる必要を見ないが故に省略するが、先般商工省より發表された配給機構整備要綱によつて商工省の商業者を觀る態度が大變改まつて來たことを看取し得るのである。しかし前々章中において述べたごとく、商業者を單なる配給業者と見做さず、生産消費の向上合理化の指導者たる役目を有するものと見て、かゝる機能を發揮せしめることを主眼とする如き商工省の態度が望ましい。そればかりではなく商人が實際にかゝる自覺に生きて實踐上にそれを具現してこそ、始めて商人の生き且つ伸びる途が拓けるのである。

しかしてかゝる高い自覺に生きる實踐の途は、生産者並びに消費者の双方と密接に結んで行くところに發見されるのであるが、經營上から見れば中間指導配給機關としての問屋業と最終指導配給機關としての卸小賣業とについて各別個の關聯方法が採られる必要がある。

救濟の對象

中間指導配給機關すなはち原材料生産業者と精製品生産業者との中間にあつてその生産配給の

指導的役割を果す間屋業者は、從來とても相當強固な財的地歩を持つものであり救済的施策の對象ではない。これに反し最終指導配給機關としての卸業および小賣業は、其取引對象として一般消費者を持つだけに、其業體が比較的或は絶對的に小規模であり救済的對策を必要とする程度が大である。しかし商業は工業と異り、その生くるの途を發見する方法に幾多の種別を見出し難く、只その取扱商品の種類の振り當て方法による以外に物資的なまたは技術的な自力的救済方法を發見できないのである。もちろん企業合同による強化の方法は工業と同様に有效適切なるを得る場合があり得る。現に商工省はタオル商等に就ては企業合同の思ひ切つた促進をやつたことがある。同様のことが他の商業者にも及ぼし得ないことはないが、徒らに企業合同を促し空家と失業者を造出することは企業體を強化する代りに社會全般的に見て不安状態を醸成する缺陷が生ずる。従つて空家と失業者の他へのより有效なる轉用の國家的方途があるなれば格別であるが、然らざる限り努めて避くべきであると思ふ。

中小卸および小賣の業態を強化する方法としては、生産者との提携を密にし連鎖店的關係の成立をはかることが最善の途であると信ずる。殊に小賣商としては卸商を通じて生産者と提携し特

殊生産品の専門店となることが強化の捷徑である。今日のごとく生活必需品が共同販賣の形態を採る時代においては、小賣商の生くる途は特殊専門店に於て最も有效なるものが發見されるのである。若し能ふべくんば資本系統を一にすることと連絡をとつて、資本的地位を強化し得るならば、一段と商的機能を多く發揮し得ることとなるであらう。

商工相携へて

しかしながら今日の最も解決困難なる問題は物資の不足である。この根本問題を解決するに非ざれば中小商工業の自力更生は幾十億圓の資本金を積んでもその完全を期することは到底不可能である。従つて工業者といはず商業者といはず相携に協力して物資増産の目的達成に向つて先づ努力することが自己を救ふ最も速かなる手段である。代用品生産に或は新興商品の生産に商工相携へて全智囊を傾倒して努力の限りを盡してそこに安全なる生活の坦道を發見してこそ始めて國家總力戰的見地からいつても十全なる解決を了したといひ得るのである。中小業者諸士は徒らに躊躇することなくこの大道建設のために手をとつて進軍すべき時が目前に來つてゐることを活眼

を開いて直視せねばならない。(昭和十六年一月十三日刊工業新聞所載)

三十一 産業人の反省奮起を望む

世界的一大變革の時期に際會して、わが國のみ獨り此の轉換の潮流の外に晏如たり得ないは言ふを俟たないのであるが、深く最近の世界史實を研究するならば、わが國の大陸における運命を決定した滿洲事變が實に現代における世界新秩序建設の口火を切つたものであつて、わが國こそ獨伊に先んじ眞の意味において世界的一大變革の先達であり指導者であるのである。従つて政治文化軍事等百般の事項に亘つて世界的先導者たるの自覺を持つて、言行一致他國に範たるの事實を示さねばならない。然るに省みて我國內の實情を観るならば後進者たる獨伊のそれに優る何者をも發見し得ないのである。

獨逸ナチスの世界觀乃至國家觀は、わが日本精神を師表として組立てられたものである。國家を個人に先行する全體者とし個人は國家の福祉の裡に自己のそれを見出すべしとの人生悟道の教

訓は、わが日本精神における 天皇と臣民との先行後從民心歸一の關係に則れるものである。わが日本國民は「大君の邊にこそ死なめ」との人生觀を持ち自己一身一家のすべてを大君の爲に捧げるを最も潔よしとして居る。従つて 天皇の君臨し給ふ日本國の國民として日本國家の興隆のために亦一身一家をあげて傾倒するの念において缺くる所あつてはならない筈である。然るに現下吾人の日常目睹する所によれば政治、軍事、文化の圈内における事象を措いて經濟界についてのみ考察しても實に遺憾極まる事柄ばかりが起生して居るやうである。その原因は果して何であらうか。

筆者の研究によれば民心弛緩の最大原因は政治指導力の缺如である。國策を決定しその大席の下に國民が一億一心の強き結合力を發揮するにはその國策を國民に明示し敢然としてその達成に挺進するの態度を堅持するにあらずんば民心の振作は絶対に不可能である。東すべきか北すべきか南すべきか西すべきか、凡そその方向をさへ明示せずして國民の勇邁なる行動を期待するは期待するものゝ側に無理が在ると言ひ得る。大君に對し一身一家を擧げて奉仕の誠を致すを第一義とする日本國民が國家目的に一身一家をあげて投じ得ぬ筈はない。そこに國民の心理を的確に把

握して國家目的達成に向つて正しく指導する點に大いに缺くる所があることに氣附かねばならぬ。

然し古語に「君君たらずとも臣臣たるべし」と言つて居る。政治指導の任に在るものが眞の指導者たるの責を果さないからと言つて國民大衆が日本精神に反し國家目的に協力せずして可なりと言ふ理窟は成り立たない筈である。指導者の如何に拘らず國民は國民としての盡すべき道を盡さねばならない。然るに現下の國民全體殊に産業界に在るものゝ行動一般は全く臣節を盡すべき道につき何等の省察をもなさざるやに見える節がある。勿論多數者の中には極めて眞摯な國家主義的行動に出づるものがないではないけれども、大部分のものは依然として個人自由主義の舊殻を脱し得ないで居る。従つて經濟統制法規の違反者が跡を絶たない狀況である。

元來國民各個の存在價値は國家ならびに 天皇なる最高絶對の存在價値との關聯において始めて認め得られるものであるが故に、それと遊離したる各個人は全く臣民乃至國民としての存在價値を喪失せるものと言ふべく、 天皇と國家に奉仕するの觀念を離脱せる産業人の存在は御民としての産業人の存在に非ずして非國家的な換言せばユダヤ的な存在であると斷ぜざるを得ない。

猶太的存在たるを光榮とする者ならばいざ知らず、日本國民たる矜持を傷つけざらんと欲するならば、 天皇と國家に奉仕する産業人たらねばならない。

猶太的世界制覇の陰謀による現下の世界的變亂の時代に於て、大和民族たる日本國民の天賦の使命を果さんが爲には、舊來の猶太的個人營利の産業精神を破棄して大君のため日本國のための産業經營の本來の道を踏むに何の躊躇をも必要としない。即ち提唱されつゝある新産業道とは實にかゝる日本の性格の産業道であり、本來的には「新」なる字を冠することさへ許さるべきではないのである。肇國以來の國難に直面して日本の固有の産業道を確立し躬行實踐するは日本國民當然の責務と言はねばならない。書して以て敢て産業人の反省と奮起を熱願する。

(昭和十六年十月廿七日日刊工業新聞掲載)

三十二 國防經濟學

今日迄の經濟學は、個人の經濟生活の集團現象を、研究對象として、而も個人を純然たる經濟人なる抽象體に於て捕捉し、その住む所の國家の特殊性を洗ひ落して、國際人たる形に於て取扱

つて來た。而してかゝる取扱方法が無條件に容認され採用さるゝに到つた原因を探究するならば、何れの國民もがその特殊の國民性を保持しながら、世界共通のなる普遍經濟性を持つに到つた、世界的謀略の存在が發見されるであらう。この謀略は近代世界に於ける國際交通の發達に便乗して、その思ふが儘に威力を發揮したものであるが、一に國際的普遍化を意識的に企圖せる或國家國民又は或民族團體が、他の世界の各國をして何等の疑義も挟まずに無條件に、至上命令として世界的無境的經濟性の妥當性を享け容れしめるに、必死の努力を致した結果であると見做すべきである。従つて若しそこに一片の疑惑でも起すものがあつたとすれば、換言すれば、之でいゝのだらうかと云ふ疑問を持つものが出来れば、そこから蟻穴が大堤の破れる始めであるように、世界普遍學の基礎が動き始めるであらう。

ユダヤ民族の世界覆滅の陰謀と言ふようなことは、信すべきであらうが、又それを信じなくとも、或國家がその國民を率ゐて世界制覇を志すであらうこと、又既に今日迄その志を成し遂げたと云つてもいゝ位な、世界的優位を持つた國家・國民がありとすれば、それ迄に到る道程に於て採つた所の世界的謀略は、今頃我國に於て喧しく唱へられて居る總力戰的のものであつたこと、

詳言すれば、武力戰・經濟戰・政治外交戰以外に文化戰たる科學戰とか思想戰を以て、世界制覇をやつたことが、看取出來るのである。果して然りとすれば、經濟學に於ける世界普遍の原理提唱は、その目的が奈邊にあつたかを理解し得るではないか。

經濟學の鼻祖と言はるゝ英國のアダム・スミスは、個人の利己心を以て經濟活動の動因とし、それが究極に於て國家的利益と一致すると説いた。このスミスの提言を、その表面の文字通り解釋すれば、スミスは個人主義經濟原理の始唱者であつた。スミス以前の經濟學者と目すべき人々の中にも、利己心を原動力としたる經濟理論を説いて居る。従つてスミスが個人主義經濟原理の始唱者ではないが、假りに通説に従つて、スミスを個人主義經濟學創始者だとしても、スミスの生活しつゝあつた當時の英國の經濟の特殊性を知るものにとつては、それが時代性に無意識に唱へられたものとは、考へ得られないのである。即ち、在るがまゝの當時の英國の經濟實相を把握して、その中からかゝる原動力を見出したとは思はれない。何故なれば、その時迄の英國とか歐洲大陸諸國は、封建的であつたからである。スミスはその封建性の打破の原動力としての個人の自由性を認識し、その發育によつて經濟的發展を圖らんとする極めて意圖的な考へから、彼の經

濟學を組み立てたと見るべきである。換言せば、彼の經濟學は靜的原理のものではなくて、動的な政策的な建設的なものであると言ひ得る。

スミスの當時の英國が、先進國たる歐洲大陸諸國を凌駕して、世界制覇の志を遂げるには、産業革命による生産力増強を經濟戰の武器とすると同時に、大海軍の建設によつて武力戰に於て、他の各國を制壓し、更に科學戰・思想戰によつて、他國民の思想を自國に有利な自國の思ふが儘の方向に轉向せしめ、極めて勞少なくして功多き方略に出でたるべきは、推知するに難くないのである。即ち、個人自由主義原理に基礎を持つ所の自由貿易論は、英國の生産品に對し高い關稅障壁を築かんとする他國の、その障壁を原理的に破砕して、英國輸出貿易の進路に横はる障壁を除去したる事實を見れば、スミス經濟學が、總力戰の一翼たる科學戰延いて思想戰に於て、偉功を樹てたることは多言を要しない所である。

獨逸の偉大なる政治經濟學者フリードリッヒ・リストの論ずる所も亦、同様の見解によつて明かに、その當時の獨逸の國情に照し、獨逸の經濟を如何にあらしむべきかを説いたのであつて、靜態理論にあらずして動態的・建設的・政策的な原理開展を行つたものであることが、首肯し得

るのである。唯スミスの所論と異なる所は、スミスは英國の特殊情勢を基礎とし、リストは獨逸の特殊状態を根幹として、その各々の國の經濟的維持開展を如何にあらしむるかを究明した。その各々の生國の時處的特殊性に即したる研究の結果が、結論的に相反する形態を呈するに到つたのであつて、若しリストがスミス當時の英國に生れて居たならば、恐らくスミスと同様の理論を樹てた事と思はれる。即ちスミス經濟學もリスト經濟學も等しく、その國々の國策としての經濟原理體系であつたのである。再言すれば、時處的特殊性者であり、政策原理の展開であつたのである。

此の見解は各國の經濟學者の論攻の目標について、例外なく適用され得るものであるが、我國に於てはかゝる總力戰の一翼としての科學戰の存在を意識せず、諸外國の經濟科學戰略を至上命令として遵奉し、世界的普遍妥當性を無上眞理と誤信し、我學界をあげて敵國の蹂躪に任せただのであつた。尤もかゝる科學戰の戰略を意識しないでも、本當に正確なる外國語解讀の力さえあつたらば、今少しは何とか正しい經濟學の意味を把握し得たのであつたらうと思はれる節がある。即ち、經濟學は經國濟民の學であるとの東洋的解釋と、ポリテイカル・エコノミイ又はナン

ヨナル・エコノミイの意義が全然同義であるとの理解に到達し得た筈である。政策性なき經濟學なるものゝ存在可能を考ふることが、是亦近代的科學謀略に乗ぜられた結果であると意識する學者が、今日迄我國に於て果して幾人存在したであらうか。政策性なき經濟學、それは國家的或は國民的特殊性なき學問であり、國境を撤廢したる學者を他國に持つための、或國の科學謀略として無比の効果あるものではなからうか。

一國の大學教授が、高等專門學校の教師が、擧げて國家的・國民的特殊性を喪失したとせば、その國は如何なる影響を受けるであらうか。それ等の人々を師表と仰ぐ學生生徒は、無條件にかゝる學風に感化され、國民的自覺を失なつたコスモポリタンとなるは未だしもである。進んでは自國を賣り、一身を賣り、他國の政策の前に拜跪する徒輩と成り終る事は、今日迄の我國に少なからぬ例證が存することによつても知り得る所であり、肌粟を生ずる感なきを得ないのである。或人は國家的意識なきものを、ユダヤ的と罵倒するが、ユダヤ人はユダヤ王國の建設を夢みて努力して居る國家的意識に燃えつゝある、偉大なる民族である。然るにすでに世界無比の邦を成せる我國民の中に、國家意識に缺ぐるものありとすれば、その者はユダヤ人にも劣るものと言

ひ得る。科學謀略の偉大なる威力は、實に日本國民の或者さえもユダヤ人以下のものとなすだけの効果を示現したのである。

經濟學は本來的に經濟民の學であり、政策原理展開を目標として持つ學問であるが故に、實際場裡に於ける生存競争が、總力戰的形態をより多く必要とするに到れば到るだけ、經濟學も亦國家總力戰の一翼たる經濟戰を戦ひ抜くに役立つだけの効果を齎すものでなければならぬ。斯く言ふならば、それは學問の價值批判を、科學の神聖性を汚す低位の規準に據つて行ふものであるとの、非難が起るであらう。眞理の無上神格性を主張する人々は、必ずやかゝる非難を是なりしと、學問擁護のために立つべきだとまで、極言するであらうことは明かである。併しかくの如き科學神聖論は科學が人間のために存するに非ずして、人間が科學のために存すとの説をなすに等しいものである。科學は人類のための眞理を開明するために存することは、冷靜に思考するものにとつては、論を俟たずして明かな所である。かゝる科學の價值批判が首肯せられるならば、而して人間の現實の生活が、或一定の國家の民人としてのそれであると言ふ具體性を承認するならば、人類のための科學は、先づ第一に或國民のための科學であるべく、或國民のための科學た

る資格あるものが、更に他の國民のための科學であるためには、そこに國民相互間の利害に於て共通する何物かがあるを必要とする。若し利害が相反するならば、一國民のための科學が、必ずしも他國民のための科學たる妥當性を、主張し得ないであらう。例へば、スミス經濟學に對抗するリスト經濟學の發生が、克く這間の消息を物語るのである。若し科學の無上神格性従つて世界普遍妥當性の主張が容認されるとしたならば、スミス經濟學とリスト經濟學の何れにそれを認むべきであるか。此の價值批判は、結局その科學性が最も妥當すと考へられる國々によつて、各別に採用される外はない。而もかゝる判断は、純然たる政策の問題であつて、即ち國々の特殊事情によるものであつて、世界的普遍性の無上命令に俟つべきではない。茲に科學の國民的性格乃至は國家的色彩が、承認されねばならない現實の具體的根據が發見されるのである。

科學の國家性の承認は、そこに又必然的に、科學の國家的利用價值判断基準の指定を要請する主張を生ぜしめるものである。即ち科學の國家性の妥當の程度を判定するには、その科學の屬すべき國家の國內政策と國際政策の目標とする所の目的價值その者に係はらしむる必要がある。而してかゝる目的價值は、結局その國家の到達せんとする、理想狀態に於て見出さるゝものであつ

て、國家理想乃至國家目的の達成に、如何様に且つ如何なる程度に貢獻するかの判断によつて、科學の國家的價值が判定されるであらう。科學の價值判断基準としての、國家理想なるものは、然らば如何なるものであらうか。それは勿論、世界に國をなす各國毎に異なるのみならず、又時代の變遷に従つても、相違を生ずるであらうが、かゝる時處的特殊性の故にこそ、國家に役立つべき科學のその特殊性が、はつきりと顯現するのである。

今日の國際情勢を通觀するならば、或國が他の國の總力戰的侵略を防止し、自國の眞の獨立を保障せんがためには、その國を總力戰的態勢に於て在らしむることが、第一要件であるべきは多言を必要としない。國家が總力戰的態勢に於て在るには、その國家の全機構、即ち政治機構も經濟機構も科學機構も其他すべての機構が、總力戰的に統合され運營される如き狀態に於て在るべきである。換言すれば、所謂國防國家體制を完備せる國家であるべきである。詳言せば、政治國防・經濟國防・武力國防・科學國防・思想國防等のあらゆる國防の面に於て、完璧の布陣を持つ國家にして、始めて國際的總力戰の勝者たり得るが故に、凡そ世界の中に自主的存在を保たんとするならば、如何なる國家も國防國家體制を採らざるを得ないであらう。

一國が國防國家體制を完備し、常に國家總力戰に於ける勝者たる地位を確保するには、その基礎として國民の思想を總力戰態勢化する必要がある。而してかゝる國民思想は、常に理論的完全性を持つものでなければならぬ。單なる傳説とか神話をそのまま國民思想の主流に持ち込むのは、理論的なる外國の思想侵略に對抗するを得ない。我國に於てマルキシズムが或一部に歡迎されたのは、その理論的高級性の僞裝が巧であつたからである。このマルキシズムを打倒する事は神話乃至傳説では不可能であつて、そこに十全の理論性を有する社會科學が楯となり矛とならなければならぬのである。茲に科學の總力戰的使命が見出されるであらう。

併し、科學の總力戰的使命は、思想との關聯に於てのみならず、政治・經濟・武力との關聯に於ても存在するものである。殊に複雑多岐なる經濟組織を動かして、總力戰的態勢を採らしむることは、極めて困難な仕事であり、尋常一様の手法によつてよくするを得ないことは蘇聯・米國・獨逸並に現に我國に於て經驗しつゝある所によつて明かである。而もそれが困難であればある程、却つてその困難を克服して、國防國家體制を完遂するの勇氣をより多く振起せねばならない。勿論學問は勇氣によつてのみ成し遂げ得るものではないが、國家總力戰の一翼をなす科學戰の戰士

としての科學者は、武力戰に於ける勇士と同様の勇氣を要請されるのである。殊に今日の如き我國の經濟的難局に直面しては、經濟學者は最も勇敢に科學戰に挺身せねばならない。然らば吾人經濟學に志すものが、經濟學を如何なる方向に向はしめ、如何にして總力戰の一翼を受持ち得せしめるであらうか。それは一に、經濟學を國防學の一分科としての使命を擔任せしめることによつてのみ可能であらう。

アダム・スミスの經濟學が、英國の世界制覇の總力戰の一翼たる科學戰思想戰の使命を完全に果したる先例に照し、我國の經濟學が大東亞皇榮圈の確立を完全に理論づけ、英米の學界をしてその理論を肯定せしめ、英米の思想をあげて之が無條件容認に傾かしめ得るならば、我國經濟學の總力戰的使命を完遂したと言ひ得るであらう。他の言葉を以てすれば、大東亞皇榮圈の確立による我國の理想的境地を齎らすために、國內的に我國を完全なる國防國家體制に仕立て上げ、その體制完備による國家總力の發動によつて、英米連衡に成る世界舊秩序を打破し、大東亞皇榮圈なる新秩序が確立され得る如き國家の運営を可能ならしむる理論を構築して始めて、經濟學の國家性が十分に發揚したと言ひ得るであらう。

謂ふ所の國防經濟學は、かゝる使命を持つものであつて、大東亞皇國確立の國家目的を達成するに必要な經濟政策としての理論樹立、それは對内的なものと對外的なもの、双方に關する理論の定立を意味するものであるが、斯くの如き理論樹立による學的體系の整備が、自から國防經濟學の完成を意味するものである。従つてその取扱ふ所の問題は、在るが儘の我國の經濟の姿を把握すると同時に、それを如何にして理想境にまで持ち來たすを得るか、當然の指針を指定するに存するが故に、そこに經濟政策の計畫性と統制性が前景に押し出されて來る。併しそれは本來的意味に於ける計畫經濟を企圖するものであつてはならない。

計畫經濟の本來の意味は、現實を無視したる理想境を構圖として作成し、その構圖の如く現實を變改せんとするものであるが故に、極めて積極的な建設の面を持つと同時に、又極めて積極的な破壊の面を持つものである。従つて若し現實無視の程度が大であればある程、破壊多くして建設の之に伴はざる結果を招來する。之が實證は蘇聯の計畫經濟に於て著明である。勿論如何なる經濟に於ても、計畫性のないものはない。個人の家事經濟に於ても計畫性が明かに認められるが、それは現實に即したる計畫性であつて、現實を無視したるものであり得ない。かゝる計畫性

は、併し計畫經濟に於ける計畫性と異なるものであつて、それは一種の豫算的なものに過ぎない。國防經濟に於ける計畫性は上述の二種の計畫性と異なり、現實に即しながら猶その上に理想の實現を期するための計畫性である。それがために、現實の經濟を理想の方向に向はしむる統制が、現實の經濟の上に加へられる。換言せば、現實の經濟に加へられる統制によつて、現實を破壊から保護しながら、計畫性を附與するものなのである。即ち計畫的統制經濟が、國防經濟の運営の原則的態様である。

茲に於て少しく統制經濟に關聯する見解を述べて見たい。統制經濟は計畫經濟の演繹的な性格に反して、歸納的な性格を持つものである。統制は現實をある志向に導くために加へられるものであつて、現實を尊重しながら志を遂げんとする所に特色が発見される。統制の現實尊重性は、併し現状維持に墮してはならないが、現状維持の傾向強き國家・國民の場合に於ては現状維持に終る危険が大である。或國家目的達成に便なる如き經濟體制を整へるための統制は、畢竟するに現状維持を許さない。従つて統制經濟に計畫性を加味したる討畫的統制經濟によつて始めて、謂ふ所の國防國家に適する經濟體制が整備され得るのである。統制による現實の尊重によつて、計

畫經濟的破壊から現實を護りつゝ、理想に向つて邁進し得る所に、計畫的統制經濟の特長が存するのである。

國防經濟は、計畫的統制經濟なる運用形態を探るべきことが明かとなつたが、然らば國防經濟學の理論體系を樹てる發足點を、何に求むべきであらうか。之が答案は極めて容易に與へられ得るのである。即ち普遍學としての經濟學が、國際人たる個人の人生觀を基礎としたる人間生活の維持發展の欲求に出發點を置ける如く、國防經濟學は、國民としての個人を包攝する所の超越的存在たる國家の、その存立と發展の欲求を出發點とし、この出發點はその基礎として、個人の人生觀と國家觀とを統合したる全體主義の哲學を持つものでなければならぬ。

元來全體主義は、個と全體の統合の哲學を主張するものであつて、個を無視したる全體の主張ではない。個人の人生觀と個人を超越する國家觀との統合は、個人主義と國家主義とを對立の立場に置く限り不可能であつて、この兩者をより高い全體を統合する方法を探る必要がある。否、方法として採ると言ふよりは、必然的にかくあるに非れば不可能であるがゆえに、それは必然性の問題として考ふべきである。個と全體の辨證法的絕對への歸入の結果として、そこに全體觀が

生れ、この新たに生れたる全體觀によつて國防經濟學の現實に對する觀照の立場を定立せねばならぬ。

かゝる全體觀は、狹義の國家主義を廣義の國家主義に轉生せしめ、従つて大東亞皇榮圈なる數國家を抱擁する經濟圈を認め、我國固有の國家觀を堅持しながら、我國の理想境地をその中に見出し得せしむるものである。即ち、八紘一宇の理想を具體的に示現したるものとしての大東亞皇榮圈の成立は、それ自身が我肇國の理想の具現したるものと見做すべきである。而もそれは國家の上に超越せる權力を持つ國際聯盟の如きものを認むるにあらずして、國家の至上性を保らながら、數國家の共榮を確保し、そこに一國家の理想を具體化し得る特性を備へるものである。

上來説く所によつて明かなる如く、我國に於ける國防經濟學は、我國發展の理想境と見るべき八紘一宇の具現態たる大東亞皇榮圈確立のための經濟原理體系樹立を使命とするものである。この大綱にして誤りなく把握されんか、國防經濟學敘述の内容及方法は自から決定されてあるものと言ひ得る。今茲に詳細に國防經濟學の方法論及び原理一般を述ぶることは、制限されたる紙數のために不可能であるが、私の所説によつて、國防經濟の國家的特殊性とその使命が一般の理解

する所ともならば望外の幸である。(昭和十六年二月十五日「理想」誌掲載)

三十三 時局の深刻性を論じ政治經濟の本質に及ぶ

唯今は大變御町重な御紹介の辭を戴きまして恐縮致して居ります。先日由上さんがお越しになりました。何か皆様にお話を申し上げよといふ申付でございました。何分私の意見を各所で發表致します場合に、際どいことを申しますのでどうかと思ひまして御遠慮致したかつたのでありますが、外ならぬ平素御懇親願つて居る由上さんの御下命でございますので罷り出ましたのであります。私の性質と致しまして相當不遠慮なことを普段申して居りますので、本日も亦さういふことを申すかも知れませんが、なるべく當局の寛大なる御處置を願ひ皆様の御寛容も併せてお願ひ致したいと思ひます。

最近各所で時局問題の講演もあり、私も度々出席致しましてお話を承りますが、皆様方は大阪の指導的有識者でゐらつしやいますので、私から彼は申上げますよりは、寧ろ皆様から教えを受ける方が多いのでないかと考へるのですが、日頃からの私の見解を一時間ばかり申述べて

責を塞ぎたいと思ひます。

私は時局の緊迫性を、皆様方が今までいろいろ講演を伺はれました話と違ふ點から考へたのであります。それは、日本の時局は主として歐洲の情勢によつて左右されて行く、何も彼もドイツが勝つか負けるによつて決るやうに觀察致して居るのであります、又事實さうであらうと思ひます。そこでドイツが負けた場合はどうか、勝つた場合はどうか、といふ各種の場合を想定致しましていろいろ研究致しましたが、ドイツが負けた場合を想定して研究する必要はない、さうなれば元も子もなくなるので、勝つことにして、その想定の下に研究を進めるより外ないと思ひます。

私は歐洲戦局が、第一次歐洲大戰に於て、もう數日あれば英國の食糧が切れる、ドイツは降参すべきでない、ドイツは己を知らず又敵を知らず、兵法の最も拙劣なもので、遂ひに英國を脅脅する機會を失したといふことから考へ及びますと、今度はドイツは徹底的にやるんぢやないかといふことが考へられますし、死もの狂ひでやるだらうと思ひます。英國が今日背水の陣を布いてかゝつて居る以上の決意が、ドイツにあると考へるのであります。又爆撃その他の空中戦、潜水

艦でやるばかりでなく、數十萬の犠牲を拂つても、最後に敵前上陸をやる位の勇氣があるのではないかと考へて居ります。假りに何らかの方法によつて英國本土が攻略されましたならば、多くの方は日本はそれによつて救はれる、非常に有利な地位になるといふ風にお考へになつて居るんぢやないかと思ふのでありますが、私は英本土が攻略された後こそ、日本に本當の國難が来るのでないかと考へるのであります。それは、英本土を攻略しました後はドイツは何處へ伸びて行くかといふと、北はアイスランドへ行きますが、それ以上の北に伸びる手はないのであります。戦局は必ず南の方地中海に移ると思ひます。いろ／＼な報告を綜合致しますと、英國は濠洲、ニュージラント方面或は印度から補給を得まして、ドイツのバルカン方面に向つての進出、並びにアフリカに於ける進出に對し、それらの兵力を全部傾け盡して居るやうであります。最近のイタリアのリビヤ戦線の不振といふものもその結果から生れて來たものと思ひます。歐洲戦争の正面は、私は地中海に移るものと考へて居るのであります。

さう致しますと地中海作戦の後方兵站といふものは南アフリカ、印度並びに佛印、蘭印、ニュージラント、濠洲にかけて、この方面がなるのではないかと思ふのであります。従つてあの方面を固めますためには英國の海軍は全力を盡しませうし、又アメリカの海軍がこれに全力を舉げて協力するといふことも考へられます、さうすると○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○さうしますと日本の危険は追々英本土攻略後地中海方面に作戦が移つた場合に生ずるといふ風に私は考へて居るのであります。かういふ風に英米との衝突になると云ふことになる日本は危機はどういふ方面から來るかと思ひますと、海軍の先輩のゐらつしやる前で私がかういふことをいふのは鳥漕がましいのであります、アメリカの國民性から考へますと、アメリカ人は潜水艦に乗つて戦争をするとか、或は驅逐艦、巡洋艦に乗つて戦争するより、飛行機に乗つて戦争をする方を好むのでないかと思ふのであります。冒險好きな國民性から申しますと、第一に飛行機襲撃を以つて日本に又向つて來ることが想定出來るのであります。不愉快な潜水艦に乗つて來るといふやうなことは殆どないかと考へるのであります。又この航空機による襲撃といふことは、アメリカと致しまして、犠牲が一番少く、効果が一番大なるもので、總力戦の時代に於て銃後の資源確立といふ點が戦争を決定するといふ點からいつて、確かに私はそこに來るといふことを想像する

要を認めた研究がそこに於て行はれないやうに考へて居ります。——これをやらなければ私は恐るべき結果になるといふことを斷言していゝと考へるのであります。

又もう一つの國內的な○○○○○○○○、これは皆さん始終仰しやつて居○○○○○○性の缺如と云ふことでないかと思ふのであります。一方又（一行削除）抱藏して居ると思ふのであります。東京に参りましても○○○○○○○○、特に英米方面の○○○○、ロシア方面の○○○○と云ふものから考へますと云ふと（一行削除）○○○○居る様に思ふのであります。そして英米人、或は○○○○○の人々はそれを非常に喜んで居る様でございます。それで實業家の人々が○○○、○○○○○と云ふものを（○○○（一行削除）そのことはいゝのであります。併し、その裏に○○○導く様な巧妙なる糸を引いて居る方面から申しますと、これが益々盛になることを彼等は拍手して喜び迎えて居ると云ふ實情であります。この一つ／＼の例を擧げて申しましても私にいゝと考へて居るのであります。今日は遠慮致して置きます。その手先になりまして日本の随分有力な人——非常に私共は口にするのを憚る様な方々までも——御自身では知らずに居られると思ふのであります。○○をして居られる様な行動があるのを私開くのであります。

す。明日から阪神間に防諜謀略演習が行はれますが、これも必要であります。むしろ帝都に於ける、さう云ふ方面の人に就て防諜工作と云ふものがより必要でないかと考へるのであります。その點に於て大阪よりは寧ろ東京方面が非常に危険が多い様に考へます。皆様方東京にお知合がありましたならば、その點を強調して東京人の反省を是非促がして戴きたいと考へる次第であります。今申したました様な外國から來ます處の一ツの時局の逼迫性と國內から起つて居ります時局の逼迫性、内外これに應ずる攻勢に對抗してゆきます爲に、そこに私初めて政治、經濟の新體制が必要ぢやないか、新體制への本質は私はそのにあるのぢやないかと思ふのであります。（一行削除）恰かも符節を合した如き事柄になつて居ると私は思ふのであります。ですから日本は極端に申せば○○○○○○○○○まで近付いて居るのでないかと思ふのであります。こゝで國民は餘程覺悟をしてこの時局に處さなければならぬ。單なるジャーナリズムチックな論争をしてそれで済むものでないと考へて居ります。

そこで政治新體制の本質に就て先づ申上げるならば、（十一行削除）なりましたのは、これは愛國右翼團體の功績であらうと思ひます。その○○○○を作るといふ時も私起ちまして、相當○○

ならば、私政黨といふものは更生するのではないか。代議士は立派な臣道實踐の國民代表に立還へるのでないかと思ふのであります。處で、〇〇といふものがどうして〇〇されるかと申しますと従來の如く政黨的訓練を経て居るものに對して、政黨がないので自から代議士たる職責を盡さなければならぬのであります。そこで、これについても私は〇〇さんにかういふことを進言致しました。〇〇さんはその中の一つだけお採りになつたのであります。「従來の自薦代議士といふものは、俺が代議士になつてやるんだといふて出ました。その中には勿論我々が尊敬措く能はざる方々も多數居られますが、中には我々が、この方に投票したくないやうな方まで自薦でお出でになる。だからこれを、國民から一般的推薦の形體にしたらどうか、それには最近行はれて居る隣組、町會といふやうな組織があるから、この組織を一つ法制化して、それに政治性を附與し、その中から推薦者を選び、最初の被推薦者、被投票者の倍數位にして、國民の一般投票といふことにすればいゝぢやないか。所謂ピラミッド形にし、推薦選舉の體制といふものを作つて行けばいゝぢやないか。併しそれは地域代表で、それ丈では國民の意志を代表出來ないから、一方に職能代表を政府の命令の下に出す。商業組合、工業組合等から或はその他の經濟團體の主腦者をし

て職域奉公の誠を致せしめるため、職能代表者といふものを出していゝのぢやないか。それからなほ、野に遺賢をあらしめることはいけなから、全遺賢を容れるため學識、高德者を貴族院の勅選と同じやうに衆議員に勅選議員を作つて、その三者を合せて、そして衆議院を構成すれば、隣組推薦者といふものに對する非難も、或はそれから生ずる缺點も防げるのぢやないか。又、或る代議士に私は、隣組推薦の話を致しましたが、「それは皆旦那さん見たやうになる、政治性がなくなる」といふお話でありました。或はさういふことがあるかも知れません。こゝに私の申すやうな勅選議員、職能代表者といふものを入れますと、立派な政治性が出來るのでないか、今日貴族院が政治性を持つのも、そこに有能な勅選議員、多額議員といふものが居るから政治性が附く。これを衆議員にやつて行く場合に、果して従來の貴族院制度でいゝのか、衆議院を従來の儘にして置いていゝのかといふと、私は萬民翼賛といふ意味からいへば、衆議院に於て、私の云ふやうな組織にすることが本當の萬民翼賛の機構になるんぢやないかと考へるのであります。さういふ風に議會の構成を考へて、そして〇〇〇〇〇〇付けますといふと、代議士としては入つては〇〇〇〇のメンバーであり、出でゝは國民代表として議席に於て自分の意見を述べ、一方〇〇〇〇に於

確立に當るべきだといふことを私結論的に申上げられると存するのであります。

次に經濟新體制でありますが、この經濟新體制は、別に○○的な體制を執ることが新體制ではないのであります。從來商工省、或は企畫院その他の方面の方々、或は大藏省の若いお役人が大阪邊りへ見えての話になります處を聞きますと、どうもそれが○○○○であるか、○○○○であるかと疑はれる點が多いのであります。私の經濟學はマルキシズムを打倒するため研究されて居る經濟學であります。十年間マルキシズムを研究致しました。アンチマルキシズムの理論を樹てますため十五年の歳月を費して参つたのであります。マルキシズムの經濟理論の誤りに就ては、私は何千人來ても一人で打破するだけの自信を有つて居るのであります。かういふ現在に於て、日本人に入つて來て居ります○○○○○○○○○○○○○○○○○○日本の教育、政治、經濟の中に○○○○○○○○○○○○○○○○來て居るのであります。○○○○とか、或はいろいろな言葉で以つていはれて居るのが、既にこの○○○○○○愛國思想に對する便乗の一つの手段であります。彼らが既に愛國的な言葉を以つて自分のイデオロギーを述べて居り、○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○が、片一方には○○○○○○○○と繋つて居るといふことがハッキリいひ得

るのであります。政府に於てもこの點お氣がつかれていろ／＼工作をされて居るやうであります。これは經濟の衝に當つて居られる商工大臣、大藏大臣、農林大臣、鐵道大臣、逓信大臣といふ方々で作つて居られる經濟閣僚懇談會、こゝで一つ經濟に關する、本當の日本的な理論といふものを樹て、指導精神といふものを樹て、これを國民にお示しになつた方がいゝのでないかと思ふのであります。○○○○といふことは○○○○に於ていはれて居ります、○○○○といふことは○○○○○○のものであるといふことに或はお氣付きにならない方が居られるんぢやないかと私考へて居るのであります。

然らば私の申します經濟新體制といふものはどういふものかといふと、私は經濟新體制といふても別に何もないと考へるのであります。唯併し、新體制といはれるものゝ内容を分析致して見ますと、共產理論でなく、從來の經濟統制の改善、強化といふものが私は新體制だらうと信ずるのであります。從來政府のやつて居られる經濟統制は非常に不味いものであります、それと申しますのは色々な理論が入つて居り、實際の經濟、人間經濟といふものを尊重する構成が行はれてゐないからだらうと思ひます。殊に政府の物價統制といふものが非常に不味いため、無益の經

すと、先刻も申しましたが、物價統制を先づ第一に改善しなければならぬと思ひます。

御承知の如くお正月には我々は鯛、海老もロク／＼買えないといふことになり、東京でも昨年の秋、殊に第三階級の人々がせめての御馳走と思つて居る秋刀魚が買えないといふのでポヤいて居るのを目撃して参りましたが、何程えらくも商工省のお役人が學校を出て直ぐ商工省に入り、魚のことも知らないのに魚の値段を決めるといふことが既に大膽であります。これは勿論價格形成委員会もあり、専門家の意見も聞いてやつて居ることは明かですが、自分の専門の商賣に就ては知識は持つて居るが、材木屋さんは材木のことは知つて居るが鐵のことは知らない。又鐵の中でも、自分の扱つて居る専門の鐵だけでその他のことは餘り知識がないのが専門家の缺點であります。或る専門家の意見を聞いて全體を決めるといふことは益々事務官の考へ方を誤らせるものであると思ひます。この物價統制をどういふ風にして巧くやるかと申しますれば、これは一人、半人の意見を聞いてやるといふよりは、寧ろこれは専門の業者に全部一任する方がいゝのぢやないか、組合員全部にその物價を定める機能を與える、それを互ひに監督し、自治的に監督する機能を與へればいゝのでないか。併しそれでは自分らのことを考へ全體の均衡を考へ

ることを忘れるので、そこに練達堪能な中樞になる指導者がなければならぬ。そして各團體に實行權を持たせるといゝのであります。若しそれらの人が不當な價格を決定し、或は經濟界を攪亂し、或は消費者に迷惑を及ぼす時には、組合員全部を連帶責任として罰する。そうすればこれでは困るといふので互に警戒し、互ひに自重し、自からそこに統制といふものが完全に行はれ闇取引がなくなるのぢやないかと思ひます。私の知つて居る或る業者は、今日の商賣を續けて行かうと思えば少くとも千分ノ一、萬分ノ一でも闇取引をやらなければ商賣は出來ないといふことをいつて居りました。事實いろ／＼聞きますとさうであります。私最近小さな家を建てやうと思ひ、一棟領に、三十坪の制限内の家を建てたいが何時でも建つかと訊くと、「〇〇〇〇〇〇買えば何時でも建つが」僕は「〇〇〇〇は絶対嫌ひだ」といふと、「釘一本でも〇〇〇〇〇〇仲々買へない、公定價格で買はうと思へば二、三ヶ月待たないと來ません、それまでお待ち下さればよろしいが請負期間に全部間に合せるといふことになると〇〇〇〇〇〇を認めて戴かねば建ちません」といふのでとう／＼斷念した事實を私體驗して居ります。政府に於ては眼をつぶつて居るんだらうと思ひますが、かういふ不正な物價統制、物資配給統制といふものをやつてゐてはいけません。配給統制

の缺點は、先づ第一に物價統制の缺點から生れて來て居るのでないか。即ち公定價格を正しいものに直した價格に於て正しく配給が行はれるやうにすれば、私經濟新體制といふものは自から立直つて來るのでないかと思ふのであります。

そこで今申しましたやうに、經營と資本の分離を否認し、利潤の不當な抑制を否認するといふことになれば、そして今までの統制を正しくするといふことになれば、經濟新體制は何でもないぢやないかと仰せられるかも知れませんが、併し本當に私の申します統制といふものは今やつて居りますやうなものではないのであります。もし高度な統制を希望して居ります。所謂高度國防國家體制に順應した統制でなければならぬと思ひます。それを技術的に申しますと一、二時間かゝりますので、大體を申しますれば、日本のやうに物資上の偏傾が起りましたのは軍需の統制と民需の統制の均衡を考へなかつたといふ處に一つの缺點があります。これは總力戰的研究が足りなかつた爲と考へます。最近ロンドンに於ては爆撃が旺んに行はれて居ります。英國皇帝もすでに「ロンドンが第一線だ」といふことを國民に向つて叫ばれて居る如く、日本も先刻申しましたやうな危機が來ましたらば、大阪が第一線になると思ひます。さうなると軍需と民需とい

ふものゝ間の釣合といふものを餘程考へなければならぬと思ふのであります。現在のやうな状態に於て、例へば鐵道が爆破されると、明日から米や炭がなくなる買溜をしてはいけないといふので皆買溜を控えて居ります。最近米は五日分だけ一度に配給しますが、かういふことではいけない。各家庭の能力に應じ、米、木炭、その他食糧品を相當貯藏するといふ方法を執らなければいけないと思ひます。一ヶ所に積んで置けばそこを爆撃されると米も炭もなくなります。各家庭に貯藏すれば倉敷料も要らない、萬一の場合にも國民各戸の生活といふものが保證される、かういふ處まで配意を及ぼして行きますならば、本當の戦時下の新體制といふものが十分に經濟界に及ぶのではないかと思ふのであります。

昭和十二、三年頃〇〇〇〇〇〇〇〇とよく議論したのでありますが、〇〇〇〇〇〇〇〇達は、私が軍需民需の均衡論をやりますと、(以下九行削除)

經濟統制上に於て缺けて居る處は、今申しましたやうに運用上に於ける國民の經濟性を巧く利用して行くといふ處に缺點があるのであります。この缺點は同時に、又さういふ經濟性を抑制すべき國民一般大衆に缺點があると思ふのであります。これは政府ばかりでなくして國民も同時に

又その缺點に對して責任を負ふべきであると思ふのであります。これらの缺點が除かれたならば、どういふ風な方面に日本の經濟を指導して行くかといへば、私は常に申して居ります。發展的均衡原則といふものを常に申して居ります、政治的にも、物質的にも總て釣合の取れた發展をして行くやうにしなければならぬ、それは總力戰の原則から申してもさうであります。

今我々が經濟新體制として望む處は、結局正しい物價構成の下に物價を定め、そして公正なる配給を行ひ、軍民兩面均衡が取られて、然も日本の生産力、消費力が漸次發展して行くといふ方向こそ、私新經濟體制の本質に當て嵌るものだと思つてあります。いろいろ議論はありますがけれども、經濟組織を一朝にして破壊致するといふことは、丁度ロシヤに於ける如く非常に弊害が起るのであります、却つて生産力は低下すると思ひます。何十年生きて來たこのからだを俄かに改造するといふことは、如何に西式健康法によつても出來さうでない。そこで過去の成行きを尊重して、なるべくフリクションを少くして、これを育生して行く必要があると思つてあります。なほ多く申上げたい處もありますが、これでお許し願ひたいと思ひます。

〔清交社會報〕昭和十六年三月十三日號

お断り。第三十四章以降の論文は筆者が大阪商工會議所理事たりし時代に、その機關誌大阪商工會議所月報及び商工經營指導に毎月執筆せしものを蒐集再録したものである。従つて第三十三章迄のものと比較して年代的に後戻りしたため、甚敷不都合の感あり、讀者にお詫せねばならぬと考へ、茲にお断りする次第である。

三十四 經濟情勢の豫測

經濟界の將來の情勢を豫測し、それを自己の業務の指針とするは、經濟界に身を處するもの、何人も敢てする所ではあるが、それを自己のみの事柄とせずして、社會に發表し、その豫斷の正

確性を主張し、經濟界の教導者を以て任ずるに到つては、神ならぬ身の程を知らざる、大膽なる行爲と言はざるを得ない。併し乍ら、經濟界の將來の情勢を卜することは前述せる如く何人も敢てする所であるが故に、嚴に之を一家言として局守し、唯一般の參考に供する程度ならば、その罪極めて軽くして、而も社會を益する所少なからずと、言ふも過言ではないであらう。私は、かゝる態度に於て、以下少しく昭和十一年度の經濟界の情勢の歸趨を觀測せんとする次第である。

昭和十年に於ては、上半季中は甚しく明朗性を缺いだ情勢が看取され、一般に悲觀人氣が優勢であつたが、下半季に入るに及んで、頓に明朗性を取り戻し、樂觀論が横溢する有様となつた。殊に政府の財政計畫が發表され赤字公債漸減方針がとてかくに保守されて、健全財政の旗印が、東風にはためき得るとの見込が樹つに従つて、更に樂觀人氣が倍加する勢を示した。かゝる樂觀人氣は、勿論健全財政主義に對する信賴に基づくけれども、尙その裏には、我國の國際的地位に對する自尊の念の一層確固たるものあるに因ることを、忘れてはならないのである。即ち詳言するならば、昭和六年の滿洲事變當時の國論は、その歸一すべき方途に迷ひ、甚しき醜態を曝したのであつたが、十年度の類似の事象たる北支問題にあつては、國民は極めて冷靜であり、國論は

歸一する所を得て、何等の醜狀をも呈しないで済み、且つ又済みそうであることは、國民が國力の強大性に自信を持ち、動搖することなき國際的な我國の地歩を、自覺するに到つたに由因するものと言はざるを得ないのである。

然らば、かゝる自信を得るに到つた、我國の國際的地歩は、如何にして得られたかと云ふに、それは一に國民の經濟力の充實によるものと、斷じて差支ないと思はれる。如何となれば、我國の國防の完璧を期するにしても、そこに第一に要求されるものは、國民の生産力——勞働力及び生産的技術——であり、それなくば、幾億の富を以てするも、遺漏なき軍備を所期し得ないと同時に、かゝる生産力を購買するに足る購買力の創造が、可能でなければならぬとせば、根底に於て、斯の如き購買力の創造を爲し得る如き、強固なる經濟機構を有する國民經濟力の存在が必要であるからである。かく論定し得るとするならば、自からそこに、本年度の經濟界の情勢が如何なるものであるだらうかの結論が、生れ出づるを得る譯である。

昭和七年以來の軍備擴充による國民經濟力の進展の程度は、極めて大なるものであり、國民の有する潜在購買力の増加は、約二十億圓に達するものがある。従つて、かゝる多大の増額を來た

せる潜在購買力によつて、支持されつゝある我國經濟界が、何等かの不測の大災害によつて禍されざる限り、本年度に入つて急激なる萎縮をなすべき筈は無い。今假りに、本年度に於て起生し、そうして従來の好調を阻害することあるべしと思はるゝ事柄について考察を廻らすに、その第一は、北支工作の問題であらう。九ヶ國條約その他の舊諸條約は、形式的には今尙有效に存続するものであるも、東亞の大勢の著しく變化せる今日に於ては、最早現行條約としての價値を喪失せるものであり、それによつて我國の行動を掣肘せんとすることは、實際を無視したるものと云ふべく、従つて國際的干渉が、それ等の諸條約を楯として行はれ得るとは、思へないと同時に、該工作それ自體が支那の主權を尊重しつゝ、北支民衆の安寧幸福を希念する地方自治の形態を於て行はるゝ限り、それは英國の手によつて行はれつゝある、磅ブロック工作と兄たり難く弟たり難きものと、云ひ得るのである。かく觀するならば、北支問題は、我國經濟界の痛と成る惧なきものと、斷言し得るのである。

第二は、金融操作の問題である。それは、換言すれば、悪性インフレーションの問題であるが、我國の圓貨は朝鮮銀行の發券準備として吸収され得るものであるが、滿洲國幣が圓貨と等價

になり、近く又北支に圓貨と等價を條件とする發券銀行が創立されるならば、圓貨は滿洲國幣及北支銀券の發行準備としても、吸収されるに到るのみならず、圓貨そのものが、滿洲及北支に流通するに到るならば、圓貨に對する需要は、極めて擴大されることとなり、従つてその價値は、發行額の多少の増加ありとするも、決して低落することなく、寧ろ上昇の傾向を呈示するかも知れない故に、悪性インフレーションの心配は毫末も必要がないのである。

第三は、輸出貿易の萎縮の問題である。統計の示す所によるならば輸出貿易額の逐年の増加率は、漸次遞降の趨勢を示現して居る所からして、悲觀論を唱へる人があるけれども、輸出品産業に従事する人々が、品質の優秀にして、價格の相當高いものを、或限度を超へない程度に自制して輸出する事に努力するならば、昨年迄と違つた海外購買階層の需要を、誘引することが出来る見込が確實であるが故に、決して悲觀する所なく、努力を惜まぬことが、本年の貿易趨勢を好望に導く最良策であると、私は固く信するのである。尙以上の外に多くの述べべき點あるも、多忙閑を得る能はざるを以て、之を以て擱筆することとしよう。筆を擱くに際し、讀者諸賢の多幸なる新年を祈念して止まない。(昭和十一年一月號月報所載)

三十五 科學的產業立國論

我國の如き天然資源に乏しく、而も人口増加率の極めて大なる邦にあつては、その立國の經濟的基礎を人力に素むる以外に、何等の方途も見出し得ないことは、多言を俟たずして明かである。併し私が茲に謂ふ所の人力とは、單なる筋肉的勞働生産力を意味するのではない。それは正しく人間の智的生産能力を、意味するものである。換言すれば、科學は人類の智の所産であるが故に、人間の智的生産能力即ち科學的生産能力が、我國の如き天然資源に乏しき邦の産業を、振興せしむる原動力となる唯一のものであると斷ずるも、大過ならずとせねばならないであらう。

昨年の晩秋より初冬にかけて、私を最も多く苦しめたガソリン値上問題は、煮詰める所、我國の石油資源の貧困に起因するものであつて、自動車業者が國辱的値上げなりとして非難するは、一面に於て正に眞なるも、而も亦他面に於て、商工省當局の値上容認の餘儀なき苦衷をも諒とせねばならない。若し我國に於て、何等かの科學的方法によつて、容易に且つ安價に、液體燃料を生産し得るならば、ガソリン値上問題は起らずして済んだことと思はれる。此所に吾人の再

省し三省すべき根本問題が存在して居るのである。

勿論我國に於ても理化學研究所が設立され、その發明に成る諸企業の創設を見るに到り、理研コンチエルの名を以てその系統の諸企業を總稱するものさへ現はるゝに徴し、科學的生産力を基礎とする諸産業が、如何に多望なる將來を約束されて居るかを、吾人は眼前の事實として認識しない譯には、行かないのである。此の理化學研究所の、今日迄の實績に照して、吾人はかゝる施設が今に到るも唯一つの「理研」に止まつて、何等の増設の企劃をも耳にせざるを、悲まざるを得ないのである。かくの如き唯一つの「理研」の偉大なる業績を以てしても、世界の耳目を聳たしむるに足るならば、五つ六つ否十指を以てしても數へ盡せぬ程の「理研」を持つて居たとしたら、我國の産業界は今頃は、どうなつて居たであらうか。想像するだに愉快であり、又同時に殘念に堪えない次第でもある。

獨逸が埋藏資源の貧困なるにも拘らず、又歐洲大戰後の國歩の艱難にも拘らず、今尙中歐の大勢力として、その存在を主張しつゝあるは、一に獨逸民族の科學的生産力の卓越せるに由るものである。例へば獨逸が遠くその智的生産物を滿洲國に賣込んで、その代償としてより多くの大

豆を買取らんとするのも、大豆から生産される、換言すれば、大豆なる自然素材に添加されたる獨逸の科學的生産力の生み出す、レチチンなる栄養素を採取せん目的であつて、而してそれによつて安價に國民をして體力の保全を計らしめんとするのである。私は私の知る數人の獨逸の學者を通じて會得したる點は、彼等の頭腦の極めて組織的であると同時に、その推理力の偉大さに於てのみ、彼等の發展性の原因を把握すべきであること云ふ事であつた。我日本人も亦此點に於ては、決して劣つて居るとは思へない。撓まざる努力によつてのみ、科學的創造は成し遂げ得られるのである。東洋的ローマンテインズムは、科學の世界には無用である。

皇紀二千六百年を記念する事業として、我大阪に於ては、常設國際見本市會館の計畫が進行しつつあり、私もその計畫委員の一人として努力しつつあるものであるけれども、日本の最大の産業都市たる大阪に、唯一つの理化學研究所をも持たないことは、洵に遺憾であり、それを有せざる事が、大阪をして將來の世界産業都市の最高峰を以て任ぜしむるに足らざることを、示唆して居るようにも見える所からして、等しく記念事業の一として、綜合的産業科學研究所の設立を計畫すべきものと考ふる次第である。尤も仄聞する所によれば、内閣調査局に於て、大阪に綜合的

工業研究所の設置を提案されたそうであるが、私は夙に同様の意見を抱いて居るものであるが故に、その名稱と設立者の如何を問はず、實質上から見て、我國の最大の産業都市たる大阪に、綜合的ない産業科學研究所の殿堂の建立されんことを、祈つて止まない。

翻つて考ふるに、日滿支ブロック經濟の眞の成立は、死藏されたる滿支の埋設資源に、我國の科學的生産力を加ふることによつて、始めて可能であるは、私の贅言を必要としない程明かであるが、この明白な事柄を事實として具現せしめるには、科學的研究の存在が前提的に必要とされるのである。滿洲と北支に極めて密接な關係を有する大阪に、一大研究所の設置を急速に實現するに非れば、日滿支の經濟ブロックの結成は、大成を見ずして終るやも知れないと、危惧されな

いではない。

人間の智力を若し天然資源と云ひ得るならば、獨逸は最も天然資源に富める國であり、我國も亦等しく、天然資源に富める邦であると云ひ得よう。この資源は、併し、人類の存續する限り無限のものであつて、掘り盡され得る炭田とか銅山とかとは、類を異にするは言ふ迄もない。かゝる無限の寶庫を我大阪に拉し來り得るならば、それは執りも直ほさず、日滿支經濟ブロックの大

成と共に我國の産業の無窮の發展を約束するに等しいであらう。(昭和十一年二月號月報所載)

三十六 商品の多様性と中小商工業の向上發展策

巨大産業資本の獨占的地位強化の技術的一方便として、工業生産品の規格統一が唱へ出されたとは、反資本主義者の主張する所であるが、如何にも彼等の言ふ如く、藝術的多様性を取り除いて機械生産を極めて容易ならしめることは、大資本による大量生産を奨励する結果を來たすものであるけれども、又一面に於て機械生産による安價な商品の供給は、中産以下の階層の人々に幸する所が大であるは、言ふ迄もない事柄であり、一應は功罪相償ふものと言つて可なりと信ずる。

近時中小商工業の窮狀見るに忍びずとして、種々の方策が論議されて居るが、商品の單一化の傾向が阻止されない限り、企業の資本的集中を抑制することは極めて困難であらうと思はれる。尤も、斯く言ふとも、私は決して、規格を統一することが絶対に必要であり、又そうすることが社會全般の利益であるもの迄も、標準化してはならないと云ふのではない。商品の安價であるこ

とは、中産以下の者にとつては、福音であるけれども、他面それが群小生産者敗退の武器によつて、安價であり得たものとすれば、或は一方で得る所は、他方で失はるゝ所よりも少ないかも知れない。否、事實上失ふ所が得る所より大なのである。

人類の生活を、物心兩面から觀察して見るも、その向上發展は、他の言葉を以てすれば、複雑化に外ならないのである。而してかゝる意味の複雑化は、亂雑化ではなくて、統和されたる藝術的多様性の増殖を意味するものであるが故に、社會生活の向上發展が遂げられつゝある處、其所には必然的に、多様の商品が生産され配給されねばならない。然るに若しかゝる場合に、大量生産の技術的便益のみが尊重されて、藝術味を閑却したる商品が、市場に提供されるとすれば、吾人は生活向上發展の手段に缺けたる、素寞たる境涯に甘んじなければならぬ。言をなすものは、今日の中産階級以下の人々には、かゝる藝術的生活境に入るに足る、餘裕さえないと云ふ。併し私の考ふる所では、それは奢侈と藝術的生活とを混同した議論であつて、藝術的生活は決して奢侈的高價生活ではないのである。私の意味する藝術的生活は、機械生産の極端なる制歴から解放された、個人的創造性の豊かな、商品の供給によつて充足され得るものであり、而し

てその充足手段たる商品は、極端なる機械的單調性から解放されながら、而も高價ならざるものであるを要するは、言ふを俟たない。

かゝる藝術的意味の商品の生産は、中小工業の最も得意とする所であつて、そこに斯業更生の途が存すると云ふも過言ではなく、従つて又それと緊密に連繫し得る所の、中小商業の發展の鍵も亦、そこに在ると云ひ得ると思ふ。尤も今日の經濟制度から云へば、前述の如き中小工業は、その藝術性を保持しながらも、巨大資本の隷屬者たるべき運命にあると云ひ得ないではない。併し、機械生産の萬能力を發揮し得ざる部面の多き所には、大生産資本の侵入の餘地少なく、唯僅かに大商業資本が獨占的注文主として、かゝる中小生産者に握手を求めんに過ぎない。之とても中小工業と中小商業が、相互に親和の態度を以て結合するならば、容易にその侵入を防止し得るであらう。

中小商工業の擁護と更生を叫ぶ人士の數は、頗る大であるけれども、それ等の人々は中小工業と中小商業を、各別に取扱つて居るがために、的中したる方策を樹て得ない様に見へる。商業は工業生産品を購買し販賣し或は工業原料品を供給するものであつて、工業と商業は縦に連繫する

が故に、この二者を分離して、それ等の擁護と更生の策を並行的に講ずる事は、その効果を半減するのみならず、往々にして百千の努力を水泡に歸せしむる惧がある。従つて、若し中小商工業を徹底的に擁護し更生せんとするならば、中小工業と中小商業をして、各の商品部門に照應して縦斷的に相互に緊密なる連繫を形成せしめることが、絶対に必要である。今日行はれて居る商業組合と工業組合の制度を更に擴張して、商工組合聯合の制度を許して、縦斷的な中小商工業の自衛的統制を策すべきである。

上述する如き、中小商工業の縦斷的連繫が、中小工業の藝術的多様性を基礎として形成されるならば、中産階級以下の購買力の減退を來たすことなく、否却つて増加せしめつゝ、中小商工業の向上發展を、極めて容易ならしめ得るであらう。此の私の説に對して、かゝる方策は國際商戰には適用し得ないとして、反對するものがあるけれども、併しそれは反對論者の謬見であつて、我國輸出貿易の將來の大宗たり得べき、雜貨貿易品にあつては、殆どすべてが中小工業の生産品である點より觀察して、私の主張が、内外商戰の何れに於ても採擇され得るものであることは、言はずして明かである。茲に私は、中小商工業の擁護と更生の根本原則を述べて、識者の省慮を

希ふ次第である。(昭和十一年三月號月報所載)

三十七 經濟統制整備論

現に我國に於て行はれて居る經濟統制は、自治的統制の形態を採るものであるが、併しその行はれる方面によつて、或は反資本主義的であり、或は純資本主義的であるがために、經濟界全體の均衡を得たる安定を招來し得ない憾が、多分に存するを遺憾とする。例へば、産業組合主義、即ち反資本主義的な農業自立主義を奉ずる方面に於て行はれる、自治的統制なるものは、商工業部面に於て行はれる所の、純資本主義的な自治的統制とは、全然趣を異にして居る。従つてそこに、農業方面と商工業方面の間に、相互反立の情勢を醸し出すことは、自然且つ必然であると云ひ得よう。

前述の如き反立の形勢は、實に農業と商工業との間に醸成さるゝのみならず、農業關係者間及び商工業關係者間にも、兄弟互に牆に鬩ぐ必然的情勢が生れ出づるのである。之を實際に徴するに、地主、自作農、小作農の三者の間、並に大商工業と中小商工業の二者の間に、必然的に統制上の衝突を來すばかりでなく、商業と工業との間にも避く可らざる反立の要因が存在して居る。今此所に商業と工業との間に存する反立の一例を擧示せんとするならば、私が昨秋來取扱ひ來つた所の、セメント特約販賣店とセメント製造會社の間の、利害相反の事實を、最も好適例として採擇すべきであらう。

セメント製造業は、重要産業統制法によつて統制されて居るものであるが、而も完全なる、統制が行はれて居ないために、市價は常に崩落の氣運に在り、斯業の統制は全く有名無實に歸して居ると云つても、差支ないと信ずる。かゝる有名無實の統制下にあるセメント製造業に對する政府の措置は、單に販賣單價の切下げを命ずるのみであつて、眞の統制を強行する迄に立到つて居ない結果、將來に於ても斯業界の安定は困難であると思はれる。

而して製造會社間の無統制状態は、延いて販賣業者間の無統制を來たし、更に消費者をして追従する所を知る能はざらしむるに到るのである。かゝる情勢の間に處して、大阪の特約販賣店の大部分が、自治的統制機關を設けて、業界の安定を策しつゝあることは、詢に賞すべきことであるも、その小なる力を以てしては、全國的な市價大崩落の潮流を阻止し得ないことは、言ふを俟

たない。併し私は、かゝる健氣な特約販賣店組合が、全国各地に組織されたならば、相當の効果を收め得べしとは考ふるも、問屋排除なるイデオロギーの下に何等かの方策が、敢行されるとすれば、そこに商工反立の情勢が激化されるであらうことを、深く惧れる次第である。

商工業に對する我國現行の統制方策は、元來純資本主義的なものであるべきは、問ふ迄も無い明白な事柄であるが、若しそれが保守されて居るとすれば、在來の商業機關たる問屋を排撃し、それによつて生じた失業者の救済を、社會策的に解決すべしとの主張は、成り立たない筈であり、假りにその主張を容認するとしても、社會政策的救済費は、究極する所國民の負擔に俟つべきものであるが故に、問屋業に與ふべき口錢の總額と、社會政策的救済費とが同額であるとすれば、問屋排撃は全體的に觀て、何等の利益をも生み出すものではない。而も社會政策的救済の對象たるべき人々の増加は、救済費額の多少に關せず社會不安の増加を意味し、政治的困難の加速度的増嵩を、結果すべきは明かである。従つてもし幸にかゝる考察の成立が承認されるとせば、在來の自然發生的な商業機關の存立を保證しつゝ、工業と商業の縦斷的連繫を親密にし、相互の立場を尊重することは、業界の安寧の第一義であると云ふも過言ではあるまい。

人往々にして生産より消費への階梯を省節することが、經濟的合理化の本旨なるかの如く誤解するも、實は全くその反對であつて、經濟界の發展は、生産より消費への階梯の複雑化を必然的に招來するものであり、従つてそこに統制の必要が生じ、而も又かゝる複雑なる階梯を経ざれば經濟界の發展に伴ふ要求を充たし得ないのである。私は生産消費間の階梯を短縮して、強ひて業者を多く生み出し、それに對する社會政策的救済を攻究するよりも、社會政策的救済の必要なき、經濟政策の實施こそ望ましきものゝ第一であると信じて疑はない。

産業組合主義の人々は、商人階層を經濟界の寄生蟲として排撃せんとするも、そは彼等が現時の社會問題の發生原因が、失業者起生に存することを辨へざるに由るものであつて、失業者が商人階層より出づるも、その他の階層より出づるも、結果に於ては一であるとするれば、彼等はそれに對し如何にして責を果さんとするのであるか、實に彼等は一を知つて二を知らざるものと云はなければならぬ。

經濟統制は、元來國家社會の全體的見地に立つて行はれるべきものなのである。それにも拘らず、或一部分に偏したる立場から見て、利益なりとの結論を得たる所を、全體的利益として一般

に之を強制せんとするは、詢に遺憾であつて、切に反省せんことを要望せざるを得ない。私は、各業界の自治的統制が、國民的全體觀によつて統合され、相互の均衡を亂さざる如く、整備され、ことを更に切望して己まないものである。尙更に又私は過般の二、二六事件は、國民全般に對し甚大なる衝戟を與へ、個人主義者に對し深き反省の資を供したものであるが、本事件を契機として、經濟全般に互つて昭和維新の實を擧げ、安寧と致富の相反せざる境涯の達成に努力を惜むものに非ざることを互に誓約せんことを熱願するものである。(昭和十一年四月號月報所載)

三十八 如何にして經濟機構を強化すべきか

千九百三十五・六年非常時來の聲吾人の耳朶を打つことすでに三・五年、遂に來るべき時の來りたる感を深くせざるを得ない。併し乍ら、非常時に處すべき途は、吾人の肚裏に既に描き出されて居る筈であり、今更の如く周章狼狽すべきではないと思はれるも、事實上、經濟界は爲す所を知らざる底の昏迷裡に陥つたことは、絶対に否認し得ない所である。かゝる事態の生起した原因は、奈邊に存するのであらうか。經濟界の人々が、高橋財政の温床に安眠を貪つて居たと云ふ

ことも、一つの原因であるだらう。が併し、その外に尙幾多の非經濟的原因が存するは明かである。今此所では、かゝる經濟外的諸原因について詳述することを見合せ、専ら經濟的に如何にしてこの非常時局に對處すべきかについて、愚見の一端を述べようと思ふ次第である。

我國は現在までの所、二つの相殺し合ふ經濟的事態によつて、不安ながらも安心し得る境涯に居り得たのである。即ち、一方に於て圓價安による輸出品産業の興隆と、軍備擴充による重工業の發展と云ふ惠澤に浴しながら、他方に於て赤字公債の累積に對する不安に戰慄を禁じ得なかつたのである。然るに、今日以後は如何なる状態に置かれるであらうか。軍備の擴充が益々盛に行はれるとすれば、赤字公債の増發は愈々益々累加し、圓貨幣の價值はそれに従つて、低下の傾向を示すべきは必然であり、輸出品産業の技術的方面の進歩にして停止しない限りは、輸出貿易は採算的に増加に導かるべきは言ふを俟たないであらう。従つて、從來同様の惠澤が、重工業と輸出品産業の上に與へらるゝは明かであるが、赤字公債の急激な増嵩による不安は、到底従前の比ではないであらう。然らば、赤字公債の激増に對し、如何なる處置を採るべきであらうか。蓋し吾人に課せられたる難問中の難問で、之があるだらうことは、多言を費すを要しない。

世人或は増税の脅威を説くも、租税は決して税源を涸渴せしむる程度にまで増徴され得るものではない。若し税源を涸渴せしめ、税本を奪ふに到らば、遂に租税收入を得る能はざるに到り、増税の目的を達成することを得なくなるであらう。如何に非常時とは云へ、課税によつて税源までも奪取することはないであらう。それは明かに、課税の目的に反するからである。吾人が増税の程度を云々し得る時代は、未だ眞の非常時局に直面して居ないのであつて、眞に非常時が来るならば、増税の程度如何は、全く問題の外に置かれるものと考へなければならぬ。吾人の恐るべきは増税に非ずして、赤字公債の激増に伴ふ、所謂悪性インフレーションの襲來である。悪性インフレーションの起生は、通貨に對する吾人の信認の念の減減を契機とするものであつて、人々の主觀に發生するコンフィデンスの問題は、銃劍を以てするも左右し得ないが故に、如何なる專政政治的手段を用ゆるもコンフィデンスの恢復は、一度失はれたる限り到底至難のことと思はなければならぬ。吾人の思を到すべきは此一點であつて、此一點さへ把持され得るならば、爾餘の問題は、經濟界に關する限りに於ては、何等危惧の必要はないと云ふも過言ではあるまい。

然らば、最も懸念さるゝ悪性インフレーションを、如何にして回避するかと云ふに、それは一般的價格統制の方法による以外には、最適の方法は存しないのである。價格の一般的統制は、すでに重要産業統制法の發動の一事項として、又米穀統制法、石油業法等に於ても實施を見たる所であり、重要物産同業組合の或種のものに於ても亦行はれて居る實情に照し、その實行は決して不可能ではなく、又世人も決して驚愕することのない、極めて安易な事柄である。かゝる安易な方法を以て、悪性インフレーションを阻止し得るならば、洵に願つてもない幸であると云はなければならぬ。一般物價統制は、勿論低價格主義に準據するものであつて、インフレーションによる物價の高騰を、一般商品の價格を低度に公定して以て一定限度内に抑壓し、その結果としての公債金の中央銀行への還流を圓滑且つ速かならしめる點に目的が存するものである。即ち、インフレーションの浸透による物價の騰貴は、通貨の中央銀行への還流を阻止し、次いで還流を阻止されたる放出公債金の一部は、増發通貨に基く増加購買力として、物價の一層の騰貴を招來する反動作用を營む結果、物價は累加的に急騰を演ずるに到るのであるが、物價が一定限度内に抑壓されたとせば、放出公債金が流通界に吸収される原因たる、騰貴したる物價による取引價額の

膨脹現象を見ざるを以て、放出公債金は速かに且つ圓滑に、中央銀行へ還流するは必然である。公債金の還流にして圓滿に行はれ得るならば、悪性インフレーションの起生を考ふる必要なく、經濟界は平和な前途を祝福し得る譯である。

勿論私は、低價格主義による物價統制策を以て、萬能膏とするものではない。他の一面に於て産業全般に互つての統制組合の樹立と提携、而してそれによる物價政策に對する支援を必要とするは、贅言を俟つ迄もない事柄であるが、經濟機構の全面を被ふ所の價格機構にして、全きを得ない場合は、幾千萬の産業統制組合を造るとも決して悪性インフレーションを防止し得ないのである。價格機構、換言すればあらゆる商品の價格の横斷的相互比率と、生産過程に従つての縱斷的相互比率の組織を、公定價格の方法によつて強化せざる限り、襲來を豫想さるゝ悪性インフレーションを、未然に防止するを得ないであらう。自由經濟より統制經濟への移行は、價格の自由裁定から統制公定への變遷によつて完了するものと云ひ得よう。(昭和十一年五月號月報所載)

三十九 經濟的庶政一新の動向

統制經濟から計畫經濟への移行

私は本誌前號に於て、廣田内閣は思想的には修正個人自由主義を主張し、經濟的には統制經濟主義を實行せんとするものであると、述べて置いたが、爾來一層詳細にその國策問題の取扱振りを研究した結果、殊に最近の尖端的トピクたる電力民有國營案の検討振りに照して、事經濟に關する限り、純正統制主義から、計畫經濟主義へ移行行きつゝあることを看取せざるを得ない。勿論海陸軍備に關する、廣義國防上の見地からする、軍需資源及資材の計畫經濟的立案は、すでに實行に移されて居る所であるけれども、國家全體經濟機構を整備せんとする純正計畫經濟的立案に到つては、從來少なからず等閑に附せられて居た感なきを得ないのである。而も前述の軍需資源及資材に關するものでさえも、純正計畫經濟的ではなく、統制主義の範圍を出でないとも謂ひ得る。かゝる際に於いて、電力民有國營案が提唱され、現實の經濟機構の如何を問はず、理想

主義の大旗を翳して、一舉に電力業界の革新を計らんとするは、明かに之れを經濟的表現として、純正計畫經濟的なるものであるとなし得よう。

私が拙著「社會經濟新原理」に於て述べたるが如く、統制經濟は現實機構の不合理の匡正を目的とするに反し、計畫經濟は現實に頓着する所なく、理想境を先づ描いて、現實をそれに志向せしめるものであるが、その實現に當つては、現實の破壊を意とせざるものである。かゝる統制經濟と計畫經濟の相異なる意義を知る時、識者は容易に電力民有國營案の根柢に、純正統制主義を逸脱したる何物かのあることを、看取し得る筈である。而してその何物かは、言ふまでもなく、純正計畫經濟主義そのものに外ならない。併しながら、現實の破壊は却つて理想の達成を遅延せしめるものであるが故に、彼の蘇聯邦でさえも純正計畫經濟主義を放棄し、統制經濟主義の幾分の採用を餘儀なくした先例に鑑み、我國に於ける統制主義が、計畫主義へ移行しつゝあるとしても、それは純正計畫經濟主義への完全なる移行を取てするものに非ずして、幾分の計畫主義の採用に終るべきは、明かに見透し得る事柄である。かく觀察する時に於て、吾人は、實際問題として、電力民有國營案は、計畫的統制經濟の一見本、詳言すれば、統制主義と計畫主義の妥協的産

物たる、計畫的統制經濟主義の第一着手のサンプルであるとの見解に到達するのであるが、その社會的思想としての解釋は、如何であらうか。私見を以てすれば、それは修正個人自由主義の強化に、換言せば、個人自由主義を強度に修正せんとするに過ぎないものであるが、併し乍ら何人も、國家全體經濟機構の計畫性の傾向を、否認し得ないであらう。

翻つて考ふるに、國家總動員の軍事計畫の完成のためには、電力のみならずあらゆる軍需資源及資材の、計畫的統制化の必要あり、基礎産業の各部門は云ふに及ばず、大小幾千幾萬の企業經濟に對して、巨力なる計畫的統制の手が延べらるべきである。然る時は、若し電力民有國營案の如き方法が、計畫統制の最良の方法なりとの國民一般の承認にして成立せんか、今後多數の企業が、民有國營の對象として、順次採り上げられるに到るべきは、火を賭るよりも明かである。逓信省當局は、電力に限定し局限すると云ふも、それは逓信當局の權限内の事項についてのみ、責任ある言となし得んも、他の各省の所管事項については、何等信賴すべき言質とはならないばかりでなく、假りに政府當路全員一致の意思表示でありとしても、内閣更迭の曉に於ては、一片の反古に過ぎなくなるは、逓信省當局と雖も先刻承知の事柄である。

茲に於て、私は廣田首相が、社會思想と經濟統制の動向を、今一應國民の前に明示せんことを切望せざるを得ないのである。國民が純正統制經濟主義を遵奉して、誤りなしと考へて居る際、政府が國民の知らざる裡に、計畫的統制主義へ轉向して居るとすれば、政府當局と國民の間に摩擦が生じ、社會不安はそこから醸成され、遂に再び不幸の事態を惹起するの懸念なきを得ないのである。例へば、株式取引所制度改革に關聯し、當所株の上場禁止の議ありとの報道が傳はるや政府は直ちにその然らざる旨を宣言して、現在の取引所機構の變革に手を觸れざる決意なりとの理解を當業者に與へたのであるが、當所株の上場禁止は、取引所そのもの、算盤の問題であつて、一般産業株の採算の問題でなく、上場禁止によつて受くる損失は、一局部に限定されて居る。それにも拘らず、現取引所機構の變革を敢てしないとの確信を世人に與えた。一方に於てかかる現状維持政策を採りながら、他方に於て多分の計畫經濟性を持つ電力民有國營案を、強硬に主張することは、政府の態度に於て一貫せざる何物かあり、政府部内の主義主張に統一のないことを表明するものと云ひ得ないではない。是私が廣田首相の主義方針の再聲聲明を要求する所以である。それと同時に識者諸賢に對し、庶政一新の動向についての、深き洞察力を要請せざる

を得ない。(昭和十一年十月號月報所載)

四十 新春雜想

謂ふ所の千九百三十五・六年の非常時は、時間的に見て全く過去のものとなつたけれども、我國運にとつての眞の意味の危機は、實際上今後に於て招來されるものである。即ち、昨年までの非常時は、眞の非常時局の前奏曲に過ぎない。本年以後に於て訪れる危局こそは、我國運の死生を決定する底のものであらうことは、識者の等しく認識し豫期する所である。

之を財政について見るに、昭和十二年度の歳計豫算は、三十億餘圓の巨大なる額に達し、之に伴ふ國民の租稅負擔は實際に於ては從來に倍するものがあり、加ふるに赤字公債は究極に於て昨年比し二億圓近くの増發を、餘儀なくされるであらうが故に、國民經濟に對する財政的重壓は、國內經濟に於ける眞の非常時を捲き起すに相違なき程に大なるものである。勿論、かくの如き租稅負擔も今日の如く、我國の經濟全體が、國際的に孤立の状態に置かれ、アウターキー的な

形態を採らんとしつゝある際には、資金の國內的循環が比較的容易に行はれ得る限り、恐慌を惹き起す原因たる惧なきことは、明かであるけれども、政府に取り上げて、それを放出する資金の流路が、相異なる場合に於ては、商工業界は云ふに及ばず、全産業界に景氣の跛行現象を生じ、極めて惠まれたるものと、然らざるものとの二種の階層と部門が生ずることは、必然であり、そこに經濟政策上特に考慮を必要とする課題が、見出されるであらう。従つて、かゝる跛行隙を如何に充填して行くべきか爲政者の上に科せられた、新春劈頭の試験問題であると云ひ得よう。

翻つて眼を國外に轉ずるならば、支那大陸を自己の權益下に置んとする英、蘇聯、米等の策動が、容易にその政治的安定を來さしめざるは明かであつて、我國は何時までも、騷擾の隣國に接して、焦慮の日を送らねばならないであらう。之は我國民にとつて、耐え能はざる憂患であるのみならず、中華民人にとつても亦、同様であるだらうことは、想定に難くはない。それ故に、南京政府當路者は、日支提携を極端に回避するけれども、滿洲の現状に照し、日本の高度文化的産業政策の的に鑑み、日本と提携することが最も中華民人の人生觀に適する、經濟生活を可能ならしむる捷徑であることを、悟るべきである。詳言すれば滿洲國建國の國是たる五族協和、王道

樂土の主張は、中國人の世界觀に合致するものであり、之が實現を期する所の經濟政策は、正に彼國人の歡迎に値するものと云ひ得る。かく觀察するならば、南京政府當路、或は西安の兵變にして成功したとすれば、南京政府に代るべき新政權に於て、抗日主義を一擲して、東洋君子との握手提携に邁進し來るべきは、理の當然である。然るに若し、このことに行はれ得ずとすれば、そこに障碍となる何等かの特殊の重大なる理由が、存しなければならぬ筈である。かゝる重大なる理由の究明と、而してかゝる障碍の除去が、新春と共に我國民の頭腦に課題として、刻み込まれなければならない。尙附言するならば、極東に於ては、日支の衝突は、日本對蘇聯並に英米との同時的衝突を意味するが故に、この邊に對する國民の深き用意がなくてはならないのである。

とにかくに、本年は、實際に非常時代の第一年であつて、我國民は最早軍需景氣の利益的側面のみを見て、愈安を事としてはならない。臥薪嘗膽の覺悟を以て、眞の非常時局に對處する覺悟が肝要である。(昭和十二年一月號月報所載)

四十一 自治的經濟統制の強化擴大を勸説す

新春劈頭に發令された、外國爲替管理の強化擴大令は本年度以降に於て展開さるべき、幾多の經濟統制策の擴充の、第一着手として即行されたものであつて、今後かゝる抜打的法令の頻繁に發布されるであらうことは、想定に難くない。従つて、商工業界にあつては、經濟狀勢の變化の動向を豫察して、今次の如き即日施行されるべき經濟法令の發布に當つても、周章狼狽せざるだけの、不斷の用意が必要である。勿論、政府當局が、商工業界の實勢を注視して、法令施行によつて、統制界に不必要な動搖と不安を生み出す如き、手續上の缺陷を避くべきは言ふまでもない事柄である。

前述せる如き、民間業界の不斷の用意は、別に困難な問題ではない。それは民間各種業界の自治的統制の強化擴充によつて、容易に解決し得るものである。而して、かゝる自治的統制は、各種業者の統制組合の組成によつて、極めて簡易に行ひ得る事柄である。例へば、今次の「輸入貨物代金の決済及外國爲替銀行の海外指圖に依る支拂の制限に關する外國爲替管理法に基く命令の

件」なる大藏省令に關しても、各種商品別又は業種別輸入組合の結成が、自治的カーテルとして行はれて居つたとしたならば、直ちに組合の成員たる多數業者の意見をとりまとめ、政府當局に向つて、機宜の處置を要望し、無益のフリクシオンを可及的小範圍に局限することが出来る。即ち、羊毛工業會とか羊毛輸入同業會とか、或は棉花同業會とかの、自治的統制團體の結成されて居る業種に於ては、極めて強力なる要請を、政府に向つて成し得るのみならず、その要請する處が、斯業界の輿論の結晶として反映するがために、目的貫徹が従つて又容易となる上に、かてゝ加えて、斯業全體としての採るべき對策が、即ち各個の營業者の個別の利害を超越して、一般化されたる、何人が見ても餘りに我利的でないものが、社會の輿論の支持の下に、樹立され得るが故に、業界内部のフリクシオンが減殺され、却つて内部成員たる各營業者個別の利益が、確保されるであらうことは明かである。

我國民一般の通弊として蝸牛角上の争を事とし、小異をすて大同につくの雅量に乏しいため、國際商戰に於て常に無益の摩擦を生起せしめて、結局國民各個の目的とする處に反する結果を、招來するに到つた事例は、枚擧に遑ない程である。今次の爲替管理令の目的とする所は、勿論、

本年上半期の輸入最盛期に於ける、外國爲替の激落を阻止せんとするにあるは明かであるが、即ち同令の施行期間が、本年七月三十一日限りである點よりしてしかく推定し得るのであるが、若し民間業者にして、例によつて例の如く、他人を出し抜いて自分一人が多額の儲をしようとするならば、同令の目的とする處は、上半期間の抑制によつてのみ達するを得ないで、勢ひ下半期までも、その實施が延長される惧が生ずるのである。

今日の如き國家非常時に際會しては、政府はよろしく、國民、殊に民間商工業界の指導的地位にあるものと膝を交へて懇談したる上、出来る限り無益の摩擦と混亂を生ぜぬない手段方法を講じたる上、經濟的法令の施行をなすべきであつて、抜打的功名手柄の心理は絶対に排撃すべきである。而して民間業者も亦、國家的意識に覺醒して「公益を先にし私利を後にする」底の覺悟を以て、國家全體經濟の維持發展に協力すべきである。かゝる全體觀的態度は、自治的統制組合の組成とその擴充によつて強化され得るものであり、それによつて同時に、今後益々盛行さるべき國家的統制に對應して、民間業界の利益を確保し得るのである。(昭和十二年二月號月報掲載)

四十二 中小商工金融について

中小商工金融の通達を計るべしとの議論は、久しき以前より聞く所であるけれども、未だその具體的方法について何等詳細に聞く所なく、又同時に當局に何等かの案があるかも知れないけれども、その實行の上に於ては、殆ど何等の進展を見て居ないと云つても、過言でない程に、遅々たるもので私達の常に遺憾とする次第である。

現在の金融業者、就中一般商業銀行にあつては、要求拂ひの預金を貸出資金とする關係上、或程度以上の長期の貸出は、絶対に不可能であり、又分割返済の方法による貸付も、極めて困難である。所謂中小金融の要求する所は、比較的長期の、而も分割返済の方法による貸附であるが故に、要求達成の見込はつきかねる譯である。

尤も、大阪では、野村銀行の場末の支店で、比較的長期の分割返済方法による貸出を行つて、大阪府の損失補償制度の庇護の下に、相當の成績をあげて居る。野村銀行のこの努力には、常に敬意を拂ふものであるが、それでもなほ、所謂中小金融の要求する所の核心には、觸れて居ない

と思はれる。

所謂中小金融通達の要求に於て發見される核心をなす點は、野村銀行の特別貸出の條件にさえ該當しない貸出要求に對し、貸出しをなすべしとの要請である。即ち、普通の貸出に於ても、特別の貸出に於ても、貸附先の辨濟能力を診斷する材料は、その診斷當時に於ける借受人の企業收利力のみであつて、貸附を受けたる後に於て増加すべき收利力を、問題としないのを、從來の通則とする結果、借受人の要望が達せられないで、所謂中小金融通達の途が阻塞されるが故に、何とかして、この障礙を除き、將來の收利力増加部分を返濟能力の診斷材料に添加すべしとの、要請が生じて來る次第である。

銀行當事者に於ては、勿論將來の收利力の増加を計算に入れないことはないこと、主張されるであらうと思はれる。言ふまでもなく、かゝる計算は行はれて居ることと思はれるが、併し、それは極めて消極的であつて、積極的に銀行の側から進んで、將來の收利力の増加策を、借受希望者と協力して、樹てると云ふことは、從來は絶対に行はれて居なかつたと、確言し得るのである。所謂中小金融の通達を、積極的に、而も眞に有效に行はんと欲するならば、銀行側のかゝる協力

が、絶対に必要であることは、私を俟たなくとも何人も氣附かるゝ所であらう。

上述の主旨を、一例をあげて説明するならば、此處に一つの小工場があるとし、その工場は漸次衰運に向ひつゝあるものとするならば、之に金融の途をつけることは、從來の通則からすれば絶対不可能であり、寧ろ今日までの實例に徴すれば、その工場に金融せる銀行があつたとしても、衰運の徴が見え始めるや否や、その工場への貸附金の回収を急いで、衰滅に拍車をかけることを、憚らないであらうと思はれるが、私達の要請する所は、かゝる場合に於て、銀行はその工場の經營の巧拙を診斷し、更生の方策を授け、工場主と協力して收利力の増加を計るため、前例とは反對に、増貸しをして、設備の改善、生産方法の改良等を行はせ、舊債の返濟は言ふに及ばず、増貸の回収までも容易ならしめるべきであるとするに存する次第で、債務者又は借受希望者の企業の更生に協力して、そこに中小金融の本來の面目を發揮せしむべきだと主張するのである。

勿論、かゝる企圖は、多くの費用を要すると同時に、經營技師を得ることの困難のために、普通銀行にその負擔に於て實行を求むるは、酷であると思はれる。併し、政府、地方廳等が、補助

金を與へるとか、經營技師を養成して供給するとか、その他色々の方法によつて、援助を與へるならば、決して不可能ではない。その上に貸出回収不能部分に對する、損失補償の制度を採用すべきは、言ふまでもない事柄である。

右の目的達成のために、特殊の銀行を設けるか、又は政府或は地方廳に於て、官設の金融機關を作ること亦、考ふべき一策である。が兎に角に、借受人の企業收利力の強化に、積極的に協力して、そこに貸付の可能性を創造するを得る如き、金融機關の組織改善が成し遂げ得ない間は所謂中小金融通達の途は、絶対に打開されない。

私は一昨年來この方向に努力を拂つて居るけれども、未だ成果を得ないで遺憾に思つて居る。私は大方識者の御協力を切望するものであるが、この事は我國時局の危急度の増すに従つて、層一層解決の緊急度が増す譯であり、國民生活安定のため、一日も速かにかゝる制度の成らんことを希求して已まない。(昭和十二年四月號月報掲載)

四十三 如何にして物價を抑制すべきか

前内閣に於ける馬場財政政策の採用以來、物價は急步調を以て騰貴し始めた。廣義國防の中に含意された國民生活の安定は、軍部の要望にも拘らず、全く破壊し去らんとして居る。巷間傳ふる如く、軍部が狹義國防に轉換したとしても、社會問題としての國民生活安定問題は、決して不問に附する譯には行かない。内に國民生活の安定なくして、外に事を構ふるは、國家の破滅を招かないでは濟まない。

結城池田のコンビによる財政金融政策は、自由主義經濟組織に於て現はれる、法則的事實の成行を尊重しつゝ、之に修正を加へることによつて、物價騰貴抑制を行はんとして居るやに、看取出来るのであるが、非常時財政は自由主義經濟組織に於て尊重さるべき、經濟法則に逆行して、遮二無二思ふ所を行はんと欲するのであるが故に、結城池田財政金融策を以てしては、到底物價抑制の目的を達することは不可能である。それはたゞ物價の高騰を、步調に於て極めて僅かに緩如たらしむるに、過ぎないものである。

逆施倒行を必然的に要求さるゝ、今日の非常時局に於ては、金融操作の小手先の術では、物價騰貴の大奔流を塞止めることは、絶対に出来ない仕事であるにも拘らず、政府は預金部資金を放

出して、金融界の停滯を疏通せんと試みつゝありとの報道を聞いたが、若し金融操作を有効に遂行せんと欲するならば、政府は深く低金利策を放棄して、根本的に民間資金の潤澤化を圖るべきであらう。物價騰貴は、資金の需要を多くし、金利騰貴の原因として作用することは、三尺の童子と雖もよく知る所である。結城池田金融が、自由主義經濟を尊重するならば、必ずや經濟自然の成行に従つて、低金利政策を放棄すべきである。然るに、前述せる如く、預金部資金の動員は云ふに及ばず、日本銀行の貸出利率の引下げをなさんとするやに到つては、自由主義經濟の法則に反抗するものであつて、自己の主義に背くと云はれても、辯解の辭が無いであらう。非常時局に際しての逆施倒行は、かゝる小手先のものであつてはならない。事態の根源を直視して、それに向つて根本的な斧鉞を加へなければ、問題の解決は到底望み得ない。併し暫くかゝる小手先の術策の實施を許すとすれば、それは根本對策の補助として採用すべきであり、而もそれは、事態を希望する方向に導くに便ならしむる如く、施行すべきである。低金利政策に執着することは、とりも直ほさず、物價騰貴に拍車を加へるのであつて、政府の希望する所に反する結果を招くは、言ふ迄もない事柄である。

私の主張する逆施倒行の政策は、前段述べたる結城池田財政金融に於ける如きものではない。私は物價の統制を先きにして、他の術策は、之を補助する意味に於て、施行すべきであると、信じて居る。即ち、國家の行はんと欲する事項の遂行に必要な物資の最高所要量を先づ一定し、次にその調達に要する資金總額を、現在物價を基礎として算出し、更に右資金總額の調達の可能度を測定するならば、租税及公債の徴收並に募集の限界による制約に依て、そこに遂行を必要とする事項の達成について要求される、物價の安定點が逆算し得られる。かくして算定されたる物價水準を目安として、需給の調節を圖るならば、吾人の希望する所の、物價の抑制が完全に行はれることになる。換言すれば、物價は通貨價值を分母とし、商品價值を分子とする分數の答數であるが、自由主義經濟に於ては、この分數の分母又は分子或は双方の統制を以て、答數の安定を計るのを通則とするけれども、非常時局に於ては、答數たる物價を或點に固定せしめて、通貨價值又は商品價值、或はそれ等の双方を、答數に對應する如く統制することが、絶対に必要である所からして、私はかゝる逆施倒行の絶対必要性を、説かざるを得ないのである。

勿論、前述する如き物價安定策は、國民の一致協力なくば、到底實行し得られない事柄であ

る。是即ち、私が他の個所に於て、「國民思想統一の必要」なる題下に、物價問題を論じた所以である。幸にその論文と本論とを併讀さるゝならば、微意のある所を諒知せられることゝ信じて、茲に擱筆する次第である。（昭和十二年六月號月報所載）

四十四 最效果的なる物價及金融對策

昨年末來の物價騰貴の原因は、指を屈するも尙足らざる程多くあるかも知れないが、而して又結城財政による修正を蒙つた點もあるけれども、要約して大體左の四者となし得ると思はれるのである。即ち

- 一、昭和十二年度老豫算の編成
- 二、右に伴ふ國內税の大増徴
- 三、輸入關稅の全面的引上の企圖
- 四、外國爲替管理令の強化

の四つとなすことが、當を得たものと思はれる。之等四者は勿論互に因果の關係に置かれては居

るけれども、又獨立しても、物價騰貴に對する拍車たる作用を營み得たものである。

昭和十二年老豫算の編成は、赤字公債の引續いての増發と、増税による國庫收入の増加とに基づく、政府の消費力の増大を象徴したるため、物價騰貴の必然性を豫見しての、市價操作を惹起せしめたと同時に、國內税の大増徴案は、原價採算並に利潤計算上のタクティクとしての、即ち租稅轉嫁策としての、物價吊上げを誘致した。又昨秋の輸入關稅の全面的引上案の豫報は、輸入品國內在庫の市價上昇氣分を誘導したると同時に、見越輸入を獎勵したと同様の作用を來した結果、外國爲替管理令の強化を行はざるを得なくなつたが爲に、將來の輸入難を見越しての、輸入商品並にそれを原料とする國産品の價格を、騰貴せしめるに到つたのである。

物價抑制策としての、最も效果的なものは、老豫算の削減であることは、言ふ迄もない事柄であるが、之は又言ふべくして行ひ得ない事柄でもある。強大なる蘇聯邦の軍備を、目前に看ては、或は中華民國の反日的態度をまさしくと見せられては、或は又英國の老獪極まる外交政策に鑑みるならば、我國の海陸空軍備にして、若し寸毫でも缺陷があるとしたら、之等の國は轡を連ねて日本打倒の聯盟を組織するに、何等の躊躇をもしないであらう。かゝる情勢の下に於て、皇

軍の整備擴充を怠ることは、極めて非愛國的な仕方であると共に、國家百年の計を知らずして、一日の安を偷まんとするものと評されても、反駁の辭を見出し得ないであらう。尤も對蘇、對支對英外交の調整に成功して、蘇聯の極東軍を撤退せしめ、南京政府をして親日を誓はしめ、更に英國をして日英同盟の昔に、復歸せしめ得るの見透しをつけ得るならば、軍備の擴張の中止は、必ずしも不都合でなく、又必ずしも不可能ではない。併しかゝる國交調整の見込にして、成り立ち得ないとすれば、軍備の擴充は、如何なる犠牲を拂つても、必ず成し遂げなければならぬ、國家存立上の必須事項である。否、國民にして、一致團結して臥薪嘗膽以て軍備擴充に邁進するの氣概を中外に表明するならば、そこで始めて、之等諸外國の側から進んで國交調整を申出るに到るであらうことは、想見に難くないのである。

論じて此處に到れば、豫算削減による物價抑制策は全く不可能事たることが判明する。唯、言ひ得る事は、軍事費の使途について慎重を期すると、軍事費以外の國費中、生産力擴充並に物資供給適合に必要なものゝ外は、之を出來得る限り節約するのと、この二つに過ぎないのである。併し、それでも之による節約額は極めて僅少であつて、到底物價を既往の水準に挽回するだ

けの、力を有し得ない。

茲に於て轉じて、物價抑制策としての金利政策を、考へて見なければならぬ。低金利政策は利潤率が増加傾向に於てある場合は、物價騰貴に對して、拍車的な作用を營むものであるが故に、物價騰貴時代に於ては、低金利策は放棄されねばならない。併し、我國の低金利は、人爲的低金利であつて、而してかゝる人造低金利によつて、低利國債を發行して、國庫の負擔を軽減し、それによつて得たる國庫餘剰を軍費に廻さんが爲に、行はれたものであるが故に、今日直ちに金利を引上げるならば、既發三分五厘國債は暴落して、金融界に若し何等の準備がないならば、恐慌を惹起するに到るかも知れない危険がある。従つて、今日の場合、低金利放棄は理論的には必然的成行きであるが、金融界がその負擔に耐え得ないとすれば、政策的に持續せねばならない。私は、前章論政中に又「ダイヤモンド」誌第二十五卷第十六號中に、低金利放棄論を試みたが、それは勿論金融界に耐持力ありと見ての話であつて、又同時に低金利強行によつて、測らずも證券利潤を巨額に收得せるものを吐き出す覺悟が金融界にあるならばであつて、若しかゝる力と覺悟がないならば、高金利策への急激なる轉換は、避け得られるだけ避けねばならないことは言ふ

迄もない。さり乍ら、産業界の現状に照らして、果して低金利の持続が何時迄可能であらうかは何人も疑問とする所であつて、物價の騰勢が續行するならば、好むと好まざるとに拘らず低金利策の保持が不可能となるは明かである。然らば、如何にしてかゝる逆勢を阻止して國債證券の平穩を期すべきであらうか。

之が對策、即ち物價抑制と低金利持續策は、私が既に本誌前二號及び其他に於て述べたることを綜合すれば足るのであるが、重複をいとはず述べるならば、

- 一、軍備擴充に要する物資の——政府直接調達するものと、民間にて請負ふものと、而してそれ等完成品の製造に要する機械並にそれに關聯して必要とされる工作機械、及びそれ等すべてに要する原料又は材料等のすべてを包含する——一ヶ年分の量を先づ算定する。
- 二、之等政府並に民間所要の物資の各種別毎の量に、それぞれの現在市價を單價として乗じ、政府及民間の各別の所要總價額を算出する。
- 三、一般普通政費以外の擴充軍費の爲にする租稅増徴並に赤字公債募集の可能限度を測定する。

四、軍備擴充に要する政府の(二)の物資總價額と、之に對應する人件費を加えたるものと、(三)の増徴増募可能額とを對比し、過不足を算出する。

五、(四)による算出によつて得たる不足額、並に民間の軍需請負による、即ち(一)及(二)に準據する、必要總價額と、民間の自辨調達によつて得らるべき資金額との差の合計に相當する資金は、日本銀行を動員して調辦することとする。

六、前五項までの行程によつて知り得る如く、現在物價を最高限とする物價の統制を強行する。即ち、國定物價を制定して、現在以上の騰貴を法の力を以て抑制する。

七、同時に不足物資の國內生産補給の途を急速に講じ、之が所要資金は日本銀行を動員して調達する。

八、輸入物資の増嵩による對外支拂は、國內生産力の充實まで金現送により支辨する。

九、對外支拂の爲の金の増産を計る爲倫敦市價より少しく高く買ひ上げることにする。

十、右九項迄の操作工程によつて、物價の騰貴を抑制しつゝ、又同時に過度の増稅と公債強募を行はずして、生産力の擴充と物資需給の適合を圖るを以て、日本銀行を動員して得たる資

金の大部分は、物價騰貴に吸収されずして、預金又は貯金となつて、高橋財政の場合と同様中央銀行に還流し、資金の潤澤化、延びて金利の低下を招來する。

十一、生産力の擴充の進行に伴つて國定物價を漸次引下げ、金利低下と相俟つて原價採算の合理化を計る。

といふ方策によるより外に良策はないと思はれる。

私が本誌第三六〇號に於て述べたる國民思想の動員論は、物價統制への國民の無條件的協力の要請である。物價統制への協力を惜んで、高物價から必然的に結果する強度の増税、及び赤字公債の日本銀行手持による通貨の異常膨脹から來る悪性インフレの不可避的來訪を、甘受せぬばならないとするは愚の骨頂ではなからうか。軍備擴充の必然性、従つて又悪性インフレの不可避的招來を承認せねばならないとすれば、今日に於て、何故に國民は、私の主張する如く、低物價への協力に邁進して、かゝる經濟界破滅の危機から逃れるの賢明なる策をとらないのであるか。

赤字公債の連年の増發は、悪性インフレの危機を藏するを以て不可なりとし、同時に又、租税の之以上の増徴は經濟界を破壊するものとして反對し乍ら、軍備の擴充は、是非行ふべきである

とまで行かなくとも、不得已承認せねばならないとするは、首鼠兩端を持つるものであつて、非常時局に對處する所以のものではない。私が本誌前號に述べたる如き、逆施行の非常政策を採つてこそ、この難局は克服し得べきであつて、徒らに逡巡すべきではないと確信する。終りに臨み江湖諸賢の滿腔の賛意を期待しつゝ筆を擱くことゝしよう。(昭和十二年七月號月報所載)

四十五 暴利取締か價格統制か

政府は、八月三日附商工省令第十號を以て、商工大臣及び農林大臣連署の下に、大正六年農商務省令第二十號を改正したる暴利取締令を公布したのであるが、新舊省令の差違を比較するに、取締の對象たる商品種類が増加したこと、價格表示並に報告書提出義務を賦課したこと、先づ戒告を與へて然る後罰則を科することの三項目を除いては大なる相違を認め得ない。法令としての形式上異なる點は、上述の如くであるが、その精神に到つては、形式條項以上に、新舊間に相違する點が少ない。否殆んど相違ないと言つて差支へない程、舊式な道德的意義以上の何者をも、持つて居ないのである。

今日の如き進歩發展を遂げたる我國の經濟組織を眼前にし乍ら、而も非常時國難に直面せる際に、暴利取締令を以て國民に臣むことは、國民の意志を輕視するの甚しいものと、思ふのである。大正六年の際は、我國は未曾有の好景氣に恵まれ、大戰參加國でありながら、局外中立國よりもより以上の有利な地歩を占め、海外よりの金流入其他の理由から、購買力の異常なる膨脹を來し、國民のすべてが浮薄な氣分に満されて居た秋であつた。従つて買占賣惜に類する行爲は絶無とは言ひ得ない狀況であつた。併しそれでも、暴利取締令によつて所罰されたものは、米の買占などによつて罰せられた、米相場師の岡米吉氏唯一人であつたと記憶する。而も米の相場は岡氏の投獄以後却つて暴騰を來し、世間は岡米の投獄の意義が、全然没却されたものとして、當時の農商務大臣仲小路廉氏の輕擧を遺憾としたのであつた。又大正十二年關東大震災の際大阪市金物商川合喜太郎氏が亞鉛引鐵板の買占で所罰を受けたが、それによつて亞鉛引鐵板の需給調整が得られたとも思へなかつた。即ち暴利取締令は、需要供給の經濟法則の前には、物價騰貴抑制方法としては全然無力であることを、曝露したのであつた。勿論暴利取締令は惡德漢の不法買占又は賣惜を防止するためのものであつて、物價低制の爲の法令ではないけれども、物價低制さへ有

力に行はれ得たとしたならば、暴利取締令は全く無用のものである筈である。非常時の聲を聞くこと、既に數年に及んでゐるにも拘らず、政府に於ては物價統制の具體的方策さえ決定されて居ないのであらうか。國民子弟の多數は血税を捧げて滿支の野に働いてゐる秋、誰か國內に於て私利私慾のために買占賣惜の如き惡德を敢てするものがあらうか。若しあつたとしても、それは千萬人に一人あるかないかの例外的事象であらう。かゝる例外的事象を對象として、暴利取締令を發布するは、忠良なる國民を輕視するものと言ひ得ると思はれる。

經濟的需給法則の前に全然無力なる暴利取締令の性質に鑑み、而して現今の如くトラスト、カーテル等の經濟組織のほど完備せる實際に照して、政府は一日も速かに、物價の強行統制を實施して、抜本塞根的對策を講ずべきである。目下我國物價中最も騰貴の甚しいものは、政府の直接監督下にある、而して我國の鐵鋼トラストとも言ふべき日本製鐵株式會社の製品類である。日本製鐵會社の利益金は、茲數年で數億に達すると云はれてゐる。かゝる暴利が政府直接監督下の事業會社によつて獲得されてゐるとすれば、政府は先づそれ等に對して取締の手を延ばすべきであらう。其他某製紙會社と云ひ、某々肥料會社と云ひ、巨利を收めつゝある製造業者は枚舉に暇な

き有様である。が併し此等は今回の改正令を以てしても、取締り得ない所の、需要供給の法則による現象である。かゝる片手落の取扱しか出来ない法令によつて、一日の安を偷むことは許さるべきではない。政府は一刻も速かに物價低制の組織を完備して、國民の要望に應へるべきである。(昭和十二年九月號月報所載)

四十六 戦局の進展と經濟界の將來

我國の不擴大方針にも拘らず、否その故に却つて、南京政府をして、日本與し易しの錯覺を起さしめ、日支の全面的衝突にまで、戦局を發展せしめた。然るに、滿洲事變以來我國は、數億の國幣を費して、軍の近代化を計り、昭和十二年までに、その目的とする所を完成して居たがために、南京政府の打診に反して、極めて勇猛果敢な、而も新銳當るべからざる、戰鬪力を發揮し、彼をして茫然爲す所を知らざるに到らしめた。併しこの事が又、戦局をして更に擴大するの餘儀なき、情勢を誘致したのであつた。即ち、彼は救を露國に求め、表面は不可侵條約の名の下に、内實は攻守同盟を結んで、日蘇支の全面的衝突の可能性を、醸成するに到つた。今や我國民は、

蘇支兩國を共同の敵として戦ふの、固き決意と覺悟を持たなければならない。

戦局の進展擴大に伴なつて、戦費は愈々その額を増加するが故に、國民の財政的負擔は、日に月に増嵩するは必然である。かゝる負擔の増加は、租税増徴と公債應募の二方面から來るばかりでなく、軍需品の補給の完璧を期するためには、國內に産出されない物資に關しては、是が非でも、之が供給を海外に仰がねばならない關係上、軍需品以外の平和的商品の輸入を極度に制限し、依つて得たる所を以て、増加せる軍需關係物資の輸入代金支拂に、振替へ使用する必要が生ずる結果、軍需關係以外の商工業は、營業縮少の憂目を見ねばならず、又國內に於て自給可能なものにあつても、消費節約のために、同様の苦難を覺悟せねばならない。かくの如き、軍需關係業界と然らざるものとの間に生ずる、跛行的景氣現象は、我國經濟界の當面の第一義的問題として、採り上げられねばならないものである。

前述する如き跛行現象の深化は、經濟界の安定を覆すに到る惧が大であるが故に、今にして之が對策を怠るならば、長期對戦の能力に於て、甚しき缺陷を生ずるのではないかと、懸念せざるを得ない。近衛首相の言ふ如く、目下は戦に勝つと云ふことが第一義であつて、その他は顧る必

要がないであらうが、併しながら、勝つがためには、今日の如き國家總動員による全國民的對戰を要求する時代に於ては、經濟界に跛行隙の多きことは、甚しく望ましからざる事柄である。過年の歐洲大戰當時に於ても、世界の參戰國中にあつて、かゝる跛行隙によつて、打撃を受けなかつた國は、日本と米國を除いて、殆どなかつたと云つても過言ではない。前車の覆へるを見て、後車の戒となす點から云へば、すでに我國に於て、之が對策の樹立に遺漏があつてはならない筈である。

戰局の進發に伴なつて、經濟界の安固性を、一層強化するがためには、軍需經濟と然らざるものとの間に生ずる跛行的間隙を充填するための、あらゆる方策が採用されねばならない。斯の如き方策は、一にして足らざる底のものではあるが、要は、一方の餘れるものを、資本も勞働も一括して、他方の足らざる方面へ移動せしめ、軍需の目的に副はしめると同時に、平和克朕の曉には、更に今一度舊に復するに、何等の困難もないように、按配することである。例へて言へば、軍需品工場では、日夜兼行勞働に服するものがあるにも拘らず、平和的商品を生産する工場では手を空くして徒遊する如きことが、あつてはならないのである。人手の餘剩を生ずる見込のある

産業界から、人手の不足を懸念さるゝ産業方面へ、支障なく勞働力の移動が行はれ得るように、勞働訓練を短期間に成就する、施設を完備せねばならないし、又勞働の移動に伴なつて、資本も亦、全部とまでは行かずとも、可及的多くの部分が、移行し得る如く、指導誘致する必要がある。即ち、國家全體經濟の均衡を、戰時的に變改すると同時に、平和の到來に際しては、之を最少のフリクションを以て舊に復するの用意を、忘れてはならない。かゝる對策にして樹立され得んか、我國經濟界の將來は、戰局の如何なる擴大にも順應して、缺陷なきを得るは明かである。

(昭和十二年十月號月報所載)

四十七 稅務思想の普及と稅務行政の民衆化

稅務についての苦情や紛争は稅務に對する一般納稅義務者の無理解と稅務行政の不合理に胚胎するものである。

國防の整備、生産力の擴充、全體主義的社會經濟政策の實施は、國費の膨脹を彌が上にも餘儀

なくせしめ、増税と公債の増發を必至ならしめる。而して非常時に於ける國費の膨脹は社會政策的租稅政策にも拘らず、屢々中小工業者に對しその擔稅力の貧弱なために、可なりの重壓となる。こゝに稅務當局の苦惱が存在する。これが調整の爲に拂ふ苦心と努力は充分諒察しなければならぬ。租稅に對する理解の徹底稅務思想の普及は租稅の明朗化の第一歩である。

又他方稅務行政の圓滑を期せんとすれば、稅務の局に當る者は心して民衆化を圖らねばならぬ。特に民衆と接觸する第一線にある人の穩和な態度が必要である。これによつて稅務に對する誤解を清掃する事が出来る。

本年も亦營業純益の決定期となつた。各稅務署より一齊に發送せられる收益決定額に對し、恒例によつて又苦情や紛争が繰返される事であらふ。納稅義務者に於いては異議申立は決して感情や意趣晴しであつては絶對にならない。國費多端なる時代の趨勢を洞察し適正なる納稅義務を明朗にはたさなければならぬ。(昭和十二年七月號商工經營所載)

四十八 商店法と商店員の生活向上

今回社會局が立案しました商店法は、主として物品販賣業に従事して居る商店員の保健衛生を目的としたものでありますが、立案の主旨は、工場法による工業従事員、殊に筋肉労働者の保護と、全く同じであります。社會政策の立場から見ますれば、商店員も労働者と同じに、取扱つて良いかも知れませんが、少しく掘り下げてその性質を吟味しますと、商店員と工場労働者とは全く違つたものであります。従つて、社會局の立案の主旨がどうであらうとも、商店法の實際の運用の上に於きましては、之を消極的にしないで、積極的に商店員の物質的世に精神的生活の向上を促がすように仕向けねばなりません。例へて申せば、午後十時に閉店せよと云ふ法律が出来たから、その時刻に店を閉めたら良いので、それ以上何も考へる必要がないと、云つた風の解釋をしないで、何故に十時に閉店せよと云ふのか、その規則の奥には、どう云ふ意味が匿されて居るのか、閉店時間と店員の物質的生活又は精神的生活とが、どんな因果關係を生み出すのか、そのやうな點にまで考へ及んで、商店員の生活向上を來たすようにせねばならないと思ひます。言ひ換へますならば、店主と店員間の醇風美俗が、商店法の成立を期として、一層助長されるように、心懸ける必要が痛感されるのであります。(昭和十二年八月號商工經營所載)

四十九 協同と繁榮

人は國家の一員として協同しながら、個人としては互に競争すると云ふ、矛盾した立場に置かれて来た、今日までの社會制度は、英國の有名な經濟學者であるアダム・スミスの謂ふように、公益と私利との調和を理想とするものであつたのですが、之が仲々六ヶ敷い事柄で、言ふは易くして行ふは難しの憾が多かつたのでした。

現在の日本のように、土地が狭く天然資源の乏しい國で、而も毎年百萬近い人口が増して居ては、生活のために、國內で競争が烈しくなつて、お互に暮しが苦しくなつて行くのは、洵に己むを得ない事ですが、之が解決を圖るには、三つの方法しかないであります。つまり、外地とか外國とかへ移住するのを奨励すること、國內の工業を盛にして輸出貿易を増して、外國から生活費を稼ぎ取ること、國內での同志打を止めて、お互に手を握り合つて、生活の保證の途を樹てること、この三つの方法しかないのです。そうして最も手近かな方法は三番目に言つた、協同の方法であります。この協同がうまく行けば、公益と私利が調和し、國家の一員としての人と、一個

人としての自分自身とが、何の矛盾もなく生活して行ける譯です。

商工省で奨励して居ります、商業組合の結成とか、大阪府でその發達に努力して居る、商事協同組合を作ること、中小商業者自身の自治的な繁榮策でありまして、商工省とか大阪府とかから勧められなくても、業者自身が進んで作らなければならぬ筈です。而もそれによつて、國民全體の一致協力の完全な姿が現はれ、非常時局にあつても、國家のために成ることが出来るのであります。世の中が段々六ヶ敷くなりますが、業者の自覺から生れる協同動作さうまく行きますれば、何の心配もなく繁榮が訪れて來ることゝ信じます。(昭和十二年九月號商工經營所載)

五十 商賣と法律

法律は人間の道徳的な行ひを規定したものであつて、道徳の歩む道と法律の行き方とは、全く同一であります。然るに世間の人々は多くの場合、法律と云へば、横車を押すものゝために、出來たもので、正直な人間はいつでも、法律を楯に悪い者からいぢめられて居るよう考へて居るようですが、之は大きな誤であります。

道德にも二種類ありまして、個人道德或は私的道德と社會道德或は公的道德の二つに分けることが出来ます。法律はこの二つの中の後者、即ち社會道德の方を規定したものであります。例へて申せば、人を殺すのは個人道德では絶対に許しませんが、社會道德では、言葉を換へて申せば法律では死刑を許して居ります。このように、社會全體の安寧とか秩序とかを保つためには、個人道德では考へられないことが、法律上では許されることがあります。そこで世間の普通の人々が考へて、ヒドイと思ふようなことが、法律の上で規定されて居ることが多々あるのであります。

商賣取引上の事で、當業者の間に争が起りますが、中には一方が悪意でした場合はとにかく、双方が善意でしながら、一方の者が考へて、個人道德上許されないと思はれることが、無罪となる場合があります。かゝる場合は、多く他の一方の權利主張に手落ちがあつた時に、起るのであります。即ち、社會道德的に考へて、他の一方が争に到るまでに自己の主張に忠實でなかつた、責任を負はせるのであります。法律に對する不平不満は、かゝる場合に生ずるのであります。従つて平常から、法律智識を持つことが、商賣人にとつても必要であります。

併し、商賣人が六法全書と首引きをして居る譯には行きませぬから、商工會議所でも商工相談所内に法律相談部を設けて、商工業界の方々のために、便宜を圖つて居る次第であります。どうか御遠慮なく御利用を願ひます。(昭和十二年十月號商工經營所載)

五十一 會計帳簿と營業の繁榮

我國に於て古くから用ひられて來た大福帳式記帳方法は、單式簿記中の最も單式的なもので、單純な日記帳に過ぎないのであります。併し徳川時代に於ても、複式原理による記帳式を、考案した人があつたのですが、とにかくに、我國では、複雑な原理を持つ記帳方法は、小賣商の大部分にとつては、過重の負擔でありますから、簡單で而も正確な單式簿記法が、少なくとも大福帳より數歩を進めた、仕譯が出来る記帳方法が、與えられましたならば、そうして小賣商の方々が、努めて、かゝる記帳を怠らないならば、營業の成績とその變遷を、一目瞭然たらしむることが出来て、商賣の繁昌が約束される筈であります。

何事を成し遂げるにも、事をなさんとする前に於ける、用意周到な計畫が必要であると同時

に、事柄の進行中に於ける變化を記録して、臨機應變の對策を考へ、成功を促進する方法を、採らなければならないと思ひます。小賣商の方々の中で、自己の營業に關して、科目別をして統計を採られる方があるかどうかを、私は疑ふのであります。少なくとも仕譯が出来るような、記帳法を採用されたならば、仕譯科目毎に統計曲線を作られて、その曲線の變化を見て、營業方針を種々研究されることが、必要であると信ずるのであります。此の點は、會計學の先生方も、あまり主張されて居ないように思はれるので、此の機會に、私は、統計曲線の作成をお勧めしたいのであります。

統計曲線の作り方は商工相談でお教えることが出来るので、お判りにならない方は、御遠慮なく御申出を願ひたい。併し、その前に、仕譯記帳法を充分御研究なすつて置く必要のあることは、申すまでもないことであります。(昭和十二年十一月號商工經營所載)

五十二 小店舗とその美裝

小賣業として最もその經營規模の大きな百貨店の店頭並に店内裝飾は、研究の上に研究が加え

られて、殆ど理想的な點まで發達して居ますが、小規模の小賣店の店頭乃至店内裝飾に至つては洵にその研究と工夫が幼稚で、之れでは百貨店との競争に於て絶對に太刀打の出来ないのも尤もだと、思はせるようなのが随分あります。勿論店舗の間口の狭い小店にあつては、思ふような裝飾が出来ないのは當然の事ですが、顧客を吸収する引力は、間口の大小よりも寧ろ裝飾の質の優劣による所が、大であると思はれます。従つて、間口の大小に頓着しないで、實質に於て効果ある店頭乃至店内裝飾の研究と工夫に、努力せねばならないと考へます。

讀者諸君は盆景の美麗な風光にうつとりとなれることと思はれますが、名人の作つた盆景はほんとうの景色よりもより以上に風景の美を、表はして居ります。あの小さい盆の上に造り出される人造風景が、えも言はれぬ美を表現すると云ふ事實を考えます時、私は小店舗經營の諸君が、百貨店も及ばない程の盆景的店舗美を造り出し得られない筈はないと信ずるのであります。若しそれが出来ないと思ふ方があつたとしたならば、私はそれは、その方の努力が足りないからだとお答えしたい。一般的に云つて、積極的に店舗美の表現方法を研究されて居る小店主は、その數が極めて少ないように聞いて居るのですが、それでは自己の業務に忠實でない譯ですから、

どうか全力を盡してこの方面の研究と工夫に努力せられんことを、切望して已まない次第であります。(昭和十二年十二月號商工經營所載)

五十三 新春所感

昭和の聖代も、茲に芽出度、十三年の春を迎え、南京陥落の感激未だ新なるの時、一入皇國の洋々たる前途を、祝福するの幸運を國民の一人として、深く感ずる次第であります。我國民の爲すべきことは、之れから益々多くなり、且つ愈々困難の度を加えるのでありますから、國際上の事も、國內的のことも、等しく國民全體が互に和衷協同して、處理して行かねばなりません。

我國民は、熱し易くして、而も醒めやすいと云ふ、缺點を持つて居ると云はれますが、私はこのような缺點よりも、平和の時代に於ては、意識的に和衷協同しない、傾向を多分に現はすと云ふような缺點こそ、本當に憂ふべき國民性の缺陷ではないかと、考へます。小賣商相互、卸商相互、或は卸商と小賣商相互の間の融和が、互助の尊い精神を、實踐して行くと云ふ美風が、周く行き互るならば、國際的にもいゝ影響を與えるばかりでなく、國內には勿論の事、經濟的平和の

春風が、吹き渡ることゝ信じます。

我國は、蝸牛角上の争、即ちかたつむりの角の上のような狭い所で、國民の一人々々が相互に、小競合をして居たのであつたが、支那大陸といふ、あの大きな舞臺を、手に入れた限りは、國內の小競合を止めて、大陸的な大きな度胸で、事に處する覺悟がなくてはならないと思ひます。支那の人には、就て學ぶべき幾多の長所があります。吾々は彼等の良き友として、彼等とも亦相俱に商賣の道を相携へて進んで行くと云ふ、雅量がなくては駄目です。我國内には多過ぎると云ふ小賣商の問題も大陸への進出を考へると、自から解決の途もつかうと云ふものです。新春と共に、氣宇を大にして、東亞大陸の民としての抱負を持ち、且つそれを實行しようではありませんか。(昭和十三年一月號商工經營所載)

五十四 經營と廣告

企業の經營に關する事項の中で、一番經營者の頭を悩ますものは廣告であります。尤も大資本企業にありましては、廣告に關しては案外氣樂な立場に立つことが出来ます。それは全く、廣告

費の支出が容易に出来るためであつて、廣告の効果とそれに要した費用との比較評價が、左程厳密でなくとも、すまされ得るだけの、餘地があるからですが、之に反して、小企業にありましては、最少の費用を以て、最多の効果を擧げなければならぬと云ふ、苦心の點があるので、本當に頭痛の種となる譯です。

殊に小賣業について觀察しますに、大企業形態を備えて居る百貨店では、顧客の分布が廣範圍であるために、思ひ切つた宣傳廣告が出来ますが、一般商店街の小賣業に於ては、大規模の廣告は無駄であり、さりとて極小規模の廣告では、効果がなし、中々良い工夫がつかないで困る實情にあります。之が對策としては、商店街の聯合廣告に依るの外はないと、考へます。併し、製造工業に於ては、顧客は販賣經路から見れば、間接的ですが、その分布は全國的であり品種によつては、世界的でありますから、従つて、需要に對する見込さえ樹てば、随分思ひ切つた廣告、少しは無謀とも見えるような宣傳が、大成功を齎す原因となることが多いのですから、費用調達の方法さえつくならば、大膽な方針を採るのが良いように思はれます。經營者の苦心が要求される譯ですが、そこに、併し乍ら、又楽しみも多いと、言へませう。

之を要するにです、如何なる企業の經營にも必要な、細心と大膽が廣告の操作上にも、要求されることがかかります。廣告宣傳は、今日では商賣についてはかりでなく、國際上の政治問題にまで、非常な重要性を持つようになりました點に顧みまして、私は皆様に此事に關して、深い研究をされんことを切望致します。(昭和十三年二月號商工經營所載)

五十五 納稅義務について

京都か何處か所ははつきりしないのですが、某憲法學者が、租稅を納めるのは、誰しも好まんと云つたとかで、その筋からお叱りを受けたと云ふ話を聞きましたが、素よりその話の眞疑の程は、確かではありませんが、とにかくこうゆう考へ方を持つ人が、日本に今もなほ少なからず居ると云ふことは、事實であらうと思ひます。自由主義的な又個人主義的な考へ方からしますれば、權利の主張はしても、義務を負ふことは一切お斷りと云ふのが、一番都合のよいことですから、租稅についても、同じ様な考へ方が行はれるのは、自然當然のことと思はれます。が併し、今日我國が非常時局に直面しまして、國運を賭けて戦つて居る際に、個人自由主義にかぶれて、國家

主義的な思想を排撃することは、君に忠であり、又同時に國を愛する所以ではありません。

吾々が毎日どうかその日を暮せるのも、國家の保護があるからであります。この國家組織を維持するために必要な費用を、國民のすべてのものが分擔すると云ふことは、當然の義務であり又國家の發展のために必要な經費については、それによつて國民のすべてが、その生活を向上發展せしめ得るとするならば、自から進んで献納を申出づべきであると信じます。吾々は、日本なる國を離れては、日本人としての誇に生きることは出来ません。従つて、日本國の向上發展、それはとりもなほさず國民各個人の向上發展である、その向上發展のために必要なる經費は、吾々は悦んで奉納すべきではありませんか。納税を嫌がるものは、忠君愛國の念に缺けるものでありと云つても、過言ではありません。勿論、租税賦課の方法の巧拙についての論議は差支ありませんが、進んで國費の負擔に任ずると云ふ、義務の念に瑕のつかぬように努めねばなりません。

(昭和十三年三月號商工經營所載)

五十六 小額金融に就て

中小商工業に對する金融問題の解決は多年の宿題であつて、商工省當局に於ても、一昨年商工中央金庫を設けて商工業者の組合に對する金融の道を計り、昨年度には中小商工業融通資金損失補償制度を設けて一般金融機關の中小金融に對する進出の道を作つたけれ共、夫れ等の制度が餘りに窮屈であつて吾々の希望する様な機能を發揮し得ない事は遺憾至極である。殊に小額の對個人資金融通に付ては前に述べた制度を以てしては絶対に其の効果を期待し得ない實狀である。此の點に鑑みて筆者は先年來對個人の無擔保無保證信用貸を使命する特殊金融機關を造る事を大藏、商工兩當局に進言してゐたが、幸に來年度から全額政府出資に依る資本金壹千萬圓の庶民金庫が設立される事になつたのは、小額金融を欲する方面にとつて非常な福音であると云ひ得よう。此の金庫は元々俸給生活者に對する金融を目的として計畫されたものであつたが、今回之に小商工業者に對する信用貸の金融機關たる職能を與へて、筆者が多年希望してゐた無擔保無保證金融機關たらしめたことは大いに満足するところである。此の金庫は資本金の十倍迄の債券を發行し得る規定であるので壹億圓に達する融通が出来る爲に窮迫せる方面の需要の一端を満たす事が出来ると思はれる。然しながら其の運用宜しきを得なければ折角の金融機關が其の目的を達し

得ない事になる惧れがあると同時に、金融を受ける方面に於ても無擔保無補償の貸付資金であるが故に其の返済に付て充分道義を重んじて完済を怠らない様にしなければならない。金融の難易は本来辨済能力殊に借受人の人格の如何によつて定まるものであるから借受人側の債務返済に對する態度の如何が斯かる金融機關の事業の成否を決するのである。此の點を特に借受人に對し希望して置きたい。(昭和十三年四月號商工經營所載)

五十七 中小商業振興策に就て

中小商業と云つても其範圍は明確ではないが今此處では中規模のものを除きて小規模の商業の振興策に就て論じて見たい。總ての企業がそうである様に小規模の商業に於ても、經營者自身の努力に依る振興策が一等有効であつて、他力本願的に外部からの振興助長を俟つてゐては何日になつても、振興の効果を期待することは出来ない。例へば、商業組合を作るとか、卸賣業者の後援を頼むとかして外部の力によつて自身の商業の繁昌を期待することは間違である。

勿論、商業組合とか、商事協同組合とかを作つて、同業者の協調と協力に依つて、無益の競争

をさけて、多數協同の力を利用することは、自己の營業の繁榮を助けるに有力なる作用を営むものである。又卸賣業者の後援を得ることも同様に有利な手段には相違ないけれ共、「天は自ら助くる者を助く」と云ふ西洋の教訓にある様に、經營者自らが自身の營業の繁榮に付て工夫を凝らし努力の限りを盡さなかつたならば、到底成功を收むることは出来ない。

従來小營業者に味方して其の振興を説く人々は、大營業の小營業に對する壓迫を論ずることが餘りに大に過ぎて、小營業者の努力の不足を指摘しない傾があるばかりでなく、業者自身も自己の努力の不足を願わないで、大營業の侵略を取上げて、喧しく説立る嫌がある。斯かる實狀に鑑て私は、小營業者自身の營業振興に關する工夫と努力の必要を強調して反省を促したいと思ふ。最近商工省小賣業改善調査委員會に於て、小賣業經營に關して某委員より報告があつたが、其中に、小賣業者の取扱商品に關する知識の缺乏と、自身の營業に對する理解と希望を持たないのが大多數であると述べて居る。此の報告に照しても業者自身の自覺奮勵が營業振興の第一要件であることが理解されると信ずる。(昭和十三年五月號商工經營所載)

五十八 中小輸出貿易業について

我國の産業界の特色は中小企業の分擔する割合が歐米諸大國に比し甚しく大である點に存すると言はれてゐるが米國の某學者の調査によると米國に於ても中小企業の占める産業界の重要性は我國に於て考へられる以上に大である事を示してゐる。従つて中小企業と大企業との磨擦問題若くは中小企業振興の問題は決して我國に限られたるものではない。然し我國の國富の小なるためと人口の過多によつて中小企業經營の深刻さが比較的大であるといふ特色を認めない譯には行かない。さり乍ら中小企業經營の妙味と言ふ點から考へるならば其の經營難を切抜けることは必ずしも困難ではない。

元來中小企業は經營者の興味をそのままに反映し得るものである故、我國の如く大規模生産物の輸出の可能性が種々の狀勢から制限を受けつゝある際、經營者の個人的獨創性を充分に發揮し得る中小工業の製品の輸出を中小貿易業者の手に依つて増進を期する事は國策の見地から言つても極めて有益な事業と言はねばならない。政府當局に於ても最近中小企業に依つて生産され輸出

される雜品について獎勵策を講ずる由なるが、之が獎勵策に就ては次の如き事を考慮する様希望する。

中小企業によつて生産され輸出される雜品を高級化と工藝化可能性の見地より之を數種に分類し、それ等の高級化と工藝化の成績に應じ階級的に獎勵金又は補助金を交付すること、經營者の獨創性を助長して新規製品の案出と國內用品の輸出向轉換を計らしむこと、中小輸出品製造業者並に輸出商の海外事情の視察を獎勵し之に相當の補助金を與ふること、其他幾多の助長策を積極的に考慮して生まれざる業者の地位を強化し、戰時體制下に於ける我國輸出貿易の發展を計るべきである。勿論當業者が之等の恩恵を恃んで自主的經營の努力をおしんではならない。

(昭和十三年六月號商工經營所載)

昭和十七年五月一日印
昭和十七年五月五日發行



竹堂經濟瑣談 奧付

定價金二圓二十錢

西宮市甲東園松籟莊

武者 田 鼎 一

東京市牛込區早稻田鶴卷町四三六

竹 內 淳 郎

東京市牛込區早稻田鶴卷町四〇五

守 田 芳 雄

印刷者

發行者

著者

東京市牛込區早稻田鶴卷町四三九

敬文堂書店

日本文化協會會員番號一〇九〇三七番

電話牛込(34)五七三五番

配給所

東京市神田區淡路町二ノ九番地

日本出版配給株式會社

(行印社會式株刷印田守)

945
11

終